

全日本大学ソフトボール連盟機関誌

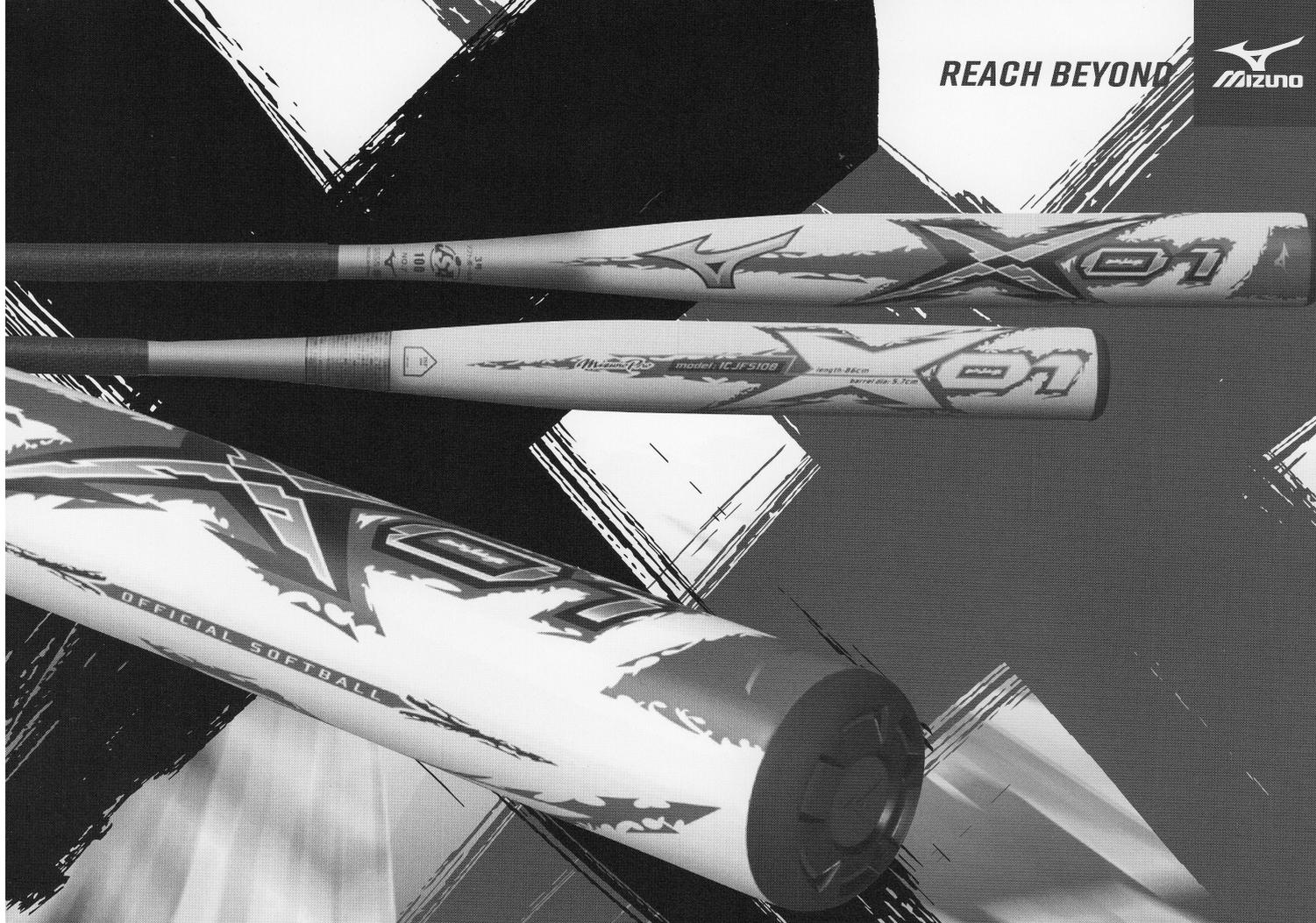
ウインドミル

第 22 号

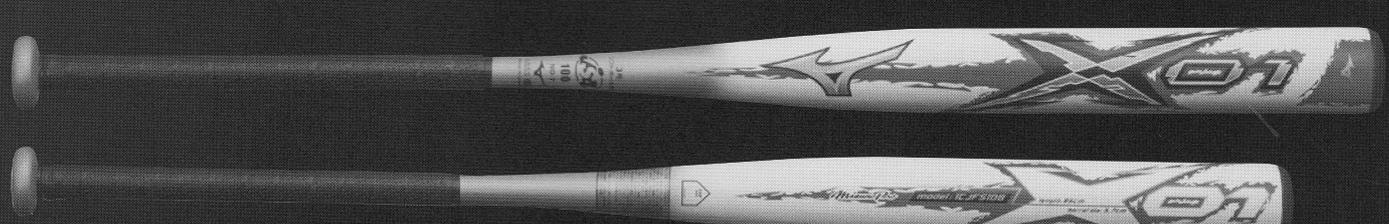


全日本大学ソフトボール連盟

REACH BEYOND



更に硬く、弾くような打感を追求した。X01!



ウラ面デザイン

エックス01【3号革・ゴムボール用】

本体価格 ¥45,000+税 ●RSカーボン+グラス ●φ57mm ●中国製

1CJFS10884	84cm	平均680g	ホワイト × ゴールド (01680)
1CJFS10884	84cm	平均710g	ホワイト × ゴールド (01710)
1CJFS10885	85cm	平均720g	ホワイト × ゴールド (01720)
1CJFS10886	86cm	平均730g	ホワイト × ゴールド (01730)

記載価格は、消費税抜きメーカー希望小売価格です。
mizuno.jp 0120-320-799



全日本大学ソフトボール連盟

ごあいさつ



全日本大学ソフトボール連盟会長
中野 元

学連機関誌「ウインドミル」第22号の発刊に当たりまして、ごあいさつを申し上げます。

平成30年度の諸行事は、皆さまのご協力とご支援のおかげをもちまして滞りなく無事終わることができました。特に、第53回全日本インカレは、石川県で、男子が小松市、女子が金沢市で開催され、開会式は男女合同で行われました。大会期間中は雨による一時中断があったものの決勝戦まで終わることができ、思い出に残る大会になりました。第54回大会からは、新たな事業展開として大会は拠点化されます。男子は富山市、女子は愛知県安城市です。全日本インカレは新しい歴史の一步をふみだします。未来に向かってさらに魅力ある大会へと大きく飛躍していくことを、心より期待しています。

大学のチーム、選手の活躍はいろんな面で注目されます。まず、男子では日本体育大学が全日本総合選手権で優勝という快挙を成し遂げました。また国際面では、男女ともアジアを中心とした大会で大いに活躍しその成果を残しました。こうした大学ソフトボール選手の活躍を通じて、その勢いが2020年の東京オリンピックの盛り上がりへと確実につなげられるよう念願しています。

大学を取り巻く環境も刻々と変化しています。特に、大学のスポーツクラブの運営やスポーツ庁によるUNIVAS構想など、新しい時代に対応した問題や課題がさまざまに提起されるようになりました。それに対応するためにも、学連機関誌はその役割をさらに高めることが求められています。この「ウインドミル」を通じて、魅力ある大学ソフトボールの発展を目指すとともに、新しい時代の問題解決のためによりいっそう活用されていくことを願っています。「ウインドミル」の寄稿・発行にご協力いただきました皆さま、関係各位に心より感謝申し上げます、ごあいさつといたします。

ウインドミル

第22号

目 次

ごあいさつ ●会長 中野 元	-----	1
〔巻頭言〕 ●「大学スポーツ」という経営資源を束ねる		
UNIVASへの期待	-----	4
副会長 丸山 悟（日本福祉大学）		
〔事業報告〕 ●平成30年度の事業報告と今後の活動方針	-----	5
理事長 久保田 豊司		
〔特別インタビュー〕		
●ソフトボール界からプロ野球の門をたたいて		
-大嶋匠選手（元・日本ハム）へのインタビュー-	-----	8
事務局長 森田 啓之（兵庫教育大学）		
〔特集〕 ●2018年国際大会	-----	
第10回アジア男子選手権大会	-----	10
第10回アジア男子ソフトボール選手権大会参加報告	-----	11
男子強化委員 柳田 信也（東京理科大学）		
第10回アジア男子学生選手権大会を終えて（選手の感想）	-----	13
第7回東アジアカップ	-----	21
今大会を振り返って	-----	22
チームリーダー 清水 正（山梨学院大学）		
第2回アジア大学ソフトボール選手権大会	-----	23
第2回アジア大学ソフトボール選手権大会を振り返って	-----	24
チームリーダー 岩間 英明（松本大学）		
第2回アジア大学ソフトボール選手権大会を終えて	-----	26
ヘッドコーチ 児玉 公正（大阪大谷大学）		
第2回アジア大学選手権大会を終えて（選手の感想）	-----	28
主催大会の記録 ●文部大臣杯第53回全日本大学男子選手権大会	-----	36
●文部大臣杯第53回全日本大学女子選手権大会	-----	47

共催大会の結果●第33回東日本大学選手権大会	-----	59
●第50回西日本大学選手権大会	-----	66
後援大会の結果●第19回「峠のまち」Matsuida Cup	-----	71
●第15回北信越大学オープンソフトボール大会	-----	72
●第10回HAKUBA CUP 大学女子ソフトボール大会	-----	73
●第49回関東大学男女ソフトボール選手権大会	-----	75
●藤原初男杯第10回		
全国大学・実業団対抗ソフトボール選抜大会	-----	77
全国大会の結果●第64回全日本総合男子選手権大会	-----	78
●第70回全日本総合女子選手権大会	-----	79
各地区の大会結果●北海道・東北地区		
春季大会	-----	80
選手権大会	-----	81
秋季大会	-----	82
●関東地区		
春季リーグ戦	-----	83
選手権大会	-----	85
秋季リーグ戦	-----	87
●北信越地区		
選手権大会	-----	89
新人選手権大会	-----	90
●東京地区		
春季リーグ戦	-----	91
出場枠決定戦・2次予選	-----	93
秋季リーグ戦	-----	95
●東海地区		
春季リーグ戦	-----	97
選手権大会	-----	101
秋季リーグ戦	-----	102
●近畿地区		
春季リーグ戦	-----	106
秋季リーグ戦	-----	111
●中国地区		
インカレ予選会	-----	117
選手権大会	-----	118
●四国地区		
インカレ予選会	-----	119
秋季大会	-----	120
●九州地区		
春季大会	-----	121
秋季大会	-----	122
資料●投稿規定・執筆要項	-----	123
●全日本大学ソフトボール連盟役員名簿	-----	124
●平成30年度加盟大学一覧	-----	126

【巻頭言】 「大学スポーツ」という経営資源を束ねるUNIVASへの期待

副会長 丸 山 悟（日本福祉大学）

個々の大学が大学のスポーツに「ヒト」、「モノ」、「カネ」、「情報」を投入（投資）している以上、「大学スポーツ」（高校までの学校スポーツやプロスポーツ、クラブ型スポーツと区別された、大学教育や大学公認の部活動として行われるスポーツ）は、今や二つの意味で“立派な”経営資源である。

スポーツが文化・教養面や専門分野の一つとして学びの対象となることは論を俟たない。また、学生が学びを継続・深化させていく上で、その基礎条件とも言える肉体的・精神的な「健康」（平静）状態を保つための、重要な行動手段の一つとなっていることも明確である。従って、スポーツを正課授業（カリキュラム）の中にしっかり据える必要がある。同時に、正課外の部活動の中で行われるスポーツでは、激しいトレーニングや切磋琢磨した練習・試合経験を積むことで、やり抜く力（意欲・忍耐力）や自信・協調性・誠実性といった、人間性教育に必要な非認知能力＝社会的・情動的な能力が大きく伸ばされることも広く認識されてきている。この中でも特に「やり抜く力」や「誠実性」は、認知能力である専門的な「学び」を深めていく上での内的な駆動力になっていることも分かってきている。つまり、大学におけるスポーツは、正課、正課外を問わず、極めて教育的価値の大きいもので、この取組みの全体を適切にマネー

ジ（＝「経営」）することが求められている。しかも今は、大学は極めて厳しい競争的環境下であり、スポーツは大学の認知度向上（マーケティング）やイメージアップ（ブランディング）に貢献する「資産」として高い価値を持つものになってきている。投資のボリュームも大きい。スポーツの持つ全体的な教育効果や成果を見る意味でも、大学の存続や発展に関わる投資効果（コストパフォーマンス）を計測する狭義の経営・財務管理の点でも、大学スポーツ全般を経営資源として位置づけ、マネージすることが重要になっているのである。

では、以上を踏まえて、重要性が増している今日的な経営課題は何か？

一つは、「行き過ぎ」を回避すること、二つ目は、教育における情動的価値を過度に“情動的に”（情にほだされて）評価しないこと（比較可能なアセスメント指標を持つこと）、最後の三つ目は、より効果的・効率的なマーケティングができるようにすることである。

最初の「行き過ぎ」回避とは、経営資源の過剰投資を回避したい意図を含むが、より重要なことは、行き過ぎて怪我やハラスメントなどの危害に及ばない「安全・安心」を担保する、保険や指導者教育を含む総合的な措置を講ずることを言う。二つ目のスポーツの教育的効果を高める課題については、トップアスリートの育成

という国策的課題に答えることを含めて、指導法・練習法の刷新が必要となるが、成功事例から学ぶことや「研究」の進化が必要であり、「教育」という枠組みに拘った「共同」が欠かせない。同時に、「大学スポーツ」のカテゴリーを定めて、しっかりとした倫理意識と規範の下に、異次元の「スポーツ」を交じり込ませないコントロールが重要になる。三つ目の効果的・効率的マーケティングのためには、スポーツマネジメントの専門性ととも、資金力や組織力をベースにした、「舞台演出」を含む高いプロデュース能力が必要となる。この三つは、相互に密接に関連している。

ここにおいて、本年(2019年)3月誕生の「大学スポーツ協会」(UNIVAS)の存在意義がくっきりと現れてくる。

私は、競技スポーツとしての「大学スポーツ」の魅力は「高潔性」にある、と考えている。最高学府である大学に通う人たち、多様な進路を考えながら、地域の「知」の拠点の役割を果たす「学び舎」に集い、学びつつ多様な活動をしている学生たちが取組むスポーツとして、あらゆる意味で真摯で挑戦的な試みをするものであってほしい、と思っている。

この「高潔性」を貫き、「大学スポーツ」の魅力を引き立て、価値を高め世に「流通」させて、各大学スポーツの存続を支えるコントロールタワーの役割を、UNIVASには果たしてもらいたいと思う。

UNIVASよ、意気揚々と立て!

【事業報告】 平成30年度の事業報告と今後の活動方針

理事長 久保田 豊 司 (大阪国際大学)

本連盟の主催事業である「文部科学大臣杯第53回全日本大学男女ソフトボール選手権大会」は、石川県協会のご協力のもと、男子は小松市スカイパークこまつ翼、女子は金沢市専光寺ソフトボール場で実施されました。小松市は、加賀前田家三代利常公によってもたらされた茶道をはじめ、華道、曳山子供歌舞伎など伝統的な文化が今に受け継がれており、絹織物や丸谷焼

などの伝統産業、建設機械や情報機器に代表される近代産業にも恵まれたまちであります。金沢市は、藩祖前田利家から明治の廃藩置県にいたるまで、加賀藩前田家十四代の城下町として発展しました。城のまわりに形成された武士のまち、活気あふれる商人のまち、城下を守るように配された寺のまちなど、城下町の風情が今も残り、日本の文化が美しく息づいているまち

であります。

試合は男女共に日本体育大学が、男子は2年連続30回目、女子は14年ぶり19回目の優勝を飾りました。男子の準優勝には早稲田大学、3位には中京学院大学と国士舘大学が、女子の準優勝には園田学園女子大学、3位には東北福祉大学と東京女子体育大学が入賞しました。優勝チームには、チャンピオンエンブレムをユニホームの袖に付けてプレーする権利が与えられ、優勝チームとしての名誉は基より、連盟の模範チーム、選手としての活動、さらにはソフトボール競技の普及、発展への活動等、リーダーとしての多くの期待が込められています。

共催している東日本・西日本大学選手権大会は、東日本男子は富山県富山市、女子は東京都町田市で開催され、男子は国士舘大学が女子は日本体育大学が優勝しました。西日本男子は高知県高知市の開催予定でしたが、雨天のため残念ながら大会は中止となりました。女子は徳島県徳島市で開催され、園田学園女子大学が2年連続の頂点に立ちました。また、後援大会についても各大会と同様に雨に悩まされ2つの大会は中止となりましたが、関東・北信越・東海・近畿の4つの地区で8大会が開催されました。これらは、大学ソフトボールのレベルアップや底辺拡大に役立ててもらったためのものであり、各種大会において確実にその成果はあがっています。

国際関係では、男子は昨年度より持ち越された第10回アジア男子ソフトボール選手権大会が開催され、強豪国のフィリピン、大会で勢いに乗ったシンガポールを破り全勝で見事な優勝を

成し遂げました。女子は、第7回東アジアカップ女子ソフトボール大会と第2回アジア大学ソフトボール選手権大会に出場しました。東アジアカップは、全勝で予選リーグを突破し、決勝トーナメント初戦で台湾に敗れましたが、決勝では雪辱を果たし優勝を勝ち取りました。アジア大学選手権は、予選リーグは全勝でしたが、決勝トーナメントでは中国・台湾に惜敗し3位の戦績でありました。本連盟は、これからも積極的に国際大会に参加する予定です。

本連盟の今後の活動方針としては、大学ソフトボール界を今まで以上に発展させるべく、競技人口の拡大・競技力の向上・知名度の向上を目指しています。そのために、全日本大学選手権大会の開催について、平成31年度より新たな展開を致します。これまでの各地区での開催から、「大学ソフトボールのブランド構築」「選手が憧れる舞台の創出」のために、5年間の拠点化として男子は富山県富山市、女子は愛知県安城市で開催します。さらに、男女共に普及・強化・交流（国際）をキーワードに事業を立ち上げ展開したいと考えています。

最後になりましたが、本連盟の主催・共催・後援大会の開催にあたっては(公財)日本ソフトボール協会、また各地の都道府県協会をはじめ多くの関係者のご支援のおかげであります。この場をお借りして厚くお礼を申し上げます。次年度の事業においても、本年度の反省を踏まえ大学連盟は、より一層の発展のために全力で取り組む所存であります。今後とも、関係者の皆さまの絶大なるご支援・ご尽力をお願い申し上げます。

【特別インタビュー】 ソフトボール界からプロ野球の門をたたいて -大嶋匠選手（元.日本ハム）へのインタビュー-

この度、昨年10月にプロ野球から引退した大嶋匠選手に、久保田理事長とともにインタビューをする機会を得ることができた。ソフトボール経験者として初めてプロ野球の世界に飛び込んだプレイヤーとして、今どのようなことを感じ考えているのかについて語ってもらった。

[プロフィール]

新島学園中学校（群馬県）からソフトボールを始め、新島学園高校時代には高校総体、国体で優勝。その後は、早稲田大学に進学し、2008年にはU-19日本代表の四番打者として国際大会（世界男子ジュニア選手権大会）で3位、及び東京都大学リーグや全日本大学選手権においても輝かしい実績を残した。3年生の後半からは硬式野球の道を意識し始め、4年生から社会人野球チームのセガサミーで練習を積むようになる。そして、2011年10月27日に行われたプロ野球ドラフト会議で、北海道日本ハムファイターズから7位指名を受けて入団。2012～2018年の7年間、プロ野球選手として過ごした。

《森田》7年間のプロ野球生活、お疲れ様でした。さっそくですが、ソフトボールと野球の違い（技術的なこと、文化的なことなど）、あるいはソフトボールから野球に転向した際に感じたことなどについてお話しただけならと思っています。

《大嶋》そうですね。正直なところ、ソフトボールから野球に変わってスムーズに移行できたものは何一つなかったです。プロ野球というレベル自体の高さが問題というのがありますが、まず、野球を一日中したという経験がないですよね。入団してすぐにキャンプインして朝から晩まで練習。キャンプが終わってシーズンインしてからも10月終わりまで、ほぼ毎日試合がありました。大学時代までソフトボールを一日中やったことはないで

全日本学連事務局長 森田啓之（兵庫教育大学）

すし、さらに大学生なら全日本インカレや全日本総合、国体といったメインのいくつかの大事な試合があり、そこに向けて心身ともに「山（ピーク）作り」をしていけましたが、プロ野球ではほぼ毎日試合で、それを一年間通して維持していくことは本当に見つかったです。

《森田》解説者が、シーズン序盤に高校・大学野球のトップ選手が活躍している姿を見て、「これが1年間キープできていければいいのですが…」とよく話しています。私たちには全く実感できないことですが、一年間の勝負に耐えうる体づくりとコンディショニングは本当に大変なのでしょうね。

では、私が最も興味があることを質問させてください。それはバッティングでして、ソフトボールのから野球にスムーズに適応していけましたか。例えば、1年目の大嶋さんはどんな感じでしたか。

《大嶋》1年目は全くでしたね。今だから色々説明できますが、当時は自分が動いている時の感じ・感覚を言葉にすらできなかったのも、コーチにも説明できませんでした。もちろん、それに加えて基礎的な体力も筋力も足りなかったのも、技術の前に問題があったのは実際のところですけどね。

《森田》ソフトボールと野球は投手間距離が違うことが大きい訳ですが、「間（タイミング）の取り方」などは違いましたか。どちらが難しいと思われませんか。

《大嶋》ソフトと野球でどちらが難しい/難しくないではなく、全く別物と考えた方がいいと思います。

《森田》そこに慣れてきたのは、だいたいいつ頃ですか、新しい体の使い方がわかってきたのは。

《大嶋》プロ野球としてのバッティングに慣れてきたのは3年目か4年目になって、何となく分か

ってきたという感じです。というよりも、ちゃんと出始めたのが4年目くらいからですからね。

《森田》次に、捕手という視点からはどうですか。

《大嶋》全然違います。大学では投手はたいてい学年に一人、多くて二人ですが、球団に投手は30数人いて、それぞれの投手に応じたサインと出し方があります。さらに、野球では守備シフトのサインもあって、それらを全部覚えなければなりません。もちろん攻撃のサインについてもです。

《森田》いま学校や教育の場では両者はベースボール型として括られています。共通性みたいなものは感じましたか、いいこと、そうでないこと含めて。

《大嶋》うーん。

《森田》物の考え方とか、集団としての行動の仕方とかはどうですか。もちろん学生とプロという違いはあると思いますが……少し表現を変えて言うと、ずっと野球やってきた人とソフトをやってきた大嶋さんの共通性みたいなものはありましたか。

《大嶋》それはあまりなかった。そういう意識では見ていなかったですね。両方を比較して捉えても、あまり繋がるものはないかなと思います。先ほども言いましたが、両者はまさに別競技として考えるべきではないかと。ソフトにはソフト独自の技術、野球には野球独自の技術があるかなと思います。

《森田》少し話を変えますね。世間では、運動部活動の練習時間のことが大きく話題になっていますが、ベースボール型の練習時間などについてお話ししてもらえますか。

《大嶋》私はファイターズのことしか知らないのですが、日本ハムの練習はすごく短いです。キャンプでは全体練習は午前中の2時間半程度、午後は個人練習を個別にやるわけで、休む人は休むし、やりたい人がやるというスタイルです。選手による個人差は当然あります。

《森田》プロ野球の世界は確実に合理的になっているということですね。その考え方が青少年のス

ポーツ指導にも良い波及効果を及ぼしてほしいですね。

《久保田》私は野球経験者なのですが、日頃の指導は女子の指導をしています。今年度のアジア男子選手権に大学生チームが派遣された際にリーダー的立場で、初めて男子ソフトを継続的に体感しました。今までインカレ等で試合は見ていたがね。その中で女子と男子ではソフトボールの様態が全く違うことを認識しました。その一つがパワー・スピードです。先ほど、野球とソフトでは全く競技が異なるという話がありましたが、野球とソフトではパワー・スピードという点で何が違うと思われませんか。

《大嶋》逆に僕は、ソフトはバッティングに関してパワー・スピードはないかなあとも。特にソフトはバットが良いので、バットの性能でかなりの飛距離が出ますしね。今は規制が入って少し飛ばなくなっていますが、私が大学生の頃は無茶苦茶飛びましたからね（笑）。

《久保田》ということは、木のバットで飛ばすのは相当な技術とパワーが必要ということですかね。ただ、代表大学生のスイングを見ていると、彼らに硬式ボールを打たせたらどれくらい飛ぶだろうかという想像みたいなものも膨らむわけですね。男子では90mくらい飛ばしますよね。

《大嶋》確かにフリーバッティング程度では気持ちよく打てると思います。ただ、プロ野球でもそうですが、そこに変化球を混ぜられたら、そう気持ちよくは打てなくなりますよね。

《久保田》ソフトボールでも変化球、「動くボール」という表現が使われるようになっていますが……変化の度合いは違いますか。

《大嶋》野球の方が変化の幅が大きい気がします。ソフトは上下か奥行きが中心で、上の変化のライズボールは振らなければほとんどボールです。野球は、縦割れ、スライダー、ツーシームというように変化の種類が多く、それが野球のバッティングの難しさかと思います。

《久保田》ところで、大学4年の時にセガサミーに練習に行りましたが、その前後で変わったこ

とはありましたか。

《大嶋》セガの方々に大変可愛がっていただき、色々練習の仕方やバッティングに関するアドバイスをもらえました。それを意識して打つことで、実際に13試合連続ホームランも出ましたね。

《久保田》どんなアドバイス？

《大嶋》僕は左バッターですが、押し込む側の左手が弱いことを指摘されて、そのための練習を徹底的にしました。

《久保田》セガでの練習やトレーニングは「スポーツ科学」という視点ではどんな感想を持ちましたか。

《大嶋》とにかくトレーニングの選択肢の多さに驚きました。例えば、大学生の私なら、筋トレといえば大まかですが、セガサミーではたくさんのメニューがあって、楽しんでやれました。

《久保田》それを早稲田でも試したかな。反応は？

《大嶋》「こんなことをやってたよ」と仲間には伝えました。ただ、「絶対それが良い」という言い方はしませんでした。選択肢は多くあった上で、ひとまずやってみるといふ姿勢は大事かもしれませんね。

《久保田》話を少し戻して、ソフトボールでは内野守備はスピードが不可欠ですが、野球においてソフトをやっていたことが活かしたことはありますか。

《大嶋》捕手なので、バント処理、特に一歩目の速さくらいですかね、それが唯一かな。その他の動きは全然違います。投手の球筋が違う。スローイングも違う。ソフトではブロッキングしたことはなかったです。さらに、ミットも違いました。

《久保田》最近、子供が減ってきて、種目間で取り合いになっていますが、私は子どもの頃は様々なスポーツに触れさせることが必要と考えています。ちなみに、ソフトの良いところは、野球の良いところをどうアピールしたらよいでしょうかね。

《大嶋》そうですね。サッカーもプロはありますが、野球が一番人気のプロスポーツであり、かつ

将来的なこと（給料など）に関しても夢があるのは特徴的です。一方で、ソフトが良いなあと思うのは、「生涯スポーツ」として捉えると、一生通じてできるスポーツだということです。学校期が終わったとしても、社会人、壮年、実年と歳をとってもできる体制や環境が整っていることです。野球に比べると、手軽に選択・入っていかれるかもしれません。

《久保田》日本ハムなどは選手の育成がうまいとよく言われていますが、どう思いますか。先ほどの「自分の練習をする時間が設けられている」ということと関係しますが、日本ハムでは「時間を与えてくれる」、「疑問に答えてくれる」のどちらですかね。

《大嶋》両方ですね。ファイターズでは、コーチからはあれこれ提示されません。自分で練習を組まないと先に進めません。コーチは、聞いて初めてアドバイスしてくれる存在です。

《久保田》最後に、セカンドキャリアということに関して聞かせてください。

《大嶋》縁あってファイターズにお世話になったので、そこで成功しなければ意味がないと思っていたので、引退と同時に野球界からは離れようと決心しました。ただ、自分がなぜプロ野球選手になれたのかと考えた時、ソフトボールでの10年間の経験が評価されたのもあるでしょうから、これからは私の個人的な経験を何らかの形でソフトボール界に還元できればいいなと思っています。幸い、高崎市役所でプレーすることも決まりました。

《久保田》ソフトボールから野球に、そして今度はソフトボールに復帰という非常に興味深い経験をされます。また機会があれば、今度はソフトに戻ってきての感覚や感じについて聞かせてくれることを期待します。

《大嶋》はい。すでに、ソフトのバットが軽すぎて、その感覚に慣れるのにまた一苦労です（笑）。

《森田・久保田》本当に今日は貴重な時間をいただき、ありがとうございました。ますますのご活躍を！

【特集】 2018年国際大会 第10回 アジア男子選手権大会

会期：4月23日(月)～4月28日(土)

会場：インドネシア・ジャカルタ

出場選手・スタッフ

No.	守備	氏名	所属名
1	投手	糸数昌太郎	環太平洋大学
2	〃	小山 玲央	日本体育大学
3	〃	酒井 匠	日本体育大学
4	〃	豊本 翔貴	日本体育大学
5	〃	メンズ・ジェラン秀吉	日本体育大学
6	捕手	上田 郁也	日本体育大学
7	〃	調 和政	日本体育大学
8	一塁手	竹森 歩夢	日本体育大学
9	二塁手	川上 卓也	早稲田大学
10	三塁手	櫻庭 佑輔	日本体育大学
11	遊撃手	廣寄 龍也	日本体育大学
12	〃	八角光太郎	国士舘大学

13	外野手	池田泰一朗	日本体育大学
14	〃	瓦口 昂弥	九州産業大学
15	〃	芝 聖	神戸学院大学
16	〃	中島 優人	国士舘大学
17	〃	横山 翔大	国士舘大学

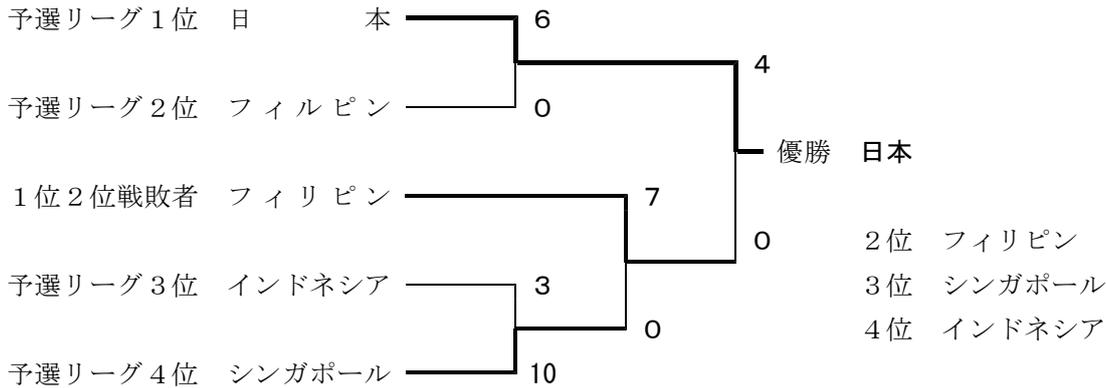
No.	役職	氏名	所属
1	チームリーダー	岡本 友章	日本協会
2	ヘッドコーチ	久保田豊司	大阪国際大学
3	アシスタントコーチ	柳田 信也	東京理科大学
4	アシスタントコーチ・総務	伊勢 幸広	高知工科大学
5	トレーナー	田岡 幸一	Body Laboratory
6	審判員	松田 尚也	日本協会
7	審判員	三宅 孝治	日本協会

予選リーグ戦

出場国	TPE	HKG	JPN	ING	INA	MAS	PHI	SIN	THA	勝	敗	順
台湾	○	○	●	○	●	○	●	●	○	4	4	5
香港	●	○	●	○	●	○	●	●	●	2	6	8
日本	○	○	○	○	○	○	○	○	○	8	0	1
インド	●	●	●	○	●	●	●	●	○	1	7	9
インドネシア	○	○	●	○	○	○	●	○	●	5	3	3
マレーシア	●	●	●	○	●	○	●	●	○	2	6	7
フィリピン	○	○	●	○	○	○	○	○	○	7	1	2
シンガポール	○	○	●	○	●	○	●	○	○	5	3	4
タイ	●	○	●	●	○	●	●	●	○	2	6	6

※3位・4位は直接対決の結果で順位を決定 ※6位～8位は3チーム間の対戦失点数で順位を決定

決勝トーナメント



第10回アジア男子ソフトボール選手権大会参加報告

柳田 信也 (大会アシスタントコーチ・男子強化委員)

【全体的な成果】

今般、標記大会に全日本大学男子選抜チームが派遣され、予選リーグおよび決勝トーナメントを通して全勝で優勝を飾ることができた。今回は、TOPカテゴリーの大会ながら、選手強化・育成の観点から大学選抜の派遣となったが、世界選手権の予選を兼ねるといふ重責を担いながらも、他国を圧倒する競技力を示すことができたと思われる。大会全体を通しての印象としては、アジア各国において男子の普及が進みつつあると感じられた。特に各国ともに非常に若い世代が代表選手に名を連ねており、将来を見据えたTOPチーム強化の姿勢がみられたことは、今後のアジアにおける男子ソフトボールの発展に大きな期待が寄せられている事実であるように思われる。一方で、カテゴリーを下げた参加した日本チームであるが予選リーグでは全試合コールド勝ちを収めるなど、競技力が突出している印象は否めず、日本が積極的にアジア諸国に強化・普及活動を展開していく必要性も強く感じられた大会であった。

このアジアへの強化・普及という観点からみても、今回の派遣チームがTOPやU-19代表ではなく、大学選抜であった意義は大きいと考えられる。教員をはじめとした指導者層を輩出する役割のある大学がこれらの地域に対して、今後の有効的な交流関係を築いていくことは極めて重要である。今

大会においても、同ホテルに滞在していたインドチームに対して技術指導をホテル内で行ったり、チャイニーズ・タイペイや香港、インドネシアの選手たちと意見交換を行ったりするなど、積極的な交流が見られたことは今回の大学選抜チーム派遣の有益性を高めるものとなったと考えられる。また、インドネシア代表チームのコーチングスタッフ（元オーストラリア代表 Zenon Winters氏、元ニュージーランド代表 Ethan Johnston氏）に積極的に質問に行く姿もみられ、派遣された大学生諸君も自己研鑽を忘れない様子も見受けられた。また、香港やマレーシア、タイ代表チームには、各国トップクラスの大学に通う大学生や、大学教員が含まれていることが試合後の交流で分かり、全日本大学男子選抜チームスタッフである大学教職員と今後のソフトボール・学術交流の約束ができたことも非常に大きな成果であったと思われる。以上のような成果は、大学生および大学教職員が派遣されたがゆえの結果であるものも多く、TOPやU-19の派遣とともに大学カテゴリーの海外派遣もぜひ常設的に継続していくよう要望したい。また、出国に際し、2名の選手がパスポート残存期間不足で渡航できないという事態が起きた。関係各位には、今後の対策と再発防止を強くお願いしたい。

〔参加国の現状〕

アジアの中で日本に次ぐ強豪と考えられてきたフィリピンは、確かに決勝まで勝ち上がる実力を発揮したものの、過去の大会の実績や以前の派遣スタッフから集めていた情報ほどの脅威を感じることはなかった。全体的に強化が進んでいるとは感じられない。しかし、依然として強打者や好投手が存在し、試合に対する集中力が高まった状態であると想像以上の実力を発揮するポテンシャルを感じた。

事前の情報よりもチームとしての力が高く、驚かされたのはシンガポールチームであった。予選リーグでは日本戦にエースピッチャーが投入されなかったため、圧勝することができたが、他国との対戦を見る限り、投手を中心としたディフェンス力は想像以上に高いレベルにあり、決勝を戦ってもおかしくないチームであったと思われる。特に内野手のフィールディングは、アメリカ的な動きをするフィリピンなどと比して、日本人的な脚の運びやボールハンドリングであると感じ、安定感がみられた。若く、身体能力の高い投手も存在し、今後の発展が期待されるチームであると思われる。

インドネシアは、過去に2度、日本の大学に遠征してきたことがあるが、ほとんどのメンバーが若手にシフトしており、前出の世界を知るコーチングスタッフによって、レベルの高いソフトボール指導が展開されることが予想され、成長が期待される。しかし、オリンピックの影響でソフトボールと野球を兼任していた多くの選手が野球に専念するようになってきているという心配な声も聞こえてきた。

先日行われたU-19アジア男子選手権でも日本チームと熱戦を展開したインドは、TOPカテゴリーの強化は進んでいないものの、優秀なクリケット選手が多数いる国でもあり、投手と守備力の向上によって無限の可能性を秘めているチームであると思われる。実際に現在、ジュニアのカテゴリーの強化・育成に力を入れ始めており、今後の展開に期待したい。インドチームのスタッフから国内の現状を伺ったところ、普及の足かせとなっているのは用具の不足であると切実に訴えられた。こ

の点は、全日本大学連盟で協力をすることが可能であると考えられ、交流を深めていきたい。特に数学やITに強い国であるため、日本の大学との多角的な関係の構築が期待される国である。

香港チームは、過去数年にわたり、香川県に遠征をしており、日本にも旧知の関係者が多いようである。注目すべき点は、中国と陸続きであり、香港チームスタッフは中国南部の少年にソフトボールを普及する活動を行っているという情報を得たことである。ぜひ今後も交流を深めていきたい。

〔本大会から見た今後の課題〕

これまで述べたように多くの成果があった今回の全日本大学男子選抜チームの派遣であるが、そこから今後のアジア地域への普及と育成、強化に対する課題がみつかった。

①交流のための言語

各国スタッフ、選手ともに非常に英語が堪能なメンバーが多かった。ほとんどの国のスタッフが英語でコミュニケーションを図ることができている。香港チームのスタッフから、「日本人にもっと教わりたいし、日本にも行きたいが言葉の問題がある」とコメントをもらったのが印象的であった。すぐに変えることは難しいが、スタッフや選手の国際化はアジアソフトボール界の盟主である日本にとって、アジア地域のソフトボール発展のためには必須なのかもしれない。国際コーチなどの資格を作るなど、国際化を推進できる人材の育成が望まれる。

②アジアの中心となる国への普及

アジアにおいて大規模な大会を開催する上で、中国と韓国の力を無視することができないと感じている。本大会にも両国は参加しておらず、代表チームを組むまでの普及や育成の働きかけを継続する必要性を感じる。中国、韓国の強化は、ひいてはライバル関係としての日本の強化につながると予想される。

〔岡本団長からの総括〕

1) 大会の感想

今回、アジア男子選手権大会のチームリーダーとして帯同させていただき、大変勉強になった。

本大会は試合開始が8時と非常に早く、試合中の雨天中断も多くあり、大変厳しい大会であった。また、試合以外の生活においても、コインランドリーもなく、スタッフ、選手は手洗いで洗濯をするなど大変厳しい環境であったが、期待どおり優勝することができた。

2) 役員として

開催国インドネシア協会会長のAndika氏とアジア連盟副会長・マレーシア協会のSee氏は、非常に男子ソフトボールに対しての熱意があり、これからのアジアソフトボールの発展が期待される。また、インドネシアソフトボール協会は、Andika氏が会長となり、非常に環境などがよくなったとの周辺の委員からの声が聞こえた。Andika氏は、アメリカで開催されている、男子ソフトボールリーグチームのオーナーでもあり、ソフトボールに

対して非常に熱意が高かった。毎年、インドネシアでは10月に大きなソフトボールイベントを開催している。

2019年の大会では、日本チーム（大学選抜やリーグ単独チームでもOK）の参加を熱望していた。

3) 他国の意見

現在のアジア選手権大会は、日本チームのみが強豪で他国を圧倒している状況のため、それでは大会の活性化のために、ぜひ継続的に参加してアジアのレベルアップを図ってほしいとのことであった。

[謝辞]

本会のアジア選手権大会への全日本大学選抜チームの派遣に際し、さまざまな方々のお力添えをいただきました。ここに記して深く御礼申し上げます。

第10回アジア男子学選手権大会を終えて（選手の感想）

主将・日本体育大学 池田泰一朗

まず初めに今大会に関係して下さった全ての人に感謝申し上げます。そして日本ソフトボール協会はじめ、全日本大学ソフトボール連盟の方々にもたくさんのご支援をいただき無事に優勝できたことを誇りに感じます。日本代表でキャプテンを務めさせていただき、個人的には人としてすごく大きな経験をさせていただいたと感じています。あれだけのポテンシャルが高い選手の中で、いかに自分の取り組む姿勢や、試合にむけての準備の仕方、指導者の方やトレーナーの方、そして選手たちとの対話の仕方、全てにおいて自チームでキャプテンをしているにも関わらず、まだまだ自分の力不足を感じることができ素晴らしい経験をさせていただいた傍らで、自分自身の足りないところもたくさん教えられたような気がしています。ナゴヤドームの時にも言わせていただいたように、日本のソフトボールはここからが始まりです。ここで満足しているようでは決して上にはいきません。まだまだたくさん問題があり、これではいけないと思うことは多々あります。しかし、裏

を返せば男子ソフトボールという競技の伸びしろはこんなものではないはずです。それを今回の大会を経験させていただいたメンバーが先頭に立ち模範にならなければなりません。それができるメンバーだったと心から感じているので、これからの男子ソフトボールに期待し、ご支援ご声援の方、今まで以上にさせていただけると嬉しいです。最後になりますが2020年東京オリンピックや、その先のソフトボール界の発展を祈って今回のアジア選手権の報告書とさせていただきます。

環太平洋大学 糸数昌太郎

今回私は、ソフトボールの大学選抜(日本代表)としてインドネシアで行われる、第10回アジアソフトボール選手権大会に参加しました。

大会前、出発前はコンディショニングを整えることに集中しました。大会に臨むにあたってどのようなモチベーションを保つか意識しました。また、体のケアを忘れないようにしていました。初めて日本代表になったので周りの目も変化していましたので普段の行動も手本となるように心がけ

ました。環境に慣れることが大変でした。気候は、とても暑く雨も多く降るので体力がすぐなくなります。食材がとても辛く体に合わないものだらけでした。2日目くらいから慣れ始めたくらいです。洗濯も手洗い部屋干しで、生乾きで試合も行っていました。特に言語の壁が大変でした。伝えたいことが伝わらなくて、ジェスチャーを取り入れましたが、一朝一夕で補えるものではありませんでした。暑さでの体力の低下があったので多くの汗を流すようにしました。大会は予選8試合すべてコールド勝ち、そして決勝も6-0と快勝で優勝することが出来ました。私自身も四試合、四イニング無失点で抑えることが出来とてもよかったです。いい経験になりました。

この選抜チームは、結成して1か月位の急造チームでしたが最終日には仲良くなりきずなが深まっていました。

今回は、この経験は今後必ず生きてきますので、今回学んだことを忘れずにしたいです。また、選抜の試合があればどんどん参加したい。とても良い遠征になりました。日本協会、監督、コーチその他の皆さまありがとうございました

日本体育大学 小山 玲央

この度、全日本大学男子選抜チームに選出されました。日本代表の招集としてはU-19と合わせて2回目で様々な経験をすることができました。

チームの始まりは、雨の中での選考会でした。自分の思い通りのプレーができずに、代表に選ばれるか不安でした。代表に選ばれた時は、安心しました。そこからチーム全体で集まって練習できないまま名古屋ドームでのリーグ選抜とのエキシビジョンマッチを迎えました。TOPの日本代表が数多くいるリーグ選抜に先発投手として出場しました。初回、日本代表4番である松田光さんから三振を取ることができ、その後もヒットを打たれることなく2回無失点で次の投手に継ぐことができました。試合は負けてしまったのですが、個人としては良い結果でした。次の日に東日本リーグの日本エコシステムと試合を行ったのですが、その日までチーム全体で集まって練習もできていなかったのが連携ミスなどが目立っていました。

こんな状態のままアジア選手権大会本番を迎えました。大事な初戦はインドでした。この試合も先発で起用していただき2回無失点で抑えることができました。チームとしてもみんなが各大学でしっかりと調整してきており、攻撃面では、大量22得点も取ることができ大事な初戦を勝利で飾ることができました。その後も安定した戦いで予選を全勝で決勝トーナメントに進むことができました。そして、迎えた決勝戦は、アジアで最も力があるフィリピンと戦いました。先発で3回無失点で抑えるとチームも相手投手から4得点。最終回に自分が再出場して無失点に抑えてアジアチャンピオンになりました。あと、ベストピッチャー賞を受賞することができました。この大会でアジアのレベルも学ぶことができたので次は、TOPの日本代表に選出されて、初の世界に貢献できるように頑張りたいと思います。

日本体育大学 酒井 匠

今回のアジア選手権大会の主体が大学生と聞いた時自分は、また受かってもう一回日本代表として戦いたいと強く思いました。しかし、選考会では雨が降っており自分の上手くいくようなアピールができずにとっても受かるか心配でした。なので受かったという報告を受けた時はとても嬉しかったです。受かったメンバーを見てみるとU-19のメンバーもいっぱいいたためとても頼もしかったし、安心してプレーができました。

私がアジア選手権大会で感じたことはたくさんあります。まず一つは自分達がソフトボールをやっている環境がどれだけ恵まれているかがすごく感じました。当たり前前に練習や試合など出来る事を改めて親など色々な人に感謝しないとけないと思いました。

私が一番アジア選手権大会を通して感じた事は、自分の技量の無さなどです。小山、メーンズ、豊本は、一緒にチームでプレイしています。だからこそ本大会で技量の差を改めて感じてしまったのがとても悔しかったです。

今回の大学日本代表の人達はとても良い人で、とても楽しく、雰囲気良くて自分はとても楽しかったです。コーチ方も夜遅くまで選手達の間食や

飲み物など自分達がストレスのないようにしようと動いてくださったのでプレーだけに集中する事が出来ました。どうしても日が経つにつれ疲労が溜まってしまい、自分の思っているプレーが出来なくなってしまいますが、逆に敵の他国はだんだん日を増すごとに強くなっていっているように自分は感じました。なので、勝てると言われていても、最後の最後まで油断できない大会でした。この大会で様々な人と関わり、色んな事を学びました。この経験を無駄にせずしっかりと生かしてこれからも頑張っていきたい思います。

日本体育大学 豊本 翔貴

今回、日本ソフトボール協会の役員の皆様をはじめとするたくさんの方々のご協力のおかげで大学選抜チームとしてアジア選手権大会に派遣して頂き、大学カテゴリーから国際大会の舞台を経験できる機会を与えて頂いたことを感謝しています。

今大会に参加したのは、日本、チャイニーズ・タイペイ、香港、フィリピン、インド、インドネシア、マレーシア、シンガポール、タイの9カ国でした。全勝で予選リーグ1位通過を決め、決勝トーナメント2試合も勝利し、無敗での優勝を決めました。大会を通じて、試合を重ねるたびにチームの団結力がついていっているという実感がありました。攻撃の面では、選手自身が自分の役割を考え、果たしていき打線の繋がりがあったことや、左打者の小技による出塁、ランナーがいる場面でのホームランが大量得点での勝利につながった要因だと思います。守備の面では、ホームランを浴びる場面もありましたが、目立ったミスは無く堅実な守備で日本らしさを出していたと思います。個人的には、球速・変化球のキレ・緩急・コーナーワークなど全ての面においてレベルアップが必要だと感じました。また、他国の選手との体格の差に正直驚きました。120キロを超えるボールにも振り負けないスイングをしてきていましたし、日本では見ないようなフォームからバッターの手元で変化させるボールを投げるピッチャーもいました。アジアのソフトボールの発展が課題だと言われていると思いますが、恵まれた体格を持った外国の選手が上下の変化を投げ分け、制球力がつければ今大

会のような大量得点で勝利することも出来なくなり大会のレベルも上がっていくと考えます。最後に、大学選抜チームとして素晴らしい環境の中で日本リーグ選抜チームと試合をさせて頂いたり、アジア選手権大会に派遣して頂いたりしてこれまでのソフトボール観や考え方を見つめ直す貴重な時間を過ごすことが出来ました。この経験を無駄にせず、技術の向上の為に練習を積み重ね、将来的には、日本ソフトボールの発展に携われる人材になっていきたいと思います。

日本体育大学 メンズ・ジェーラン秀吉

今回は大学選抜に選抜して頂きありがとうございました。3月の選考会から3月末のナゴヤドームでのスペシャルマッチ、そして本大会へと少ない時間の中でチームが一丸となって優勝することができとてもいい経験が出来ました。3月末のナゴヤドームでのスペシャルマッチではリーグ選抜相手に1-0と善戦をすることが出来、チームにとっても自分にとってもいい自信ができました。本大会が行われたインドネシアのジャカルタでは気温は30度を超え湿度も高かったのでとても試合が行いやすい環境ではなかったと思います。しかし、田岡トレーナーや伊勢コーチ、柳田コーチの最大のバックアップがあり非常にやりやすい環境の中で試合をすることができました。又、チームの中で先輩、後輩関係なく道具を運んだり協力し合えたのも大きかったと思います。宿舎では洗濯機が無くユニフォームを手洗いし日本での生活が当たり前じゃない事を改めて感じる事が出来ました。

このアジア選手権を通して自分自身もっともっとレベルアップして次世代を担うようなピッチャーになりたいとも思いました。同世代に小山がいて良いライバルがいるので小山に負けないようにトレーニング、練習等頑張る国内だけでなく世界に目を向けてやって行きたいと思います。そのためにも11月に行われるトップの選考会でなんとか受かりトップの日本代表になりたいと思っています。このアジア選手権ではその様な気持ちにさせてくれるとても良い大会だったと思います。この大会を糧にしてもっともっと進化して行きたい

と思いました。

今大会に関係してくれた皆様、本当にありがとうございました。

日本体育大学 上田 郁也

今回アジア選手権に参加させて頂きましたが、自分はジュニアの世界大会の方にも参加しましたが、その時とはまた違った経験をさせて頂きました。メンバーも違えばスタッフの方々も違い、チーム方針も違えばチームのカラーも全くと言っていいほど違っていました。それでも、ただ一つだけ同じだったのは勝つことにはとことん貪欲な所でした。勝ちに対する執念や気持ちというのは普段大学でやる時となにも変わっていませんでした。そこがチームが一つの方向に向かっているのだなと実感する所でした。

また、今回は大学選抜なのでいつもはライバルチームの人達とも一緒にプレーするという貴重な機会でした。いつもは相手側で脅威に感じた人達も、味方になればとても心強いと感じました。みなさんととても優しく思い切ってプレーをすることができました。まず国際大会で感じたのは、日本と違ってとてもパワーソフトボールだなと感じました。日本はどちらかといえば緻密なソフトボールと言う感じなのですが、どこのチームもどんな場面でもフルスイングですごく脅威でした。自分はキャッチャーをやらさせて頂きましたが一球一球気が抜ける時はありませんでした。少しでも甘いコースに投げれば力で弾き返されますし、少しでも高さが浮けば長打を打たれる。本当に緊張感しなかった試合、気を抜けない試合は一つもありませんでした。それでも日本では感じられない緊張感や緊迫感というのはとてもすごいものですが、いい経験になりました。攻撃の面ではパワーでどんどん押してくるピッチャーが多く力負けを痛感させられました。しかし、日本の持ち味である走塁技術や粘り強いバッティングは世界にも通用すると感じました。今回のこの経験は自分の競技人生においてとても貴重な経験になったと思います。これはジュニアの時も思いましたが、戦う舞台が大きくなるほど得られるものも多かったです。試合もそうなのですが、これだけのトッププ

レイヤーの中で、これだけ大舞台の試合に出ささせて頂いて本当にかげがえのない時間でした。できるならまたこのメンバーで試合がしたいです。これから日本のソフトボールを広げる為にも特に男子が盛り上げていくのは確かです。その中心に立てるようにこれからも頑張りたいと思います。

日本体育大学 調 和政

まず、自分を大学選抜に選出していただき、感謝いたしております。また、多くの関係者に支えられて名古屋ドームでのエキシビジョンマッチから始まりました。アジア選手権大会にも参加させて頂きました。自分にとって非常に貴重な経験をさせて頂きました。

本当に多くの関係者の協力がなくて出来ないことなので本当に恵まれているなと思いました。感謝の言葉しかありません。

また、普段とは違うメンバーと試合をする楽しさ、新鮮さ、新たな発見など、多くのことを学ぶことが出来ました。

そして、本大会では、インドネシアのジャカルタで、慣れない気候や食生活、洗濯機がないなど、日本での生活がどれだけありがたいかを知りました。そんな中での試合でしたが、チーム一丸となり、試合をすることが出来ました。そして最後は優勝という最高の結果でアジア大会を終えることが出来てとても幸せでした。

自分としては、怪我のせいもあり、あまり試合に出場させて頂く機会が少なく、また、結果もあまり残せずにととても悔しい思いをしたので、これからこの悔しさを晴らせるような活躍を大学でしていきたいと思います。また、アジア選手権大会ですごい選手の方々とプレーでき、得られたものは大きいです。その得たものも活かしていきたいと思っております。

日本体育大学 竹森 歩夢

アジア選手権大会の前に、まずはこのような大学選抜というカテゴリにおいて企画及び、運営、サポートをしていただいた関係者に感謝しております。男子のソフトボールの普及、発展を目指す上での名古屋ドームでのエキシビジョンマッチな

ど貴重な経験をさせていただき私が今後ソフトボールを続けていく上でとても勉強になりました。ですが、現実的には名古屋ドームの際も女子に比べ男子の試合は観客数が少なく、メディアでの取り上げもかなり少ない状況である。その中で大学の大学カテゴリの大切さを感じました。日本を代表する上で心構えや日本代表の名に恥じないプレー、立ち振る舞いなど選手各自が意識を持つことこれらを池田主将を中心としチームに浸透させた。これによって代表の時だけでなく各大学の選手にも伝え大学ソフトボール界を引っ張っていく意識が付き、ソフトボールの発展に繋げていくためにも大きな活動となったと思う。今回の大会ではTOPの代表の試合に参加させて頂いたが、正直全体的にレベルが低い現状であった。他国での開催にあたり食事の面、気候などの環境の変化に対応し試合へのモチベーションの運び方など改めて難しかった。また、レベルの高い選手が各チームから集まることにより短期間での守備の連携合わせや、コミュニケーションを取ること、チームを一つにまとめることなど大変ではあったが、試合を重ねていく上で一つになっていくことを感じた。無事に優勝することができ本当に良かった。試合での技術だけでなく、TOPの岡本監督の話聞かせていただき、日本の男子ソフトボールの現状、日本代表に求められることなど様々なことを学ばせて頂き人間的にも成長することができ良い財産となった。

今回、私たちにこのような経験をさせて頂いたことに感謝し、アジア選手権大会で学んだことをいかし、感謝の気持ちを込め今後のソフトボール生活を過ごしていきたいです。

ありがとうございました。

早稲田大学 川上 卓也

私は今回、インドネシアで開催された第10回アジア男子ソフトボール選手権大会に、全日本大学男子選抜チームの一員として参加させていただき、これまでのソフトボール人生の中で最も貴重と言えるほどの経験ができました。私にとって日本を背負って、日の丸を背負ってソフトボールをするということは、一つの憧れであり目標でもありま

した。日本代表という枠組みの中でプレーすること、海外でプレーすること、外国の選手たちと対戦すること、全てが私にとっては初めてのことであったので、今大会に出場する際は、不安、緊張、それとは裏腹に嬉しさ、新鮮さ、ワクワクなど様々な感情が自分の中がありました。

大会期間中は、まず開催地のインドネシアの空気の違いに翻弄されたことを鮮明に覚えています。ジャカルタの空港に降り立ち外に出た瞬間に、日本ではあまり経験したことのない気温の高さ、湿度の高さを身に染みて感じました。その時の素直な感情としては、こんな中で私はプレーできるのかという不安がありました。自分にとって初めての海外でもあったため、日本とは違った空気、食べ物など環境面に順応することの難しさも学ぶことができました。しかしながら、そういった厳しい環境下でも日本代表として、日本を背負って戦わなければならないというのは、しっかりと念頭に置いて10日間戦い抜くことができたと思っています。

試合には主に、指名打者や代走として出場の機会をいただきました。私の所属している早稲田大学では、1番打者、二塁手という役割を与えられており、普段経験のない役割での出場であったため、私にとって良い経験となりました。指名打者としての難しさや代走という役割の重要性など、普段あまり見えていない部分についても考えることができました。それが今後、選手としての自分の成長につながるのではないかと思います。今回のアジア選手権大会を通して、本当にたくさんの刺激を受け、貴重な経験を積むことができました。ハイレベルな選手の集まったチームの中で、同じ仲間としてプレーできたこと、インドネシアという日本とは異なった環境下でプレーできたこと、外国の様々なプレースタイルの選手達と対戦できたこと、全てが選手としても人間としても私を大きく成長させてくれたと思います。そして何より、今大会を優勝という形で締めくくることが一番だと思います。私のソフトボール人生における一番の財産になりました。

今回の経験を今後の競技人生に活かし、自身の技術向上にも精進すると共に、今回に留まらず今

後もこのような機会が増えるように、男子ソフトボール界をもっと盛り上げていきたいと思っています。

日本体育大学 櫻庭 佑輔

今回、このような経験が出来たことをとても嬉しく思います。

私は代表初先発で多くの事を学ばせて頂きました。急遽作った大学チームをまとめる事の大変さやチーム内での連携その他にもプレー以外の生活においても大変なことが多くありました。

初めての事ばかりでチームに迷惑をかけることもありましたがみんなと協力出来たことは日本が優勝する為の1つのキーであったと思います。

また、インドネシアのジャカルタにおいて都市と言われる場所ですが日本と先進国との差を感じました。出発前にインドネシアの風土をしっかりと感じて来る様にと見送られお風呂がないウォシュレットがない洗濯機がない乾燥機がないという環境で生活をしましたが日本のありがたさを肌で感じる事が出来ました。到着してから空気や気候の変化にも戸惑い生活して行く上で自己管理の大切さも感じる事が出来ました。他にもグラウンドが試合前日になっても出来ていない状態であったりそれを作ってくださる人とそれを指示している人との貧富の差も感じました。プレーを見てみるとまだまだアジアでのソフトボール発展は伸び代があると感じました。私もアジアの国々でソフトボールをもっと広めて自分自身はアメリカやオーストラリア、ニュージーランドでソフトボールの勉強をしてみたいと思いました。

今回ソフトボールを通して多くの事を学びました。この経験を今後の人生にしっかりと活かせる様これからのソフトボール人生を歩みたいと思いました。

大学生にこのような経験をさせていただきありがとうございました。

日本体育大学 廣寄 龍也

このたび、トップ日本代表のアジア選手権大会に参加させていただきありがとうございました。国内だけで今までプレーをしてきた中で、海外のプレーを体験することができ学ぶところも多くあ

りました。海外のベースボールに近いダイナミックなソフトボールはパワーが魅力的で日本ではあまり見られないプレーも多く見受けられました。その一方で、上手く決まればビックプレーですが、失敗することもあるので雑なプレーに見えることが多くありました。そういったミスから、大量失点を招く試合が今回は多く日本のスモールベースボールを基本とした正確、丁寧なソフトボールは雑なプレーが少ないため、大きなミスがなく、失点も少なく抑えられるのだと思いました。日本はそういった面でも、世界のソフトボールのお手本として引っ張っていきべきだと今回の大会を通してとても感じました。また、海外のパワープレーにも魅力を感じました。バッティングは1スイングでホームランや鋭い打球を打たれる可能性が大きくなるので、守備は常に緊迫した雰囲気を守らなければならないのでとても、大変でした。相手に緊張感を与えられるスイングは海外のチームの大きな武器だと実感し、また日本にかけているところだと思いました。海外の選手と日本の選手では、体格が大きく違うのでパワーも大きく違います。そこを補うために今以上に丁寧かつ素早い動きが大切になってくると思いました。

今回はアジア選手権大会であったため、相手チームの戦力がそこまで脅威でもなかったのですが、世界大会になってくると、投手の球速やバッターのパワーや技術がとても脅威に感じてくると思います。今回のアジア大会に出場して、トップの日本代表に入り世界大会に行きたいという思いがまた強くなりました。もっと、世界のレベルの高いソフトボールプレーヤーと戦い、良いプレーは学び自分のスキルアップもしていきたいと思っています。日本代表に選ばれアジア大会で優勝して終わりではなく、この後も日本の大学ソフトボールを自分たちが引っ張っていかなければならないと思っています。大学生のソフトボールはチームによってはルールやマナーが守れなくフェアなプレーができないチームもあります。そういった、行為がソフトボールをマイナースポーツに近づけていると思います。大学生がソフトボール界の足を引っ張るのではなく、メジャースポーツになれるように盛り上げていきたいと思っています。そのため

に、自分たちが大学ソフトボール会を引っ張って
いけるよう、また盛り上げていけるように努力し
ていきたいと思えます

国士舘大学 八角光太郎

私は今回の大学日本選抜で多くのことを学べま
した。まず、日本代表として選ばれて行くことの
自覚がとても大切でした。入りたい選手は沢山い
たしその中で選ばれているという事を考えること
ができました。この大学選抜が今回できたお陰で
大学生達のモチベーションになっています。特に
後輩達は日本代表に入りたいと強く思い日々練習
に励んでいます。そういった面ですごく貴重な経
験をさせてもらいこれからの大学ソフトボールが
強くなっていくと思えました。名古屋で行われた
日本リーグ選抜との試合は多くの方に男子ソフト
ボールを知ってもらうことができました。SNSの
拡散で男子ソフトボールがあることを知ってもら
えてよかったです。これからもあるともっと広が
っていくのと同時に選手達のモチベーションにな
ると思えました。

今回のアジア選手権では初の海外でプレーし結
果が出たことでこれからも続けたいという思いと
また代表に入って世界一を取りたいと強く思いま
した。しかし日本リーグの事情で大学生が続けて
プレーできるチームが少ないと感じています。し
かし今回のアジア選手権でそれでも続ける選手は
増えると思えました。アジアのチームの底上げと
ともに日本チームのレベルアップが必要と思いま
した。これからも大学選抜が続けていけるとす
ごくレベルアップしていくのではないかと思いま
した。

九州産業大学 瓦口 昂弥

私は2年前にU-19男子ソフトボール日本代表選
手としてアメリカに行き無敗のまま優勝をして私
の人生の中でとても大きな経験になりました。日
本に帰ってきて私は大学生ながら大学でソフトボ
ールせず、西日本リーグに加盟しているオール福
岡というチームに所属していてレベルの高い試合
をしていました。2年間西日本リーグでプレーし
た後大学ソフトボール部に入部してそこには西日本
リーグと違った楽しさがありました。大学のソフト

ボール部には歳が近い友達や仲間達がたくさん
いて元気のいい学生らしい気迫のプレーがたくさ
んありました。大学での戦績がない中日本代表の
話を耳にした瞬間またU-19のメンバーと一緒にソ
フトボールができると思ってすぐに申し込みをし
ました。選考会に行った時は雨で正直うまくいか
なかった部分もあって選考から落とされると思っ
ていました。でも、監督やコーチ方が期待されて
るところだけで選んでもらえてとてもその
時は嬉しかったです。

名古屋ドームであった試合にはバッティングを
する機会をもらえず悔しい思い出いっぱいでした。
なので少ないチャンスでアピールして絶対レギュ
ラーとりたくてよる素振りをしていて日本エコシ
ステムさんとの強化試合で上手くアピールができ
て試合に出ることができました。アジア選手権が
開催されるインドネシアのジャカルタに行った時
は日本と違った気温の変化で湿度も高くとても暑
いという思い出が主にあります。それもメンバー
との仲良くなるきっかけになったと今では思っ
ています。

メンバーの皆は大学のソフトボール界ではとて
も有名な選手ばかりで勉強になる部分もありまし
た。なので福岡に帰ってチームに学べたことを伝
えました。チーム全体の意識が上がりよかったです。
アジア選手権大会という大舞台でメンバーにも
選んでくださり試合にも出場することができ僕
の人生の中で大きな経験になりました。

また今年の11月に行われる選考会に足を運ばせ
て頂き挑戦するつもりでこれから頑張っていま
す。

神戸学院大学 芝 聖

アジア選手権で戦い感じたことは、アジア全体、
そして男子ソフトボール全体のレベルが着実に上
がってきていると感じました。国内では、すでに
130キロ近い球を投じる投手は多数いて、それを
打ち返す打者も増加しています。他国の打者でも
それを打ち返す打者はいました。

初の国際大会でアジアのレベルを直接見たこと
がなく、動画でしか見たことがありませんでした。
動画を見ての印象は、アジア全体として粗いプレ

ーが多いなということでした。しかし、実際に大会に参加させていただき感じたのは、インドネシアのチームであればニュージーランドやオーストラリアの選手をアシスタントコーチとして呼び、強いチームのソフトボールを展開していました。例えば、ベンチやランナーコーチが相手のサインを盗み指示をするなど徹底されていました。

ただ、自分たちも含めまだ粗いプレーが多いなのも改めて感じました。その他にも、スパイクの色がバラバラであったり、服装の着こなし方など改善する点は多いように感じました。そういった点を、国際大会に実際に参加して知られたことは、貴重な経験となりました

国士舘大学 中島 優人

この度は大学JAPANに選出していただき、ありがとうございました。大学選抜チームと言うことで様々な話やレベルの高い所でソフトボールができ、良い経験をする事ができました。

大学JAPANの選手が初めて集まった名古屋ドームでの試合は攻守共にミスが続き、試合にはもう出れないと感じました。

しかし、アジア選手権大会で1番レフトで出場させて頂き、自分の心に火が付きました。そして、日本の投球フォームと違い独特なフォームから投げ出される球に苦戦しながらも自分なりに結果を出す事ができ、アジアNo.1になることができました

た。嬉しい気持ちもありましたが、何よりホッとしたのを今でも鮮明に覚えています。

大学JAPANで経験した事をチームに持ち帰り、仲間と切磋琢磨し、インカレ優勝を出来ることを目標にし活動していきます。

そして、いずれはTOPで活躍できるような選手になる為に今後も頑張っていきます。

ありがとうございました。

国士舘大学 横山 翔大

まず、初めに大学JAPANを作って頂き感謝しております。その強化のためにナゴヤドームという素晴らしい舞台を提供してもらいありがとうございます。そのおかげで、沢山のみなさんにソフトボールを見て頂きました。自分は心の底からソフトボールを始めて良かったと思えました。アジア選手権大会を大学生で行かせていただいたことはとても良い経験になりました。

国際大会を経験することで、世界に対する気持ちがとても強くなりました。今後もソフトボールの発展させるために、人を魅了できるプレーをしていきます。人の想像を越えられるプレーをするために日々頑張ろうと思えました。日本を引っ張れるように頑張ります。

今回はこのような素晴らしい舞台を提供させて頂きありがとうございました。

第7回 東アジアカップ

会期：6月12日(火)～6月15日(金)

会場：台湾／南投市

選考会：4月18日(水)～4月20日(金) (全日本大学連盟)

事前合宿：6月7日(木)～6月9日(土) (全日本大学連盟)

派遣期間：6月7日(日)～6月16日(日) (日本ソフトボール協会)

大会期間：6月12日(火)～5月15日(金)

開催地：台湾／南投県南投市

会場：南投縣立棒球场

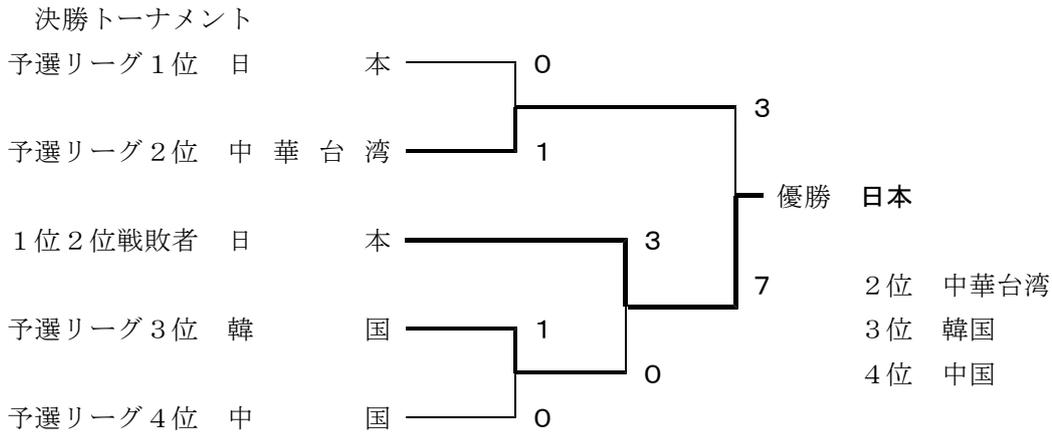
参加国：日本・中国・韓国・中華台北・中国香港 5か国

大会結果：優勝

No.	守備	氏名	所属名	No.	役職	氏名	所属名
		出場選手・スタッフ		13	〃	吉田 彩夏	東海学園大学
1	投手	竹田 早希	東海学園大学	14	外野手	有吉 茜	IPU・環太平洋大学
2	〃	中山日菜子	日本体育大学	15	〃	石野江里佳	東京女子体育大学
3	〃	長谷川鈴夏	日本体育大学	16	〃	佐藤 友香	中京大学
4	〃	吉井 朝香	IPU・環太平洋大学	17	〃	中村 優花	園田学園女子大学
5	捕手	椋山 奈々	園田学園女子大学				
6	〃	棚町 佳奈	東海学園大学				
7	内野手	兼平 真咲	東京女子体育大学				
8	〃	下山 絵理	園田学園女子大学				
9	〃	杉本 梨緒	中京大学				
10	〃	竹中 真海	日本体育大学				
11	〃	本間 睦	日本体育大学				
12	〃	屋禰 未奈	園田学園女子大学				

予選リーグ戦

参加国	中国	中華台湾	中国香港	日本	韓国	勝	敗	順位
中国	-	● 0 - 7	○ 13 - 1	● 0 - 16	● 6 - 9	1	3	4位
中華台湾	○ 7 - 0	-	○ 9 - 0	● 2 - 3	○ 1 - 0	3	1	2位
中国香港	● 13 - 1	● 0 - 9	-	● 0 - 14	● 2 - 12	0	4	5位
日本	○ 16 - 0	○ 3 - 2	○ 14 - 0	-	○ 8 - 1	4	0	1位
韓国	○ 9 - 6	● 0 - 1	○ 12 - 2	● 1 - 3	-	2	2	3位



今大会を振り返って

チームリーダー 清水 正 (山梨学院大学)

東アジアカップへの大学選抜での派遣が2年ぶりに実現し、大学カテゴリーにとっては大変貴重な経験を積むことができる絶好の機会であり、さらには2016年韓国で開催された東アジアカップにおいて大学選抜が優勝を逃しており、やはり東アジアナンバーワンとしてのプライドを取り戻すためにも、長澤ヘッドコーチも必ず優勝すると誓いリベンジに燃えて大会に臨んだ。

現地は高温多湿、予想を超える暑さと湿度に体力も奪われるなか、選手達には疲れはあるものの意欲的に練習や試合に臨んでいる姿は、さすが日本人と感じさせるものであった。

試合会場は近年完成したばかりという南投県立の野球場であったが、内野は赤土、外野は天然芝(草)であり、グラウンドコンディションは決して良いと言える状況ではなかった。周囲の施設も

不十分であり更衣室もなく、女子選手にとっては不便な試合会場であったことは間違いない。さらには、ボールカウントボードの設置がなく、チームや観衆にとっては試合進行状況が把握できなかったのが大変残念であった。試合に関しては上記してある通り、やはり結果でもわかるように東アジアにおいては、フィジカル・テクニク・戦術ともに日本が上回っていることは間違いない。敗戦を喫した中華台北であっても決して上回っているわけではなかった。いつも感じることではあるが、日本だけが強くてもソフトボール全体の魅力を上げるためにならず、この東アジアさらにはアジア全体のレベルを上げていかなければソフトボール競技はいつまでたってもメジャーになれない気がしてならない。

第2回アジア大学ソフトボール選手権大会

会期 10月23日(火)～10月26日(金)

会場 中国／南京工業大学ソフトボール場

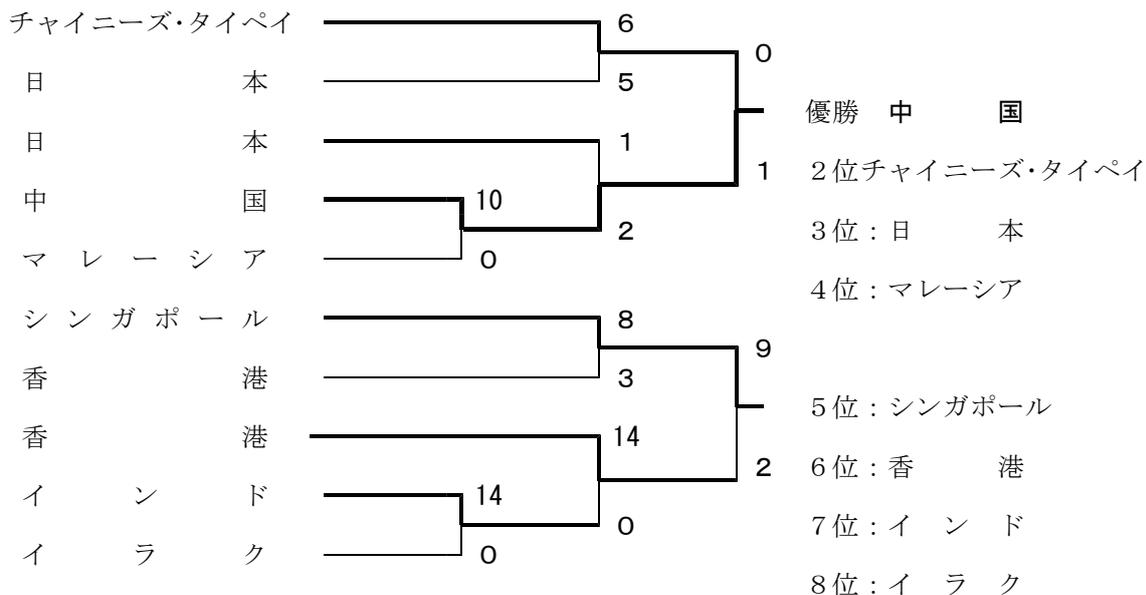
出場選手・スタッフ	No.	守備	氏名	所属名	No.	役職	氏名	所属
	13	〃	平田 希望	熊本学園大学				
	14	外野手	東郷 佑実	大阪大谷大学				
	15	〃	野瀬くるみ	園田学園女子大学				
	16	〃	藤木 未来	奈良学園大学				
	17	〃	築瀬 裕花	富士大学				
	1	投手	秋豆 朱音	園田学園女子大学				
	2	〃	上村 紗輝	IPU・環太平洋大学				
	3	〃	高井 菜々	関西大学				
	4	〃	新田 茜	日本体育大学				
	5	捕手	相馬 里砂	富士大学				
	6	〃	殿井 綾	大阪大谷大学				
	7	内野手	大國 結華	東京国際大学				
	8	〃	金田汐央里	富士大学				
	9	〃	甲田のどか	松本大学				
	10	〃	神 樹里乃	早稲田大学				
	11	〃	田川 茉理	福岡大学				
	12	〃	比嘉 智美	美作大学				
	1	チームリーダー	岩間 英明	松本大学				
	2	ヘッドコーチ	児玉 公正	大阪大谷大学				
	3	アシスタントコーチ	森 英寿	東京理科大学				
	4	アシスタントコーチ	土谷 文乃	美作大学				
	5	トレーナー	梅尾 千草	トヨタ自動車				
	6	通 約	高 萍	日本協会				

【予選リーグ】

Pool A	TPE	IND	CHN	SGP	勝	敗	得点	失点	順位
チャイニーズ・タイペイ		○17-1	○6-1	○10-1	3	0	33	1	1
インド	●1-17		●0-12	●3-9	0	3	3	38	4
中国	●1-6	○12-0		○10-0	2	1	23	6	2
シンガポール	●1-10	○9-3	●0-10		1	2	10	23	3

Pool B	JPN	MYS	HKG	IRQ	勝	敗	得点	失点	順位
日本		○11-0	○10-0	○32-0	3	0	53	0	1
マレーシア	●0-11		○4-0	○15-0	2	1	19	11	2
香港	●0-10	●0-4		○20-0	1	2	20	14	3
イラク	●0-32	●0-15	●0-20		0	3	0	67	4

【最終順位決定戦】



第2回アジア大学ソフトボール選手権大会を振り返って

チームリーダー 岩間 英明（松本大学）

[1] チーム編成の過程

チーム編成は大会情報がギリギリまで入ってこない状況の中で、非常にタイトな日程で進めなければならず、かなり苦勞した部分であった。

スタッフの選考は

- ①これまでに海外遠征を経験していない、もしくは少ない指導者。
- ②ヘッドコーチになる者は「コーチ資格」以上を有していること。
- ③本連盟の状況や役割を十分理解し、本連盟への貢献が期待できる指導者。
- ④比較的若く、今後、本連盟を牽引していける将来性が見込める指導者。

の選考条件を踏まえ、久保田理事長とも協議しながら、ヘッドコーチにはベテランの児玉公正氏（大阪大谷大学）、アシスタントコーチに中堅実力派の森英寿氏（富士大学）と新進気鋭の土谷文乃氏（美作大学）をお願いすることとし、トレーナーには清水副理事長のアドバイスもあり、中国遠征の経験がある梅尾千草氏（トヨタ自動車）を

選出させていただいた。また、通訳は日本協会から経験豊富な高萍氏を派遣していただくこととなった。

次に選手選考については、スタッフ選出以上に厳しい日程であったが、児玉HC、森AC、土谷ACの全面的な協力を得て、メールで情報交換をしながら選考にあたった。募集時間が十分でなかったにも関わらず、思っていた以上の応募者があり、地区役員の呼びかけによるものと感謝したいところであるが、地区により応募状況に差が生じたのは残念であったというのが率直な感想である。選考に際しては派遣趣旨である『グローバルな視点に立ち「国際理解教育」の観点から、標記大会への派遣を大学生に様々な経験を積ませる絶好の機会と捉え、将来に指導者を目指す者を選抜、派遣する。』を踏まえ、競技力もさることながら、大学卒業後に教員または指導者を強く志望し、派遣趣旨を理解した上で、主体性をもってチームに貢献できる選手を応募用紙の記述から読み取るようにした。また、募集要項の「選考は、競技力や

実績だけでなく、地区のバランスやポジション、将来の進路等を考慮して総合的に行う。」に基づき選考することとし、チーム編成が17名と限られた人数であることから、ポジションについては第2ポジションまでを考慮した上で、さらに地域、大学に偏りが出ないことを考慮した。

[2] 事前合宿

《大阪大谷大学合宿》

事前合宿については、出発直前に実施する案もあったが、予算的な問題、大学の授業を欠席しなければならない問題の2点から、インカレ終了後の9月8日(土)～9月10日(月)の日程で、児玉HCが勤務されている大阪大谷大学の合宿所およびグラウンドを借用して実施することとした。

本事業は選手選考会を実施していないため、この合宿が選手、コーチ陣にとって初めて顔を合わせる機会となることから、「チーム内のコミュニケーションを図る」、「コーチ陣が選手の特徴・競技力を把握する」、「チームプレーの確認」といったことを主目的として実施した。残念ながら教育実習や大学行事等で参加できない選手がいたため参加は任意としたが13名の選手が参加した。また、大阪大谷大学、大阪青山大学の各チームのご協力を得て、練習試合も組むことができた。合宿中のゲームや練習を通して、各選手が相互にコミュニケーションをとり、チームづくりに積極的に参加している様子が看取された。合宿終了時の選手の感想は「このチームで大会に参加することが楽しみである。」とった非常に前向きなものが多く、合宿の目的は達成できたものと考えている。特にこの短い合宿の中で、主将に任命した福岡大学4年田川茉理さんのキャプテンシーは特筆すべきものがあった。

《前泊》

合宿ではないが清和大学の田浦部長に、出発日前日の10月20日(土)の宿泊および成田空港までのバスを低予算で手配していただいた。

宿舎では大阪大谷大学合宿に参加できなかった4名の選手、トレーナーの梅尾氏とも顔合わせをした。また、清水副理事長、日本ソフトボール協会山内氏、ミズノ株式会社守部氏にも参加してい

ただき、大会参加に向けての心構え、海外遠征上の注意、チーム荷物の確認、コンディションの確認など、出発準備を全員で行い、大会前のチームの雰囲気作りができた。

[3] 試合の結果及び状況

《予選リーグ》

参加チームの中で、実質上の日本のライバルになると予想していたのは中国と台湾だけであるが、予選プールでは日本がプールB、中国と台湾の両チームはプールAに所属することになったため、予選リーグ3試合は相手を圧倒し、3戦全勝でページシステムに進出した。

予選で対戦したマレーシア、香港、イラクとは競技力の面では大きな開きがあり、特にイラクは日本の学校体育で実施している程度の実力であったため、日本の各選手が本気でプレーするのは危険性さえ感じるほどであった。しかし、各チームとも試合に向かう姿勢はすばらしく、真剣にかつ楽しそうソフトボールに取り組んでいる姿は、選手の間には新鮮に映ったようで、試合後には対戦相手をリスペクトする言動も多く聞かれた。

《最終順位決定戦》

ページシステム1回戦は予選リーグで中国に快勝したプールA1位の台湾との対戦であった。台湾の投手は中国戦でも好投していたことから、先攻の日本は先制点が欲しかったのだが、逆に1回裏、台湾に1点を先制される苦しい立ち上がりとなった。3回表に連打で1-1の同点に追いついたものの、4回裏、5回裏に2点ずつを奪われ1-5となったが、6回表に2アウトから4点をあげ、5-5の同点とし試合の流れを掴んだように思えたが、そのままタイブレイクに入り、台湾に決勝点を奪われ、中国と決勝進出をかけて対戦することになった。この試合、安打数では日本13本、台湾9本と日本が上回ったものの、台湾の投手のライズボールにうまく押さえられる形で適時打が出ず、13残塁としてしまったことが大きかった。大会最終日は決勝進出を掛け、開催国中国と対戦した。予選リーグの台湾-中国戦を観戦した様子からは、中軸打者は長打を警戒する必要があるが、中国打線はそれほど怖くないという印象であった。

また、投手も台湾打線に12安打と打ち込まれている状況であったため、日本の各選手は捉えられるであろうと予想していた。

日本先攻で始まった試合は、中国の先発投手が予想と違いエースではなかったが、日本は初回、相手エラーと内野安打で1点を先制する上々の立ち上がりを見せた。しかし、その裏、警戒していた中国の中軸に連打を浴び、すかさず1-1の同点に追いつかれる嫌な展開となり、さらに、2回、二塁打を足がかりに中国に1点を奪われ1-2とされた。その後、2回から登板した中国エースを焦りからか捕まえることができず、散発3安打に押さえ込まれたのに対し、中国は球場いっぱいの大応援団の声援を受けながら日本を押し切り、結局、序盤の攻防が試合を決する形で1-2で敗れ、日本の3位が決定した。

台湾戦、中国戦ともに1点差の敗戦であるが、アジアの中では勝利しなければならない相手だったと思う反面、大学選抜とはいえ、大学カテゴリーの中でトップレベルとは言えない選手でチーム編成をし、ナショナルチームメンバーを含む台湾や、地元の大声援を背に優勝を果たした中国と互角に戦ったことは、選手や大学連盟にとって大変貴重な経験であったと思う。また、INDIVIDUAL AWARDS(個人賞)のBest Batter(首位打者)に築瀬裕花さんが、Most RBI(打点王)に東郷祐実さんがそれぞれ選出されたのも特筆すべきことである。この大会に参加した選手が、それぞれの地域に戻ったり、この大会に参加した選手が、指導者として新たな道を歩みはじめたりした時、この経験は必ず生きるはずである。各選手の今後の活躍に期待したい。

《その他 総括的内容》

第2回アジア大学ソフトボール選手権大会を終えて

ヘッドコーチ 児玉 公正 (大阪大谷大学)

1. チーム編成とその目的

選抜されたチームのコンセプトは、ソフトボールの振興に指導者や選手として携わることを望む

全日本大学連盟としては、この大会を選手強化、競技力向上といった視点からではなく、今後の指導者を生み出す、換言すれば未来の日本ソフトボール界を支える人材を育成する大学チームとしての参加という立場で臨んだ。それだけに、優勝したかったが、それが叶わなかった点では残念であった。しかし、今大会を通して学んだことは、選手はもちろん、我々チームスタッフひいては大学連盟全体としても大変貴重なものとなった。

セパレートの椅子や雨を避けられる天井のある観客席を備えたソフトボール専用球場、出発前に心配していた食事を含む遠征での生活が杞憂に終わるほどの立派な宿舎など、大会に参加する環境といった面ではうらやましいとさえ思うほどであった。しかし、逆に、大会や試合の運営、審判の正確性といった点では日本のすばらしさを再確認させられると同時に、ソフトボールの普及・発展について、アジア・世界という視点から考える必要性や、世界のソフトボールをリードしていくべき日本の立場というものを痛感させられた。

また一方、国際交流、国際理解という点では、学生達が積極的に各国の選手と関わり、打ち解け合っている場面が数多くみられた。特に歓迎会では、「日本の選手はプレーは素晴らしけれど、こうした時は今一歩積極性に欠ける。」ということを指摘されていたが、今回のメンバーは逆に各国の選手をリードするような場面も多く見られ、将来の指導者として頼もしさも感じさせた。

最後こうした貴重な体験の機会を与えて下さった公益財団法人日本ソフトボール協会、全日本大学ソフトボール連盟、その他、多くの関係して下さった皆様のバックアップに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

学生に国際試合や海外遠征を経験させながら金メダルを獲得させることにありました。大会での戦績はページシステムに勝ち進み、選手たちは試合

を積み重ねるごとにチームワークを高めながら戦力を上げていきましたが、台湾と中国にいずれも1点差で惜敗し銅メダルに甘んじました。しかも敗れた2試合ともに1点ビハインドの局面で走者を三塁に進め、犠打でも同点に追いつける環境を作り出しましたが、采配する児玉の力量不足から得点に結びつけることができませんでした。銅メダル以上の戦績が得られなかった責任はすべて児玉にあり、申し訳ない思いだけがいまだに残っており消し去ることができません。

2. 未来の糧

さて、大会に伴い歓迎レセプションが催され国と国との垣根を超えた国際親善や異文化交流を踏まえ、選手たちはスポーツに国境がないことを肌で感じる機会を得ました。大会での対戦を含めたこれらの体験は、彼女らの未来を切り拓く糧になったことは疑う余地がありません。このたびの選抜チームの技量は決して大学のトップとは言い切れませんでした。そのような代表選手たちでも短時間でチームワーク構築により金メダルが取れることを証明することも我々のミッションでした。この課題は、次の機会に編成される選手やスタッフでかなえていただき、その扉を開け放つことを願っております。

一方、自身にとりこの度の経験は今後に自チームを支援する指導スタイルを再考する機会となりました。選手権大会として海外チームの様々な取り組み方に触れ、併せて日本人スタッフと寝食を共にしながら交流したことで新たな気づきの場が得られました。多くの若い指導者の皆様にこのような機会が提供されることも願っております。

3. 開催地への思い

決戦の地中国には、孫武が記した兵法書（孫子の兵法）を愛読し以前から興味がありました。今からさかのぼること2500年も前の中国戦国時代に群雄が割拠したころ、チームを率いる指導者が備えていなければならない要件や戦略・戦術についてまとめられた指南書です。日本に伝承した時代は平安の頃ともいわれ、その後に武田信玄晴信は風林火山の御旗をシンボルとして知略に長けた戦を展開したことが我々の知るところです。

遠征先の南京は孔子（夫子）廟があり、いにし

えの中国文化に少しは触れることがかなうのではないかという期待を持ちながら海を渡りました。そのお寺には閉会式後に訪問が実現し、中国文化の底知れぬ偉大さを感じることができました。

孫子の兵法は若い指導者の方には手に取られることをお勧めいたします。その一例は、対戦する前に相手チームと自チームとの戦力や戦法を比較し、その対策を練ることで八割がた勝敗が決するという教えです。最近ではチームのアナリストがデータ分析する時代で真新しいことではありませんが、現在のアメリカ軍や日本の自衛隊の幹部候補生に必読とされています。さらに興味深い事象を加えると、犠打の場面が5回あるとしたら3回は正攻法（バント）、残りの2回は奇襲（エンドラン等）を織り交ぜながら戦うべきであると論じています。また、指導者は選手から信頼され、選手を思いやり、知略に優れ、チーム運営のフィロソフィを持ち合わせていなければならいと説いています。

そのような中国に滞在し、わずかではありましたが「なんちゃって、遣隋使」の気持ちで大陸の文化をかすかにかいだ気分でした。

4. グローバルな人材育成

アジアという単語から連想すると、近隣の中国や韓国そして台湾を思い浮かべます。少し範囲を広げてマレーシアやインドあたりまでが一般的ではないでしょうか。この大会にはイラクが参戦し、我々も一戦を交えながらその文化に触れる機会に恵まれました。中東の国には子どもの頃に目にした「アラジンと魔法のランプ」という印象があり、遙か遠い国の民です。そのメンバーを目の前にして直接にスポーツができたこと、これも夢のような体験となりました。イラクを含め参加されたすべてのチームは皆フレンドリーでお互いを敬う姿勢を備えており、ゲーム以外にもスポーツマンシップを感じました。このことを肌で感じたことは、選手のキャリアに大きな財産として加わったと思われれます。

うれしかったことは、中国と台湾との決勝戦が執り行われている最中にイラクチームの選手たちが日本の選手に写真を一緒に撮ろうと誘われていた光景にあります。その背景には日本対イラク戦

に一因があったと思われ、試合を開始して間もなくイラクのチーム力が決して高いものではないことが判明し、日本ベンチではイラク選手が良いプレーをした場合に盛んに「ナイスプレー」の掛け声と拍手を送ることにしました。国内でもどこでも相手チームが良いプレーをした際にはこのような対応を心がけたいものです。

他国とコミュニケーションをとるには言葉の壁を取り除くことが欠かせません。共通の言語は英語です。参加した選手たちは語学を再学習することを痛感したと思われれます。片言の英単語とボディランゲージである程度は意思の疎通が図れますが、私も含めてもう少し英会話を身につけなければなりません。

5. 滞在した宿舎や球場

試合会場は南京工業大学ソフトボール場で、背もたれ付きの個人用椅子が設置され、かなり（たぶん2千人程度）の収容定員を有していました。大学の学生数も3万人と大きく、キャンパス内に多くの学生寮が連立しています。中国戦が開催される時間にはスタンドがいっぱいに埋まる賑わいでした。

宿舎は南京工業大学が加盟するグループ企業所有の立派なホテルで大会参加国すべてのメンバーが宿泊し、食事も日本の中華街で食するような万人に好む味付けとなり大変おいしくいただき、快適な環境をご提供いただきました。日本での開催がそのうちに訪れることと思われれますが、観客席が完備されたソフトボール場を用い、公的資金を投入した受け入れ態勢で臨んでほしいと願っております。この大学生の大会にはグローバルな人材育成に見合う費用対効果があることを確信しています。

6. 謝辞

貴重な経験をする機会を与えていただいたことについて、全日本大学ソフトボール連盟に対しあらためて感謝を申し上げます。最後になりましたが、選抜された選手たち、岩間英明先生（松本大学）、森 英寿先生（富士大学）、土谷文乃先生（美作大学）、梅尾千草先生（トヨタ自動車）、そして通訳の高 萍さん（日本ソフトボール協会）、このような素晴らしいスタッフと活動できたことに重ねて感謝を申し上げます。ありがとうございました。

第2回アジア大学選手権大会を終えて（選手の感想）

主将 福岡大学 4年 田川 菜理

私が第2回アジア大学選手権大会を通じて感じたことや思ったことは主に2つあります。

まず1つ目は、チームを一から作る面白さです。私は9月に行われた事前合宿にも参加し4年生としてチームを作ることを率先して行いました。はじめは皆人見知りでコミュニケーション不足でしたが、日を重ねるごとに一人一人がチームメイトのことを知ろうとしていることが感じられました。特にチームをよくするために意見してくれることが多く、チームを作る面白さを感じました。各大学に所属していながら他チームの監督の方々や選手とチームを作ることなど滅多に感じる事が出来ないの、非常に貴重な経験が出来ました。

2つ目は一瞬を生きることです。私にとってこの大会は最後となる試合だったのでこれまでの試合とは全く異なる感情で試合をしていました。最

終日のアップ時に「今日は一瞬を生きよう」と決めました。試合は思ったような結果ではありませんでしたが、自分らしく素直に生きることができ、本当に幸せな時間でした。元ソフトバンク小久保選手の「一瞬に生きる」ことが実感できるとは思ってもなかったの、私自身これまでのソフトボールを一生懸命やってこられた、楽しかったと自信を持ってこれからの人生を生きたいと思います。

私にとって今大会は一生忘れることがない時間でありその時間で関わった全ての方々に感謝を伝え、また新しい一歩を進んでいきたいと思っています。

副主将 富士大学 4年 金田 汐央里

一回目の合宿には参加ができず、出発前日にチームメイトとの顔合わせとなりました。4年生が3人で、ほとんどが下の学年の中、しかも即席チームでどうなるのだろうかと感じていた部分もあり

ましたが、皆とても話しやすく、率先して動き、気づいてくれたりと、チームに遅れて入った私達をカバーしてくれ、早く試合がしたいという気持ちになりました。

初の海外が中国ということで、環境の違いがとても不安でしたが、トレーナーの梅尾さんはじめ、岩間先生、児玉先生、土谷先生、森さん、そしてピンさん。スタッフの方々のお陰で私達も安心して過ごすことができました。

実際に会場に行き、練習、試合をこなす中で、先生方もおっしゃっていましたが、本当に良いチームができたと思います。日本の各地区から集まり、各大学の考えややり方も違います。学年も4学年と経験や感じることも違います。それでも、ソフトボールがあれば、本当に勝ちたいと思えばこんなにも一つになれるのだなと思いました。いつもはライバル同士でも、日の丸を背負って一つのチームとして、アジアですが世界を見られたこと、あの環境でソフトボールができたことを本当に誇りに思います。

また、4年生は3人でしたが上手くチームを引っ張るために役割を果たせたと思います。1、2、3年生も本当に心強い子たちばかりでこの短期間でも信頼性がありました。結果がでず、負けてしまったことは凄く悔しいです。勝てた相手、勝てたゲームだからこそ尚更悔しいですが、この負けから学んだことは皆それぞれあると思います。お互いに進む道は違いますがこのような活動がもっと広まり、ここでの経験がこれからは繋がるように自分達からも伝えていきたいです。

富士大学 4年 相馬 里砂

今回の遠征は初めての海外、初めての国際試合でした。初めての中国は元々のイメージが悪すぎたのと綺麗なホテルと大学内だったのであまり苦には思わなかったです。料理は文化の違いもあり、油が多かった、味付けが独特だったりしたため、食べられるものは決まってしまう栄養バランスが偏ってしまいました。

最後の日の観光でボランティアの学生と会話をして一度も日本に来たことがないのに日本語がとても上手でたくさん勉強して私たちと中国人と話

をしていてとてもかっこいいと思いました。

マレーシア、香港、イラクはもちろんチャイニーズタイペイ、中国、いずれも勝てる相手だったと感じています。自分自身の力を出し切れず取られた点を取り返すことができなかったのは、非常に悔しいと感じました。ですが、この短期間でのチームでしたがしっかりまとまることができ、日本チームとしてひとつになり戦えたと思います。

また、梅尾さんという実業団のトップのチームのトレーナーさんにアップやダウン、体のケアをしていただき、試合前の上げ方や肩甲骨や股関節のエクササイズを自分の中の引き出しとして増やすことができました。普段から取り入れたいと思っています。今回の遠征では、スタッフの先生方はもちろん、日本で準備を進めてくれた方々、ボランティアの学生、審判の方、たくさんの方のおかげで試合に集中できたと思います。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。この貴重な経験をこの先のステージに生かしていきます。本当にありがとうございました。

早稲田大学 3年 神 樹里乃

今回、大学日本代表として派遣させていただいた中で、文化の違いや考え方など非常に多くの学びがあった。その中で、3点にまとめる。

1点目は、コンディショニングの整え方だ。私のチームにトレーナーはいない。梅尾さんは、一人ひとりの状態を把握した上で、アップやダウン、心身両面のケアをしてくださった。アップのダッシュは10m程度で良いということを学んだ。また、全力を出し切るとリラックス効果があること、リズムジャンプがソフトボールに好影響を及ぼすことも学んだ。

2点目は、チームのでき方だ。全員で事前にプレーする時間がなく、個と個が集まった状態での中国入りだった。日を重ねていくうちに、試合で感情を共有することから、隣の人に興味を持ち始め、互いを理解し合い、勝利という目標達成のために全員が同じ方向を向くようになっていった。グラウンド内ではもちろん、ベンチからも声が飛び交い、スタッフの方の声が耳に入るようになっていった。プレーの意識が自分の結果を残すこと

から、チームの勝利のために変わった時に、集団が一つになると実感した。

3点目は、国際大会で勝つことの難しさだ。JAPANとしてソフトボールができることは、誇らしく最高であることに間違いはない。しかし、そこには責任とプレッシャーが影を潜め身体を固くする。ユニフォームを着慣れていないことがこう感じた原因の一つであるだろう。この見えない敵に打ち勝つ程の心の余裕は、自信を持つこととそれを裏付ける努力が必要で、これらが揃って本来の敵と勝負できるようになると思った。ゴールドユニフォームを着て勝っている選手の凄さが身に染みた。自チームでのソフトボールと比べて、様々なことが普通ではない状況の連続であったため、そのすべてが私の経験となり学びとなった。これらすべてをこれからのソフトボールの糧にしたい。

最後に、今回の派遣において支援して下さったすべての方々に深く感謝申し上げます。

美作大学 3年 比嘉 智美

私は今回のアジア大学選手権において、初めて海外に行き、日本は様々な面で恵まれている国だということを感じた。

まず1つ目は衛生環境である。中国では、トイレットペーパーを流すことができず、ゴミ箱に捨てなければならないが、サービスエリアやショッピングセンターのトイレではゴミ箱から使い終わったティッシュが溢れ、流すことができないので、すごくニオイが気になることがあった。床などもびしょびしょに濡れていて、とても清潔だとは言えないものであった。日本ではコンビニやショッピングセンターなど、身近にトイレがたくさんあり、どこもすごくきれいに掃除がされていて、いつでも気軽に清潔にトイレを使用することができるが、今回の遠征でトイレが清潔に使えるということは当たり前ではないということ強く感じた。2つ目は食事の面である。日本では当たり前のようにどこへ行っても、何も心配することなく、何も考えずに出されたご飯をおいしく食べることができる。しかし、中国では、水道水が日本のように飲めるほど、綺麗にろ過されておらず、汚染水などの問題もあるため、食事でも生野菜や果物、火を

通していないものは食べないようにするなど、自分自身でも考えながら、食事をしなければならなかった。

これらの事を踏まえ、日本は恵まれている国だということを改めて感じる事ができ、今ある生活に感謝しなければならないと感じた。

試合では、3位という悔しい結果に終わったが、他国の選手のプレーはもちろん、同じ日本代表として、普段は敵チームである選手たちと共にプレーすることで、すごく勉強になることが多かった。また、どこの国のどんなスポーツでも、試合の結果に関わらず、試合後には相手に敬意を払い、感謝の気持ちを持てるのがスポーツマンシップであり、何よりも大切であると感じた。

園田学園女子大学 3年 野瀬 くるみ

私は今回初めての海外遠征で、何ひとつわからないところから始まり日本代表としての緊張感もあり、とても不安でした。実際に現地へ行っての感想は、アジアのチーム全体として、まだまだ向上する余地があると思いました。日本チームも同様にいえることですが、レベルとしてトップチームと比べるとやはり劣る部分があり、トップチームでなくても、大差がついてしまう試合が見受けられました。上位3チームの、中国、台湾、日本の試合では緊迫した試合が展開され、その中での試合が一番ソフトボールの楽しさを感じられると私は思います。この緊迫した中でのソフトボールを他国の方も実感できたらいいなと思いました。日本チームは初めての派遣メンバーばかりで、それぞれ緊張や期待があった中で自分の力が発揮できた選手またそうでない選手もいると思いますが、力を合わせることで普段の自チームとはまた変わった楽しさや、面白さがあり、このチームでまたソフトボールをやりたいと思う試合をすることができました。一週間と短い期間しか一緒にチームを組むことはできませんでしたが、お互い良い刺激となっていくと思います。結果は3位と悔しい結果となってしまいましたが、これからの糧として次にあった時に全員が成長した姿で会えるように頑張っていきたいです。

また、ボランティアの方にはとてもお世話にな

りました。言葉はあまりわかったけれど笑顔で接してくれて、朝早くから夜遅くまで一緒に行動してくださり、自由行動の時は、おすすめの所や私たちが買いたい物など一緒に探してくださって、本当に感謝しかありません。

この遠征で言葉が通じなくてもソフトボールがあれば通じ合うことができ、様々な面で支えてくださった方々に感謝の気持ちでいっぱいです。この経験を活かして、これからのソフトボール人生に活かして行きたいです。

奈良学園大学 3年 藤木 未来

初めての海外、初めての国際試合に参加させて頂いて私自身の実力や足りないものを感じた6日間でした。自チームで活動しているときの自分の役割と国際試合に立った時の自分の役割がどう変わってくるのか不安もありましたが、チームのみんながいい人ばかりでミスをしてもしっかりカバーすることのできるチームをこんな短期間で作り出せるものなのだなと思いました。また、対戦相手に対して良いプレーが出たときに素直に拍手の出る国際試合。偏見になるかもしれませんが、中国のチームなどはもっと怖くて野次など沢山飛ばしてくるのかなと思っていました。でも試合終わりの集合写真では日本語で「ありがとう」など言葉をくれて、すごくうれしかったです。短期間で集まったチームなのにこんなにも楽しくて、まだ終わりがたくないって思えたことが、児玉先生を始めコーチの方たちにも良いチームだったよなど声をかけてくださって私自身、この国際大会の要項を見たときに応募して良かったなと思いました。沢山不安もありましたが試合に出させて頂いたこと、チームとして優勝はできなかったけど最後までしっかり戦えたこと。国際試合を通して沢山の方と会うことができ、もっと心の広い人間になろうと人間性も見直せた6日間でした。ありがとうございました。

富士大学 3年 築瀬 裕花

大阪大谷大学で行われた合宿に参加することができず、今回のアジア大会で初めて全員と顔を合わせたため、この短期間でうまくやっ

かという不安で頭がいっぱいでしたが、一緒に過ごしていった中で深まっていく関係性や試合を通して成長していったチーム力、日本代表としての責任、プレッシャーはあったもののソフトボールの楽しさを改めて実感することができ、このメンバーで代表として闘えてよかったです。正直もっと時間があればチームもさらに向上していけたのではないかという思いもあります。しかし、たった1週間ではありましたが内容の濃い日々を重ねていくことができました。

また、今回のアジア大会を中国で行ったうえで日本との違いを多く学ぶことができました。水道水は飲まないほうがいいといわれ、カットフルーツもその水に触れているかもしれないからということが残りました。同じ人間なのに国境を超えるとこんなに違うものなのかと思いました。バスでの移動中ではクラクションをずっと聞いていたように感じます。日本と違って車はすごいスピードで走っているし、歩行者いるのにも関わらず、バイクはその間を割って走っていて目の前で事故が起こらなくてよかったなと驚く場面も多くありました。そういった意味で日本はとても安全で思いやりのある国だと思います。

試合を通して他国のチームと交流し、グラウンドに立つと国の裕福関係なしにみんな平等にソフトボールを楽しむことができるのだと感動しました。どんなに点差が離れても笑顔でプレーしていた選手を見ると勝ち負けがすべてではないという言葉の意味がとても理解できます。選手だけではなく支えてくださったスタッフのみなさんなど、たくさんの方々のおかげでとても素晴らしい経験をさせていただきました。指導者となり教える立場になった時には勝ち負けだけでなく仲間とプレーできる喜びを伝えたいです。本当にありがとうございました。

園田学園女子大学 2年 秋豆 朱音

中国での1週間は私にとってすべてが初めてのことばかりでした。スパイクを履いていない国、ポジションにあったグローブをつけていない国などソフトボールをする上で必要な道具が揃えられていない国がありました。また、宗教などいろん

な理由でソフトボールが満足にできていない国もいると知りました。用具が揃えられていること。大好きなソフトボールが好きだけ練習できる日々。周りの人の支えの下でソフトボールができて環境。今、自分が置かれている環境は決して当たり前ではないのだと強く感じました。

私がこの1週間で大変だったのは食事の面でした。初めての海外の食べ物に抵抗があり、あまり食べることができませんでした。アスリートとしてスポーツをする上で食事が大切です。どんな環境であっても対応できる選手にならなければいけないと思いました。

チャイニーズタイペイと中国に負けたことは本当に悔しかったです。今回は準備がない中でのチームでした。だからこそ個々の雰囲気、姿がチームに影響してくると思いました。しかし、この大会は通過点だと思うので、夏、日本一になるためにもっともっとレベルアップが必要だと再確認することができました。もう一度、このような舞台に立って優勝できるように頑張ろうと思います。

日本体育大学 2年 新田 茜

この大会を通して感じたことは、2つあります。1つ目は外国選手のプレースタイルです。一つのアウトを取ると選手・スタッフ関係なく大喜びしたり、ランナーの位置を叫ぶくらい全員でコールしたりする姿は日本にはない部分だと思いました。日本は簡単にアウトを取ることができますが、その一つのアウトを軽率にしていることがあるのではないかと思います。上手い、下手関係なく、一つのアウトを必死に取りにいく姿勢は見習っていかなくてはいけないと思いました。

しかし、攻守交代が遅いと感じました。国によって異なっていましたが、ソフトボールをしているプレーヤーとしてスポーツマンシップのある行動をして欲しいと思います。

2つ目は、ソフトボールのレベルの差です。日本・中国・チャイニーズタイペイは世界的にもレベルの高いチームだと思います。しかし、その他のチームはまだまだソフトボールが発展途上と感じました。日本が対戦したイラクチームは、国的に見ても女性が国から出ることが難しい状況にあ

るようで国外の状況やソフトボールの知識が十分取り入れられていないのではないかと思います。

今回、各国のソフトボール事情を知るいい機会になりました。イラクのようにスポーツが満足にできない国もあるということ、そして私たち自身がプレーできていることは当たり前ではないことを痛感しました。

他にも相手のプレーや挑戦する姿勢、くよくよしないで次に進もうとする姿は本当に素晴らしいと思います。今大会にはトヨタでトレーナーをしている梅尾トレーナーがチームに同行し、体の使い方・アップ・ダウン・ケア沢山のことを教えて頂きました。この期間に学んだことを自チームや母校に伝えるということをし続けていきたいと思っています。

改めてソフトボールが好きだと思ったし、ソフトボールや日本のチームが他国から愛されていると感じました。

大阪大谷大学 2年 殿井 綾

初めて行く海外は中国でした。私は海外に少し偏見があり、犯罪や事件が多く治安が悪い印象を持っていました。実際に中国に行ってみると、信号無視やバイクの乗り方など交通ルールを守っていない人が多く見られました。この現状を見て、中国など海外はルールを守る人が少なく車同士の衝突事故、電車と車の衝突事故など交通事故が日本よりも多く、テレビでよく目にするのだと感じました。日本は改めて環境が整備されており、恵まれている環境にあると感じました。日本での常識があるように中国ならではの日本とは違う常識、文化の違いがありました。違法運転をしているのはよくないが、生活面などその国々にある文化に合わすことが大事だと現地に着いて身をもって感じることができました。

試合では、マレーシア、香港、イラク、チャイニーズ・タイペイ、中国と試合をしました。初めに思ったことは、ソフトボールにかける思いや楽しもうとする気持ちはどこの国も一緒であると感じました。チームメイトへの声掛けや応援では、言語は違っていても伝えたい気持ちや気迫は伝わってくるものがありました。チームのカラーやブ

レーススタイルは、国々の特徴や異文化の違いを感じることができました。ソフトボールに関わる全ての人々がソフトボールを楽しみ、本気で取り組んでいる姿を目に焼き付けられる貴重な体験になりました。また、世界へ目を向けなければ得られなかったことが多くあります。今回の大会で国際試合を自身の目で見て、肌で感じ得たものを自チームに持ち帰りみんなに伝えることが私の任務だと思っています。まだまだ、経験不足な私の引き出しを増やす機会になり、貴重な体験ができたことに感謝し、携わって頂いた人々に感謝を忘れず、これからのステップアップと指導者としての考え方、指導に繋げていきたいです。

東京国際大学 2年 大國 結華

試合をして、日本とはとは違う攻め方であったり、守り方をしていて、初めて海外のチームと試合をしたので、本当に良い経験になりました。

打球の速さであったり、飛距離などは日本人よりも上回っていると実感しました。上手な選手を見れば見るほど、負けたくない。という気持ちになりました。日本人は、タイミングや器用さなどで勝負をしていますが、海外の人は全てが、パワー勝負だと感じました。

宿泊先は、日本とほとんど変わらないと思いました。何も気にせず今大会を過ごすことができました。最終日の観光の際に、信号が赤にも関わらず平気で信号無視をしていたり、ポイ捨てなど、たくさんの方がしており、外国の人の考えと日本人の考えの違いを感じました。また、バイクが無音で通り過ぎるので、後ろからきいても気付かない事が多く、危険を感じました。

食事では、日本の様に全て安全に食べられるわけでないので注意しながら食べました。いかに、日本が安全で美味しく毎日食べられていたか。日本人でよかったと思いました。

今回の大会で沢山の方に支えていただき、中国に行かせていただいたことや、チームメイト、スタッフの方、応援して下さる方などそういう方がいてソフトボールができることに感謝をしてこれからも過ごしていきます。

チームで学んだことなどを共有して、今後に繋

げていきます。ありがとうございました。

松本大学 2年 甲田 のどか

アジア大学ソフトボール選手権に参加させていただき、様々な面で貴重な経験を積むことができました。その中でも特に印象に残ったことは2つあります。

1つ目は日本チームの団結力です。大会本番まで選手とチームスタッフの方々が顔を合わせて練習できる機会は、大会を1ヶ月半前に控えた3日間の合宿のみでした。そのような短期間の中でチームとして団結し、大会中はチームスタッフの方々やトレーナーさんも含めチーム一丸となって非常に良い雰囲気です。それは一人一人の持つ目標が同じだからこそ、お互いがお互いのことをより深く知ろうとしてコミュニケーションをとり続けていたからだだと思います。団結力というのは時間で生まれるものではなく、一人一人の意識づけや努力で生まれるものだ実感できました。

2つ目は他国チームとの交流です。大会1日目の夜に開催されたレセプションでは、他国の選手と交流できる良い機会となりました。私自身、他国の方と関わる機会はあまりなく、どこかで壁を感じていましたが、他国の方はそんな壁を一切感じさせず、少し喋れる日本語で気さくに話しかけてくれました。国、肌の色、文化が違っても一人の人間として、こんなにも意気投合し笑顔になれるってすごいことだなと思いました。今回の大会をきっかけに他国のことに興味を持つようになり、これからどのような形であっても他国の人々と関われる機会があれば積極的に関わっていきたく思えるようになりました。

他にも食事、交通、ホテルの面でも日本との違いに驚くことばかりでした。日本では当たり前できていた事ができないという経験から、他国の文化を受け入れ理解できる良い機会となりました。今回の大会で学べたこと全てが、これからのソフトボール人生だけでなく、生きていく上でも大切なことを得ることができました。大会に参加することができたことを心から嬉しく思います。

熊本学園大学 2年 平田 希望

今回の大会を終えて様々な経験をする事ができました。初めての海外であったために不安がかなりありました。中国という不慣れな環境で1週間生活するうえでどれだけ日本という国が恵まれているかが実感できた遠征でした。食文化、伝統、生活環境など日本と比べると、全く違うので生活しづらいものでした。今回の遠征を行ううえで支えてくださった大会関係者やボランティアの方々、チームスタッフ、通訳の方、トレーナーの方などに感謝したいと思います。

試合に関しては、他国との親善試合を経験することができ非常に嬉しいです。日本では当たり前ソフトボールを行える環境ですが、今回対戦した国の方々の中でソフトボールをする環境が整っていない方もいるのであると思いました。日本は、道具もすぐに購入できるしグラウンドも確保できるため不自由な環境ではないと思いますが、やはり他国の方々は、そのようなことが当たり前できないので、今、ソフトボールができることに感謝しなければならないと感じました。

試合の結果は3位でした。結果的には悔しいですが、今回選抜されたメンバーに出会えたこと、このメンバーで試合できたことは私自身にとって貴重な経験でした。試合に出る機会は少なかったですが少ない中で自分のやるべきことがしっかりと果たすことができましたと思います。Japanのユニフォームを着て試合を行えたことに感謝したいです。今回の遠征で得たものはすごく貴重なものです。この体験を自チームに持ち帰り、さらなるスキルアップを目指したいと思います。自チームはインカレに出場する機会が少なく全国で戦えるチームではないため、今回の経験を活かして全国でも戦えるチームを作り上げたいと思います。貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

大阪大谷大学 2年 東郷 佑実

海外遠征を経て感じたことは、日本を出てJAPANを背負い試合をするというワクワク感と、慣れない環境への抵抗感がありました。しかし、その抵抗感というのは食事の際などにみんなとコミュニケーションをとることで自然と薄れていき、最終

日にかけては「まだあと1週間は居てられるね」というほどにまでなりました。やはりコミュニケーションをとるということは、どんな時でも必要なのだと改めて感じました。

これらが自然とできていることで、即席のチームではありましたが、短い期間のなかで仲が深まり、お互いが応援しあえるチームになったのではないかと思います。

目的である第2回アジア大学ソフトボール選手権大会では“第3位”という悔しい結果に終わりましたが、振り返って、“ソフトボールの試合”をする中で国際交流ができ、異文化にも触れながら一人一人が楽しめたというのは目的のなかの一つであったと思います。そして実際、国際試合の経験を積み、個々に感じたことは多かれ少なかれあったと思います。それらの経験をこれからのソフトボール人生、または全ての人生において生かしていくことが出来ればこの経験は大成功に収めたのだと、更なる確信を得ていいと思います。

こんなにも貴重な経験をさせてもらったこと、そして何よりもこのチームメイトに出会い、楽しくできたことに大満足です。そしてこの遠征をよりよいものにするために、沢山の方々がサポートをしてくださったということをお忘れずに、感謝したいと思います。

IPU・環太平洋大学 1年 上村 紗輝

アジア大学選手権大会に参加させて頂いて沢山の事を学び得ることが出来ました。

中国に行く前に清水先生から異文化に触れること、日本との違いを見つけること、日本が恵まれている国だと感じる事など様々なお話を頂き中国ではどんな事があるのかなと楽しみな反面怖い気持ちもありました。

実際に中国に行くと日本との違いがあり過ぎて驚くことばかりでしたが、いざ生活してみると初め抵抗あったことでも少しは慣れてくるものなんだなと思いました。同時に日本が恵まれていることをしみじみ感じ、日本でよかったと心の底から思いました。日本では当たり前のようなことが日本以外の国では当たり前ではないということを経験する場面でも実感し、ソフトボール以外で特に感

じることが多かったような気がします。例えば、車優先で歩行者が目の前にいても止まってくれなかったり、物を盗まれる可能性が高かったり、トイレでティッシュが流せなかったり、ホテルで使ったスプーンがそのまま替えられてなかったりその他にも沢山の事がありました。

試合の面では、初めてチームを組むメンバーとどうすれば1つのチームにまとまるか、そのためにはどうすればいいのかなど特にコミュニケーションの大切さ、重要さを実感しました。大谷大学で合宿した時は個々のプレーっていう感じでチームとして試合をしているようには思えませんでした。中国へ来て試合を重ねるごとにひとつのチームになっていっているのが自分達自身でも感じながら試合できていたと思います。

結果は3位でしたが、それ以上に大きなものを得ることができたので、本当にいい経験になりました。ありがとうございました。

関西大学 2年 高井 菜々

私はこの遠征を通して、印象に残っていることが2つあります。

まず、1つ目は対戦チームの事です。試合開始、終了の相手チームとの挨拶の仕方が違うことに驚きました。海外で試合をしたことはありましたが、すごく新しい形でとても新鮮な気分でした。また、何もかもが初めてだったので、ソフトボールを始めた頃の事を思い出しました。また、パ

ワーの差が大きいことにとっても驚きました。特に、台湾チームや中国チームはとてもパワーがあり、見ているだけで日本人との差を多く感じました。しかし、パワーでは劣っているかもしれませんが日本人は日本人らしく、小技を入れること、盗塁など細かいプレーで補うこと、守備を丁寧にする事で互角の勝負することができるのだと感じました。

そして、2つ目は中国の環境の事です。出国前から、水のことや食事のことで違いがあると聞いていましたが、ここまで意識しないといけないことだとは考えておらず驚きました。歯磨き後もミネラルウォーターで洗うことなど自分の体にこんなに気を使ったのも初めての経験でした。また、生野菜、カットフルーツを食べてはいけないことだったので、食事のバランスにも気を使わないといけないことに気づかされました。日本にいると水はきれいで飲めるのが当たり前の存在でしたが、どれだけ日本が恵まれた環境で生活できていたことに気づかされました。しかし、大会が開催された大学の球場は、グラウンドはもちろんのこと、観客席やベンチも設けられていて非常に綺麗に整備されており、とても羨ましいかったです。

この遠征では、異文化に触れるということが挙げられてましたが、人から聞く話よりも自分がその国に行って体験することが大切なのだと感じました。また、沢山の方のサポートがあり、試合を行うことができたんだと感じることができました。



文部科学大臣杯第53回全日本大学男子ソフトボール選手権大会

会期：平成30年8月31日(金)～9月3日(月)

会場：石川県小松市／スカイパークこまつ翼A～D球場

大会概要

日体大 2年連続30度目の優勝!!

大会記録主任：英 清治

本大会が石川県で開催されるのは今回で3度目となる。大会期間は8月31日(金)から9月2日(日)の3日間を予定していたが、雨天と強風による悪天候で1日順延の9月3日までの4日間となったが無事終わることができた。

全国から厳しい予選を勝ち抜いてきた32校が激突した大会だったが、連覇を果たした日本体育大が圧倒的な強さをみせた。日本体育大は1回戦から決勝戦までの5試合の内、2回戦の対中央大を7-0、準々決勝戦の対日本福祉大を9-2、決勝戦の対早稲田大を8-0の得点差コールドで勝ち、絶対的な強さを誇った。

そのチーム力を打撃面からみると、決勝戦までの5試合で打率0.362、47安打、本塁打9、三塁打1、二塁打7、と破壊力のある打撃陣を擁し、かつ守備面でも5試合で失策数2、守備率0.982であった。投手陣も小山 玲央、岡部 樹滉、酒井 匠、豊本 翔貴、の4投手を擁し、5試合で失点3、自責点3、被安打13、奪三振56、与四死球1、被本塁打0と抜群な投手力を誇る。

また、準優勝に泣いた早稲田大は準決勝の国士舘大戦では、8-7の薄氷の勝利で決勝戦へ駒を進めた。試合を振り返ると、シーソーゲームで8回タイブレーカーまでもつれて逆転サヨナラという試合展開は、本大会のベストゲームと言っても過言ではないであろう。

今大会31試合の内、9試合も得点差コールドで勝敗がついた。それだけチームに力の差があるのだろう、来年に向けて切磋琢磨した欲しい。

ただ、新記録関係(タイ記録)として、最多三塁打(個人・1試合)2本：小谷 昂希(京都産業大)対中央大、同2本：福原 崇史(同志社

大)対高崎経済大。満塁本塁打：1本 松村 駿(日本福祉大)対同志社大が生まれたことがうれしい。来年以降も厳しい練習に励み、幾多の新記録が刻まれることを期待します。

大会講評

日本体育大が攻守に圧倒 連覇達成

北信越地区常任理事：岩間 英明

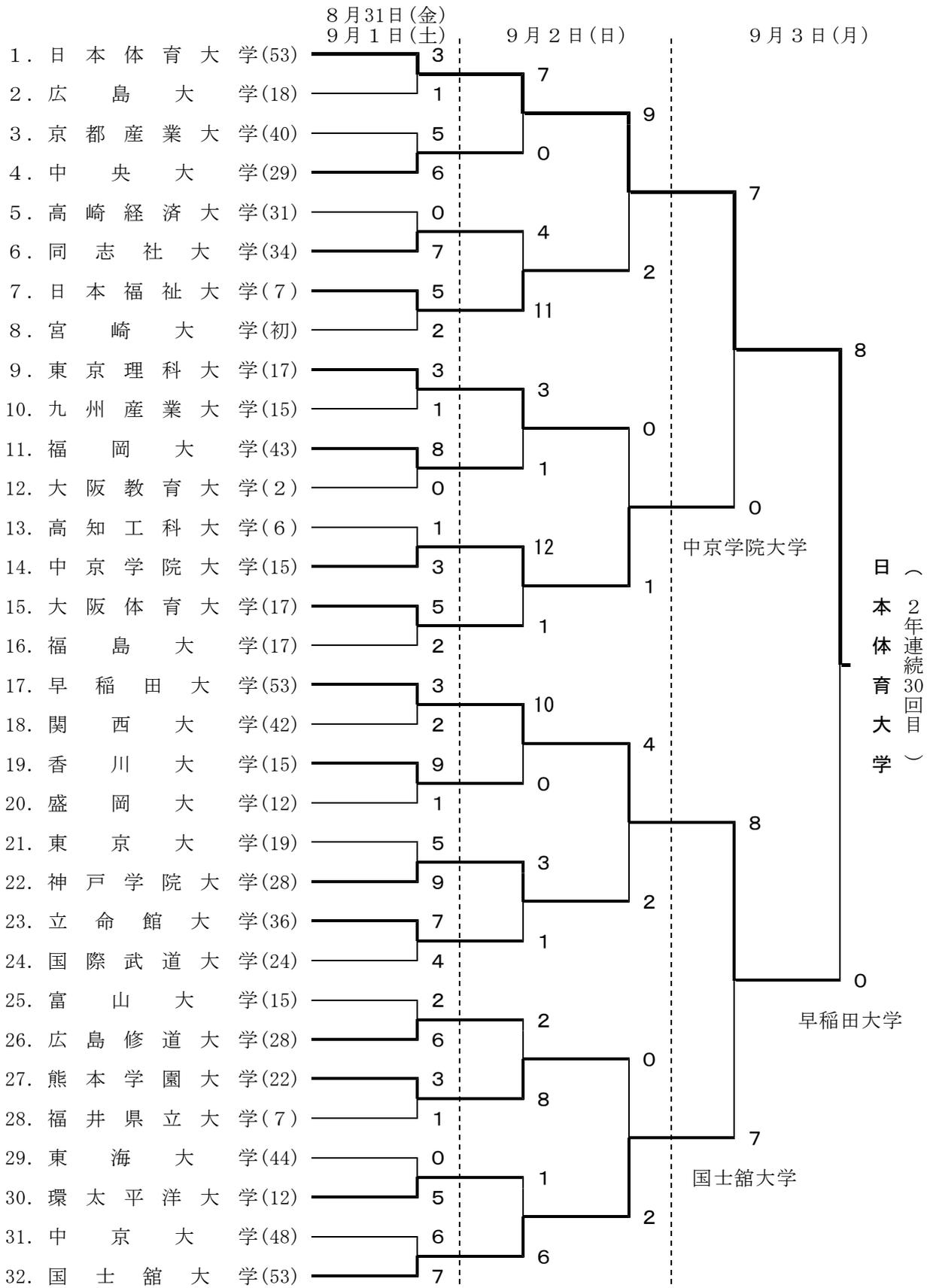
平成最後、そして各地区持ち回り大会として最後となる第53回大会は、男子規格のグラウンド4面を備え、本大会に向け常設の外野フェンスを設置していただくなど、整えられた環境となった小松空港に隣接する「スカイパークこまつ翼」を会場に32チームによる熱戦が展開された。

その中で栄冠を勝ち得た日本体育大は、豊富な投手陣を中心とした守備力と、圧倒的な攻撃力で他校の追従を許さず、危なげない試合運びで力の差を見せつけて勝ち進み、2年連続30回目の節目の優勝を飾った。

決勝戦は打倒日体大の一番手と目された国士舘大を準決勝でタイブレークの熱闘の末下し、決勝へ進んできた早稲田大との対戦となった。波に乗る早稲田大がどのような戦いぶりを見せるか期待が高まっていたが、日本体育大打線が初回から爆発し、5番田中の3点本塁打を含む、6安打2四死球、打者一巡の猛攻でいきなり5点を先制、早稲田大の勢いを止める。投げてもエース小山が早稲田大打線が無安打に抑える力投で、終わってみれば5回コールド8-0と一蹴する結果となった。

また、準々決勝で中京学院大を1安打に抑えながら一発に泣いた東京理科大学の石崎、強打の国士舘大を2点に抑えた熊本学園大の金子の両投手、1回戦ではあるが、王者日体大と互角の戦いを展開した国立大学の広島大などが印象に残った。

文部科学大臣杯第53回全日本大学男子ソフトボール選手権大会



※ () 内は出場回数で、校名変更のあった大学は以前の名称での出場も含む。

試合結果

▼1回戦（8月31日・9月1日）

広島大学0000001 : 1
日本体育大学111000x : 3

[広] ●田中 宏城ー西村 知晃

[日] ○小山 玲央・岡部 樹滉・酒井 匠・
豊本 翔貴ー上田 郁也

(本)田中 亨昂

(二)廣寄 龍也・池田泰一朗

【評】日本体育大学 連覇に向け好スタート！

日本体育大初回、一死後2番廣寄が中堅越えの二塁打で出塁、二死後4番池田の左中間を越えの二塁打で待望の先制点を挙げ、2回も先頭打者6番田中（亨）の左翼越えの本塁打で1点を追加、続く3回も3安打で1点を奪取するソツのない攻撃で2回戦へと駒をすすめた。

一方、広島大は7回、先頭打者1番森田以下3連続安打で1点を返し完封を逃れた、また田中投手は昨年の覇者、日本体育大を3点に抑えたことは健闘に値する。

京都産業大学002002100 : 5
中央大学002030001x : 6

[京] 横山 冬耶・●北村 優斗ー小谷 昂希

(三)小谷 昂希②

[中] ●歳川 幹大ー山田 雄一

(本)石田 直己

【評】中央大学 辛うじて延長戦を制す！

両者譲らず同点で迎えタイブレーカーに突入した9回、中央大はタイブレーカー走者を9番代打、丹治が三遊間を抜く安打で生還させあっけない幕切れとなった。歳川投手も9回を、被10安打、与四死球4を5失点に抑え、投球数141に耐えたのが光った。

一方、京都産業大は8回、無死一三塁の好機に後続3人が、二塁ゴロ、2三振に倒れ勝ちを逃したのが悔やまれる。

高崎経済大学00000 : 0
同志社大学11005x : 7

[高] ●青木翔太郎ー下坂 聡

[同] ○谷下 巧祐ー矢島 貴大

(三)福原 崇史②

【評】同志社大学 5回サヨナラワールド勝ちを拾う！

高崎経済大、青木投手は4回まで2点の先行を許したものの4安打に抑えていたが、5回突如乱れた。この回の先頭打者、矢来を左翼フライに打ち取った後、突然9番矢島以降、打者9人に5四死球1安打に失策が加わり5点を献上してしまった。二死満塁時の左翼手の失策からの2失点から大量失点に繋がった。

一方、同志社大は2回の一死一三塁、5回の二死に満塁を冷静に凌いだのが勝因に繋がった。

宮崎大学0001010 : 2
日本福祉大学301001x : 5

[宮] ●富田 康太・川越 龍馬ー鳥越 晟也

(本)深田宗一郎・大坪 尚貴

(二)深迫 朋朗

[日] ○加島 佳明・近藤 春人ー寺地 宏平

(三)杉田 拓

【評】日本福祉大学 先制逃げ切る！

日本福祉大は初回、先頭打者井上死球で出塁、すかさず2番杉田が右中間を抜く三塁打で先制し、3、4番の死四球で満塁、5番松村の内野ゴロ、6番寺地の三遊間安打で2点を追加、相手投手の乱れに乗じたソツのない攻撃で試合の主導権を握り、3回、6回にも3本のヒット等で各1点を挙げそのまま逃げ切った。

宮崎大は4回に深田、6回に大坪ソロホームランで2点を返したが攻撃が続かず敗退した。

九州産業大学1000000 : 1
東京理科大学000102x : 3

[九] ●瓦口 昂弥ー鳥山 健

[東] ○石崎 一輝ー塩谷 陸

(二)安齋 颯良

【評】東京理科大学 暴投絡みで勝ち星拾う！

同点で迎えた6回、東京理科大は9番安齋の左中間を抜く三塁打、1番尾形の四球に暴投を絡め

て無死二三塁としたが、2番尾形の遊撃ゴロで三塁走者安齋が本塁突入を試みるもタッチアウト、一死一三塁で3番小山の右翼前安打で1点を挙げ、さらに次打者への暴投で1点を追加しそのまま逃げ切った。

九州産業大初回、四球に2つの暴投、単打で先制点を挙げるが東京理科大、石崎投手に1安打に抑えられた。

大阪教育大学00000 : 0
福岡大学0062x : 3

[大] ●川崎 勇治-増井 隆介

[福] ○多久島力也・海邊 和也-沢村 洋

(本)多久島力也

(二)実松 悠仁・高尾 浩輔・綾戸 康祐

【評】福岡大学 先発全員安打の猛攻で完勝！

福岡大は3回、多久島の3点本塁打を含む6長短打、2四死球の打者一巡攻撃で6点を奪取、4回も綾戸の二塁打を含む3安打でダメ押しの2点を追加し5回コールド勝ちを収めた。

一方、大阪教育大は福岡大の多久島、海邊両投手に散發3安打、10三振を喫し三塁さえ踏むことができず完敗だった。

高知工科大学0010000 : 1
中京学院大学100020x : 3

[高] 木下 稜太・●大上 涼・宮崎 翔大-長澤 海里

(本)長澤 海里 (二)中重 知哉

[中] ○比嘉 竜哉-前鼻 龍聖

【評】高知工科大学 暴投で自滅する！

1対1の同点で迎えた5回、中京学院大は一死二三塁から2番前島の二塁ゴロで三塁走者が本塁へ突入するもタッチアウト、続く桶師の死球で満塁となり4番木村の2ボール2ストライク後の6球目が暴投となり二者が生還し幸運な決勝点を拾いそのまま逃げ切った。

高知工科大の木下投手は4回まで散發3安打の1点に抑えたが、2番手の大上投手が制球難から暴投で自滅を招いた。

福島大学0000002 : 2
大阪体育大学000131x : 5

[福] ●水上 武斗-福地 孝太

(三)井嶋 泰良

[大] ○養父 勇希・井澤 大和-西坂 和哉

(本)井澤 大和 (三)有田 晃輝

(二)岡尾 建汰・弥園 晃太

【評】大阪体育大学 着実に得点を重ね勝利を掴む！

両軍得点を許さず迎えた4回、大阪体育大は中堅前安打の弥園を一塁に置き、3番岡尾が中堅越えの二塁打を待ち待望の先制点を挙げ、5回も有田の左翼越えの三塁打を含む3安打1死球で3点を追加、6回には井澤の中堅越えのソロホームランで更に1点を重ね勝利を確かなものとした。

福島大は7回に2四球に武藤の右翼前安打を絡め2点を返したが初戦で敗退することとなった。

関西大学0000011 : 2
早稲田大学300000x : 3

[関] ●高桑 公岐・辰巳 大樹-黒田 圭人

(本)中岸 健登 (三)井上 貴裕

[早] ○杖子 量哉-実重 僚右

(本)鳥岡 健 (二)石井 智尋

【評】早稲田大学 先制点を守り逃げ切る！

早稲田大、初回先頭打者石井が右翼越えの二塁打で出塁、一死後3番川上の死球で一二塁とし4番鳥岡の中堅越えの本塁打で3点を先行した。その後両者無得点で迎えた6回、関西大は先頭打者井上が敵失で出塁そして盗塁、それを刺そうとした捕手の悪送球を誘い無死三塁とし、4番榎原の左翼犠打で1点を返し、続く7回も先頭打者中岸が初球を右翼越えへ運び1点差に迫ったが、後続が3人で断たれ早稲田大が辛うじて逃げ切った。

香川大学23400 : 9
盛岡大学00001 : 1

[香] ○池田 拓海-今西 涼太

(本)藤田 宗志 (三)藤田 宗志

[盛] ●澤屋敷 海-佐久間 敬

【評】盛岡大学 澤屋敷投手力尽き自滅！

2点先行の香川大は2回、二死三塁で9番日下の三遊間を破る安打で1点を追加、続く1番藤田の右翼越え2点本塁打で着実に加点した、3回、盛岡大の澤屋敷投手が5四死球と制球を乱し4点を奪取した。

盛岡大は、5回に四球に暴投絡みで1点を挙げたが、香川大、池田投手に散發4安打に抑えられ得点差による5回コールド負けを喫した。

東京大学5000000:5
神戸学院大学001116x:9

[東] ●森岡 純平-平子 文崇

(三)楠本 龍 (二)池内 俊也

[神] 井上 匠・大元 聖人・○奥田 拓海-
芝 聖

(三)芦田 翔 (二)大垣竜一朗・芝 聖

【評】神戸学院大学 6回打線大爆発で一気に逆転！

神戸学院大2点を追う6回、この回先頭打者代打末武が四球で出塁、その後芦田の三塁打を含む7連続安打で6点を奪取しあっさり逆転した。

東京大は初回、楠本の三塁打を含む5安打1四球で5点を先行したものの、3回以降、毎回得点を許し6回の猛攻、大逆転を誘うことになった。攻撃面でも2回以降は12三振、散發3安打に抑えられた。

立命館大学4003000:7
国際武道大学2100010:4

[立] 高森威吹希・○佐藤 夏己・高森威吹希-
田苗 遼平

(本)林 功一郎

[国] ●柴田 将希・羽鳥淳之介-石井 翔太・
西浦 龍

(本)藏野 亘 (三)菅 守継 (二)西浦 龍

【評】立命館大学 好機に着実に加点！

立命館大は初回一死後、2番横内の投手前バンド安打に四球、敵失を絡め満塁とし5番佐藤の走者一掃の中堅前安打で3点を先行、なおも走者三塁が相手投手の暴投を誘い更に1点を加点した。

4回も安打と四球による無死一二塁の好機に3番林が中堅越えに3点本塁打を放ち着実に加点した。

国際武道大は初回、一死二塁から菅の三塁打等で2点、2回に3四死球に暴投で1点、6回、林のソロホームランで1点を挙げたが敗退を喫した。

広島修道大学2100003:6
富山大学1000010:2

[広] 高田 祥吾・○岸本 陸-椋田 啓太

(本)椋田 啓太 (二)城 啓太

[富] ●安岡 拓海-和氣健太郎

(三)渡邊 裕大 (二)松生 裕土

【評】好機を確実に生かした広島修道大学、勝利を掴む！

広島修道大は初回、二死三塁で椋田が右翼越えの2点本塁打を放ち、2回も先頭打者、城が右翼右を抜く二塁打で出塁後、7番大川の中堅前安打で1点を追加、7回には3安打2四死球でダメ押し3点を挙げ少ない好機に確実な適時打で得点を重ね勝利を手にした。

富山大は1回、6回に1点を返したが、安岡投手の制球難から7四死球に1本塁打を含む7安打を打ち込まれ6点を献上し敗退することになった。

福井県立大学0000001:1
熊本学園大学011001x:3

[福] ●川村 尚之-佐古田 慎

(二)吉田 将紀

[熊] ○金子 栄生-井上 晃輔

(本)田中 太一② (三)金子 栄生

【評】熊本学園大学 田中の2本の本塁打で逃げ切る！

熊本学園大は2回、田中が左翼越えのソロホームランを放ち、続く3回も二死無走者から中堅越えに本塁打を放ち2点を先行し、6回も金子の三塁打を含む3安打で1点を追加した。

福井県立大は7回、二死一塁から吉田の中堅越え二塁打で1点を返すのが精一杯だった、熊本学園大、金子投手に散發2安打に抑えられた。

東海大学0000000:0
環太平洋大学202100x:5

[東] ●高橋 祐輔・佐藤 拓矢ー吉江 元希
 [環] ○萩原僚太郎・糸数昌太郎ー山内 貴博
 (本)須藤 雄杜・奥村 翼・山内 貴博・
 桑村 晃輔 (三)吉永 文太

【評】環太平洋大学 4本塁打、完封勝ち！

環太平洋大は初回、吉永が三塁打で出塁、二死後4番須藤が左翼越えの本塁打で2点を先行、3回奥村、山内がソロホームランを放ち2点を追加し、続く4回も桑村がソロホームランで1点を追加、得点全てが本塁打で挙げた5点だった。投げては萩原、糸数の両投手が4安打、奪三振8と勝利に大きく貢献した。

東海大は3回の無死満塁の好機に適時打が出ず完封負けを喫した。

中京大学 2300100 : 6
 国士舘大学 400102x : 7

[中] 久本 廉・●関口 幸輝ー大石 遼
 杉村 優太
 (二)近藤 大嗣・関口 幸輝・清水 公貴
 [国] 中島 悠貴・○中根 孝太ー橋本 郁弥・
 亀田 弦希
 (本)横山 翔大・岡 龍太郎・中根 孝太・
 亀田 弦希 (二)竹内 功

【評】国士舘大学 本塁打攻勢で辛うじて逃げ切る！

初回逆転された中京大は2回、この回先頭打者の6番清水が四球で出塁、7番関口が右中間を破る二塁打で1点を返し、続く8番、9番の死球、犠打バンドで一死二三塁の後、1番久本の右翼前安打で2点を挙げ1点を先行することになった。

1点を追う国士舘大は4回に同点とするも、5回に再度逆転を許し、6回一死無走者で、8番中根、9番亀田の連続本塁打で逆転しそのまま逃げ切った。両軍22安打の乱打戦になったが、4本の本塁打を放った国士舘大に軍配が上がった。

▼2回戦(9月2日)

中央大学 00000 : 0
 日本体育大学 0610x : 7

[中] ●歳川 幹大ー山田 雄一
 [日] ○小山 玲央・岡部 樹滉ー上田 郁也
 (本)小貫 満郎 (三)廣寄 龍也
 (二)田中 亨昂 植田 涼

【評】日本体育大学、5回、7-0コールド勝ち！

日体大は2回濱寄の三塁打を含む5安打1四球1敵失の打者一巡の猛攻で6点を奪取し、試合の主導権を握った。3回も小貫の右翼越えの本塁打で1点を追加し、投げては小山、岡部の両投手が中央大打線を1安打完封し二塁も踏ませなかった。

敗退した中央大は5回を16人、12三振で終え攻撃の隙さえ伺うことができなかった。

同志社大学 030100 : 4
 日本福祉大学 801101x : 11

[同] ●谷下 巧祐ー矢島 貴大
 (三)濱谷 恒一 (二)兼古 達也・矢来 将汰
 [日] ○藤原 智徳・近藤 春人ー寺地 宏平
 (本)松村 駿・松山 和貴
 (三)森川 凱貴

【評】日本福祉大学、満塁本塁打の猛攻でコールド勝ち！

日本福祉大は初回、松村の満塁本塁打を含む5安打5四死球、打者13人の猛攻で一挙8点を挙げ一方的な試合展開となった。2回以降も1本塁打を含む7安打の攻撃で3点を追加しダメを押し勝利を収めた。

同志社大は2回濱谷の三塁打を含む2安打1四球で3点を返したものの、初回の谷下投手の制球難による大量失点が日本福祉大に11-4の6回コールド負けを喫することになった。

福岡大学 0001000 : 1
 東京理科大学 003000x : 3

[福] ●多久島力也・海邊 和也ー沢村 洋
 (二)多久島力也
 [東] ○石崎 一輝ー塩谷 陸
 (本)尾形 洸亮 (三)塩谷 陸

【評】東京理科大学、散発4安打に抑え準々決勝

戦へ繋ぐ！

東京理科大は3回、一死後尾形の本塁打で1点を先行し、続く朝平の四球、小山の安打で一三塁とし石崎の中堅犠牲フライ、塩谷の三塁左を抜く三塁打で2点を挙げソツのない攻めで試合の主導権を握った。

一方、福岡大は4回に1点を返したものの、東京理科大の石崎投手に散発4安打、11三振を奪取され勝利を献上することになった。

中京学院大学0714 : 12
大阪体育大学0001 : 1

[中] ○比嘉 竜哉・星出 和哉ー前鼻 龍聖

(本)木村 健人・南村 海斗

(三)池端 謙太・大野 皓哉

(二)木村 健人

[大] ●養父 勇希・井澤 大和ー西坂 和哉

(本)西坂 和哉

【評】中京学院大学、長打攻勢でコールド勝ち！

中京学院大は2回南村のソロホームランで1点を先行、続く池端が一死満塁で右翼右を抜くへ走者一掃の三塁打を放ち一方的な試合展開となった、結局この回2本塁打、2三塁打等の長打攻勢で7点を挙げ試合の主導権を握った。

大阪体育大は4回も井澤投手の制球難から3四死球4安打を許し4点を献上し、4回コールド負けを喫した。攻撃面でも中京学院大の比嘉、星出の両投手に1本塁打の1安打に抑えられ完敗の試合だった。

香川大学0000 : 0
早稲田大学460x : 10

[香] ●池田 拓海ー今西 涼太

[早] ○杖子 量哉・山内 壮起ー実重 僚右

(本)前多 悠登・織部 雅之

(二)石井 智尋・実重 僚右

【評】早稲田大学 猛攻大量得点 完封勝ち！

早稲田大は初回、前多、織部の本塁打を含む5安打1四球で4点を挙げ、2回も香川大の池田投手の制球難に乗じて4四球1敵失3安打、打者10

人の猛攻で6点を奪取し4回コールド勝ちを収めた。

香川大は早稲田大の杖子、山内両投手に散発3安打に抑えられ完敗を喫した、1回の二死三塁の好機に適時打が出ていれば完封は逃れたのが悔やまれる。

立命館大学0010000 : 1
神戸学院大学011010x : 3

[立] ●高森威吹希・佐藤 夏己ー田苗 遼平

(二)林 功一郎・田苗 遼平

[神] ○奥田 拓海ー芝 聖

(三)角井 勇太

【評】神戸学院大学 4安打3得点で逃げ切る！

神戸学院大は2回、先頭打者廣瀬が四球で出塁後、一塁犠打バンド、一塁野選等で1点を先行し、3回も四球の走者を後続の2安打で1点を追加、5回も角井が右翼越えの三塁打で出塁後、芦田が中堅犠牲フライで返すソツのない攻めで3点を挙げた。

立命館大は3回一死二塁の走者を敵失絡みで1点を返すのみで、神戸学院大より多い7安打を放ちながら7残塁と拙攻が敗因となり勝利を献上する結果となった。

広島修道大学0110000 : 2
熊本学園大学140102x : 8

[広] ●高田 祥吾・岸本 陸ー椋田 啓太

[熊] ○金子 栄生・松永 総司ー井上 晃輔

(本)田中 太一 (三)村上 隆生

【評】熊本学園大学 着実に加点、準々決勝戦へ繋ぐ！

熊本学園大は初回、相手投手の制球難に乗じて3四死球1安打で1点を先行し、同点の2回も一死二塁から村上の右中間を抜く三塁打で1点を挙げ、続く田中の中堅越え本塁打を含む2連続安打で3点を追加した、4回も2四球を絡め無安打で1得点、6回も敵失を絡めての2安打1四球で2点を奪取し8点の大量得点で勝利を収めた。

広島修道大は3安打、四死球を絡めての2得点

を挙げるのが精一杯だった。

環太平洋大学 1 0 0 0 0 0 : 1
 国士舘大学 6 0 0 0 0 0 x : 6

[環] ●藤田 悠希・糸数昌太郎・萩原僚太郎・
 先村 翼—山内 貴博

(本)吉永 文太

[国] 中島 悠貴・○中根 孝太—橋本 郁弥・
 亀田 弦希

(本)横山 翔大・中島 優人・

(二)岡村 祥吾・八角光太郎・亀田 弦希

【評】国士舘大学、一昨年の雪辱を晴らす！

国士舘大は2年前の決勝戦で環太平洋大と対戦し敗退し、準優勝に甘んじた。1点を追う国士舘大は1回裏、横山が先頭打者本塁打を放ち同点とし、後続の中島の本塁打、岡村、八角の二塁打に三四球を絡めこの一回一挙6点を挙げた。2回以降は中島(悠)、中根の両投手が4安打0点に封じ準々決勝戦へと駒を進めた。

環太平洋大は初回吉永の本塁打で先行し、3回の一死二三塁の好機に適時打が出ていれば試合の流れが変わっていたかも知れない、初回の攻防が勝敗を決定した。

▼準々決勝戦(9月2日)

日本体育大学 0 0 1 0 3 5 : 9
 日本福祉大学 2 0 0 0 0 0 : 2

[体] 酒井 匠・岡部 樹滉・○豊本 翔貴・
 小山 玲央—調 和政・上田 郁也

(本)櫻庭 佑輔・池田泰一朗

(二)田中 亨昂・濱田 慎

[福] ●近藤 春人・加島 佳明・近藤 春人—
 寺地 宏平

(二)寺地 宏平

【評】日本体育大学、6回余裕の逆転コールド勝ち！

1点を追う日体大は5回、この回先頭打者の櫻庭が中堅越えのソロホームランで追いつき、その後二死三塁から小貫、濱田の連続安打で2点を追加しあっさり逆転した。続く6回、池田の左中間

越えの本塁打を含む4安打1四球で5点を奪取し得点差コールド勝ちで、明日の準決勝戦へと駒を進めた。

一方敗退した日本福祉大は初回、一死一塁から松山以下の3連打で2点を先行したが、日体大の酒井を含む4投手に2回以降、散發4安打無得点に抑えられた。

中京学院大学 0 0 0 0 0 0 1 : 1
 東京理科大学 0 0 0 0 0 0 0 : 0

[中] ○比嘉 竜哉・田上 順也—前鼻 龍聖

(本)桶師 凌

[東] ●石崎 一輝—塩谷 陸

【評】中京学院大学、薄氷の勝利で準決勝戦へ！

両軍得点を譲らず、中京学院大が7回一死後、3番桶師の中堅越えの本塁打で待望の1点を挙げた、これが決勝点となり準決勝戦へと駒を進めた。

惜敗した東京理科大の石崎投手は打者23人に対し1安打を許しただけだが、この1安打が決勝本塁打となり悔やむにも悔やまれぬ結果となった。7回以外は1回と6回に四死球の走者を出しただけで、二塁も踏ませない投球内容だった。攻撃面では、6回一死、二三塁で後続が連続三振に倒れたのが痛かった。

早稲田大学 1 0 2 0 0 0 1 : 4
 神戸学院大学 0 0 1 0 1 0 0 : 2

[早] ○杖子 量哉—実重 僚右

(二)川上 卓也・織部 雅之

[神] ●大元 聖人・奥田 拓海—芝 聖

(本)窪木 海斗 (三)久田 莉也

【評】早稲田大学、10安打 10残塁の拙攻でも勝利！

早稲田大、初回一死後高橋が四球で出塁、続く川上が一塁手越えの安打で一三塁とし相手投手の暴投により難なく先制点を挙げた、3回も川上、織部の二塁打を含む2安打1四球で2点を追加し7回も2安打1敵失で1点を挙げ逃げ切ったが10残塁は今後に課題を残す結果となった。

敗退した神戸学院大は、窪木の本塁打等で2点

を返したものの力及ばず準々決勝で散ることとなった。

熊本学園大学0000000 : 0
国士舘大学020000x : 2

[熊] ●金子 栄生―井上 晃輔
(二)廣瀬 慶大

[国] ○中島 優人・中島 悠貴―橋本 郁弥●

【評】国士舘大学、3安打完封で準決勝戦へ！

国士舘大、2回二死一塁で竹内の三遊間安打で一二塁とし、続く新部の右翼前安打で2点を先制した。結果的にこの2点が決勝点になり、投げたは中島（優）、中島（悠）の両投手が熊本学園大を三塁を踏ませない、無四死球、散発3安打の完封に抑えた。

敗退した熊本学園大は7回に先頭打者廣瀬が左翼を破る二塁打で出塁したが得点できず、来年以降の課題として残った、好機に確実な適時打の練習に励むことだ。

▼準決勝戦（9月3日）

日本体育大学1020103 : 7
中京学院大学0000000 : 0

[日] ○豊本 翔貴・岡部 樹滉―上田 郁也
(本)池田泰一朗・櫻庭 佑輔②

[中] ●星出 和哉・寶田 優斗・田上 順也―
前鼻 龍聖

【評】日本体育大学、本塁打攻勢で決勝戦へ！

日体大、1点先行の3回二死一塁で4番池田の左翼越えの2点本塁打、5回、1番櫻庭のソロホームラン、続く7回も櫻庭のこの試合2本目の3点本塁打でダメを押し、勝利を確実なものにし決勝戦へ駒を進めた。

一方、敗退した中京学院大は、日体大の豊本、岡部の両投手に1安打完封を許し4回以外、3人で抑えられ攻撃の機会さえ伺えず大敗を喫した。

国士舘大学10201201 : 7
早稲田大学30012002x : 8

[国] 中島 悠貴・中島 優人・●中根 孝太―
橋本 郁弥

(本)横山 翔大 (二)中島 優人

[早] ○杖子 量哉―実重 僚右

(本)前多 悠登・梶谷 陽介

【評】早稲田大学、乱打戦を制して逃げ切る！

1点を追う早稲田大、延長8回、タイブレーカー一走者をこの回先頭打者の4番鳥岡が中堅越え安打で同点とし、続く前多の中堅前安打でサヨナラ勝ちを収めた。

敗退した国士舘大は、3回1本塁打を含む4安打を放ち2点を挙げ同点とし、なおも一死一三塁の好機に適時打が出なかったのが悔やまれる。結果として、早稲田大より多い13安打を放ちながら11残塁と拙攻が敗因である。

▼決勝戦（9月3日）

日本体育大学51200 : 8
早稲田大学00000 : 0

[日] ○小山 玲央―上田 郁也

(本)田中 亨昂② (二)池田泰一朗

[早] ●杖子 量哉―実重 僚右

【評】日本体育大学、連覇で30回目の優勝を果たす！

日体大は初回、5番田中亨の3点本塁打を含む6安打2死球、打者一巡の猛攻で5点を奪取し試合の主導権を握った。2回、田中亨のこの試合2本目のソロホームラン、3回も3安打1死球で2点を挙げた。守っては、エース・小山がその得点差に関係なく、初回から「熱の入った」ピッチングを展開。スピード・切れ味ともに抜群のライズ・ドロップで押しまくり、圧巻の11奪三振、ノーヒットピッチングという要求内容で完封。決勝戦を8-0の5回コールド勝ちを収めて堂々の大勝で連覇を飾った。

一方、早稲田大は約3時間に及んだ直前の準決勝戦で「体力」を奪われてしまったのか、イイところなく完敗。日体大、小山投手の前に失策と四球で走者を出すのが精一杯。5回を打者17人、無安打、11三振に抑えられる大敗で涙をのんだ。

インカレ優勝までの軌跡

日本体育大学男子ソフトボール部主将 池田泰一朗

昨年のチームでもインカレ優勝を果たした日体大は、新チームの発足も他のチームより遅いスタートになりました。レギュラーだった4年生も多数抜け、当初はチームとしての経験不足を露呈し、秋リーグではコールド負けも経験しました。キャプテンとしてなにをすべきなのか、どうすれば勝てるのか悩みました。そこからとにかく自分にも厳しく、周りにも厳しく、言いたくないこともそれが栄光に繋がると思い妥協しませんでした。個人的には下級生のころを思い出そうと、無我夢中でトレーニングやバットを振り込みました。チーム全体としてもトレーニングの量も増やして、継続的に体重管理などトレーナーと一緒にやってきました。確実にどこの実業団チームにも負けない練習量を積んできた自信が春先からのシーズンに生きたと実感しています。もともとポテンシャルの高い選手が多いチームでしたが、弱い方に楽な方に逃げてしまう選手が多いチームでしたが、結果が出るにつれて妥協しない選手が増えたのがチームとしては大きかったと思います。

キャプテンになって大切にしていた言葉があります。それは「主将力」です。この一年間どこに行っても日体大は勝って当たり前だと言われ続けました。改めて強いチームにいれる、みんなが認めてくれているんだと思う反面、それはものすご

いプレッシャーになっていました。勝てる喜び、負ける悔しさといった勝負の醍醐味が勝っても勝ってもいつか大事な時に負けるんじゃないかと思うようになり、試合をするのも練習に行くのも嫌になった時期がありました。そんなときにこの言葉に心を動かされました。キャプテンとはチームの顔であり、大きな幹でなければならないと。どれだけ周りを見ることができているか、応援してくださる人や陰で支えてくださる人にどれだけ感謝を伝えられるか、キャプテンの言動や行動がチームの指針になるので中途半端なことではできないとそこで腹をくくれたと思います。自分は周りに頼るのがへたくそだったので苦労しましたが、同期も見えないところでフォローしてくれたり、後輩への声掛けをしてくれたりと本当に感謝しています。最後になりますが今年は新チームになった時から絶対アベック優勝しようと女子部と話していたので、それが現実になってすごく嬉しいし周りの人の反応を見て、すごいことなんだと実感しています。もうすでに新チームがスタートしていますが、ぜひ来年も力を合わせてアベック優勝を成し遂げてほしいと思います。たくさんのご支援とご声援に感謝致します。ありがとうございました。



全日本大学(男子)選手権大会入賞校・入賞回数

大学名	優勝	2位	3位	入賞
日本体育大学	30	5	4	1
国士舘大学	4	8	7	
早稲田大学	4	4	7	
中京大学	3	6	7	1
東海大学	2	5	6	
立命館大学	2	2	3	1
沖縄国際大学	2		2	
京都産業大学	1	4	5	
中京学院大学	1	1	2	
環太平洋大学	2	1	1	
琉球大学	1			
福岡大学		4	8	1
高崎経済大学		3	1	
同志社大学		3	1	
学習院大学		1	2	
神戸学院大学		1	6	
関西大学		1	6	

3位更新済み

大学名	優勝	2位	3位	入賞
国際武道大学		1	1	
都留文科大学		1		
広島修道大学			4	
九州東海大学			2	
茨城大学			1	
愛媛大学			1	
愛知大学			1	
大阪体育大学			1	
山梨学院大学			1	
龍谷大学			1	
九州産業大学			1	
熊本学園大学			1	
九州共立大学			1	
高知工科大学			1	
城西大学			1	
常葉大学			1	

※53回連続出場校：日本体育大学・早稲田大学・国士舘大学

男子大会打撃ベスト10（規定打席数12以上）

順位	選手名	大学名	打席数	打点	安打	得点	犠打	犠飛	四球	死球	三振	盗塁	残塁	打妨	出塁	本塁打	三塁打	二塁打	打撃率	試合数	
1	中島 悠貴	国士舘	14	12	8	3	3	0	0	2	0	1	2	5	0	10	0	0	0	0.667	4
2	田中 亨昂	日本体育	13	13	7	5	6	0	0	0	0	2	0	2	0	7	3	0	2	0.538	5
3	前多 悠登	早稲田	16	13	6	5	6	0	0	3	0	2	3	3	0	9	2	0	2	0.462	5
4	池田泰一朗	日本体育	17	16	7	3	10	0	0	0	1	0	0	2	0	8	2	0	2	0.438	5
5	廣寄 龍也	日本体育	16	14	6	5	4	0	0	2	0	2	0	1	0	8	0	1	1	0.429	5
5	櫻庭 佑輔	日本体育	16	14	6	7	6	0	0	1	1	1	1	1	0	8	3	0	0	0.429	5
7	植田 涼	日本体育	13	12	5	4	2	0	0	0	1	0	1	2	0	6	0	0	1	0.417	5
8	小貫 満郎	日本体育	14	13	5	4	3	0	0	1	0	0	0	2	0	6	1	0	0	0.385	5
8	鳥岡 健	早稲田	16	13	5	4	8	0	0	3	0	1	1	4	0	8	1	0	0	0.385	5
10	川上 卓也	早稲田	15	11	4	5	1	0	1	2	1	0	2	4	0	7	0	0	1	0.364	5

男子大会投手成績ベスト8（規定投球イニング数11以上）

順位	選手名	大学名	投球回	打者数	打数	被安打	失点	自責点	被犠打	与四球	与死球	奪三振	被本打	暴投数	不正投	投球数	防御率	勝試合	負試合	試合数
1	小山 玲央	日本体育	13	43	42	2	0	0	0	1	0	32	0	0	0	177	0.00	3	0	4
2	比嘉 竜哉	中京学院	15 1/3	55	51	6	1	1	1	2	1	25	1	0	0	223	0.46	3	0	3
3	奥田 拓海	神戸学院	17 2/3	77	68	18	4	2	1	7	1	27	0	0	0	299	0.79	2	0	3
4	石崎 一輝	東京理科	21	74	67	6	3	3	1	3	3	33	1	4	0	309	1.00	2	1	3
5	金子 栄生	熊本学園	17	72	59	9	5	4	0	9	4	23	0	0	0	301	1.65	2	1	3
6	中根 孝太	国士舘	12	52	47	14	5	4	1	1	3	10	0	1	0	172	2.33	2	1	3
7	歳川 幹大	中央	13	62	54	18	12	6	3	3	2	14	1	1	0	206	3.23	1	1	2
8	杖子 量哉	早稲田	29	133	120	35	19	14	3	5	5	17	5	2	0	474	3.38	4	1	5

文部科学大臣杯第53回全日本大学女子ソフトボール選手権大会

会期：平成30年8月31日(金)～9月3日(月)

会場：石川県金沢市／専光寺ソフトボール場

大会概要

日本体育大 14年ぶりの「王座奪還」

大会記録長：佐藤 正典

標記大会は、加賀百万石の城下町、日本三大名園の一つ兼六園が有名な金沢市の専光寺ソフトボール場で開催された。大会には全国各地の厳しい予選を勝ち抜いた精鋭32チームが集結し、大会初日から熱戦が繰り広げられた。

大会初日は不安定な天候の中、各球場1試合目はなんとか消化したが、2試合目序盤に降雨が激しくなりサスペンデッドとなり2日目に順延。翌日も明け方までの雨の影響から関係者総出でグラウンドを整備し、1時間半遅れでの開始となり1回戦を消化するだけとなった。3日目以降はさわやかな好天に恵まれ、予備日を使ってなんとか大会を終えることができた。

大会最終日にベスト4に勝ち上がったのは、今大会7本塁打と打線好調で、過去18回の優勝を誇り一昨年準優勝で王座奪還を狙う日本体育大学。前日に「スミ1」を守り切った、4回目の栄冠を目論む東北福祉大学。ここまで3試合を1点差で接戦をものにし、日体大に次ぐ過去15回優勝の東京女子体育大学。昨年準優勝で、ここまで3試合を無失点と投打がかみ合い危なげない試合運びで雪辱を誓う園田学園女子大学。

決勝には、日本体育大と園田学園女子大が「学生日本一」を目指して激突した。決勝戦は一進一退の攻防を繰り広げ、土壇場で逆転した日本体育大がサヨナラで14年ぶり19回目の優勝をもぎ取った。

特筆すべき記録としては、日本体育大が城西大学との2回戦で、1イニング3本塁打を、またI P U・環太平洋大学と準々決勝で1試合4本塁打の新記録を樹立した。

個人記録に目を向けると、投手部門では、日本文理大学の阿南投手が2試合連続完封の防御率0.67、奪三振12と好投している。打撃部門では、日本体育大の田沼が6割2分5厘。園田学園女子大の下山が5割3分8厘の高打率をマークしている。

大会講評

古豪 日本体育大14年ぶりの優勝

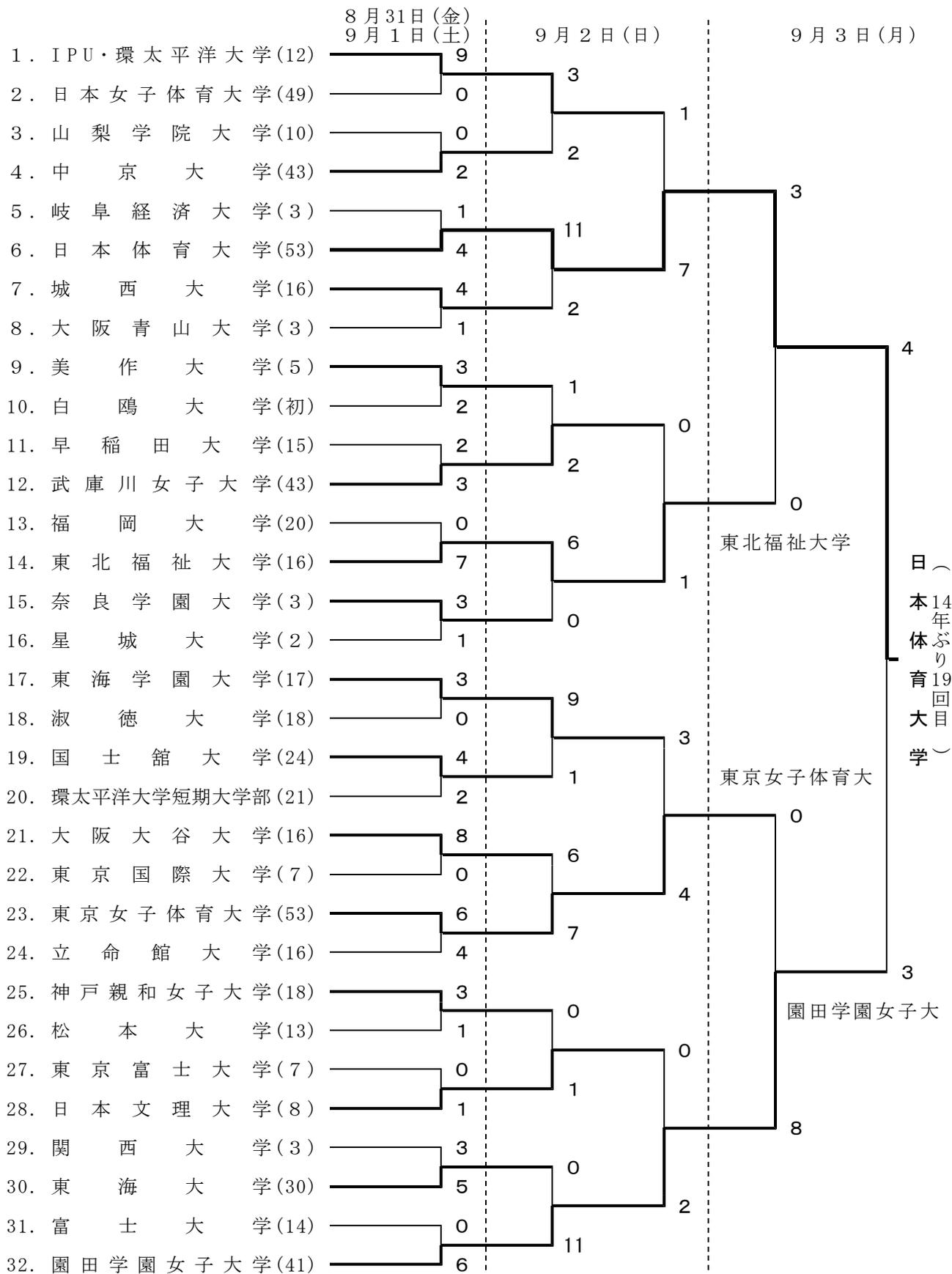
北信越地区常任理事：岩間 英明

全試合会場にバックスクリーン、スコアボード、観客席を備えた国内でも屈指のソフトボール専用球場である金沢市専光寺ソフトボール場が第53回大会の会場となった。

決勝戦はインカレ最多優勝を誇り投打にスキのない日本体育大と、ここ10年間で4強に7回進出している園田学園女子大の名門校同士が、がっぷりと四つに組む大熱戦となった。2回表、園田学園女子大が2本の安打に失策を絡めて1点を奪い先制したものの、日本体育大がすかさずその裏、2本の長打と四球で2点をあげ逆転する。しかし、園田学園女子大は5回に適時打で同点に追いつくと、6回にも再び適時打で1点を加え再逆転。試合の流れからこのまま園田学園女子大が押し切るかにみえたが、最終回、粘る日本体育大は先頭の9番山田が安打で出塁すると、1番亀田の二塁打であっさり同点、さらに1死から2四球で満塁とした後、5番飯田がサヨナラ打を左前へ運び、劇的なサヨナラ勝ちを収め、14年ぶり19回目の優勝を果たし、古豪復活を印象づけた。

また、伝統校の東京女子体育大が6年ぶり、強豪東北福祉大が8年ぶりに4強進出を果たした他、接戦を勝ち抜き8強へ進出した武庫川女子大、今大会唯一の初出場校白鷗大の戦いぶりなども注目された大会であった。

文部科学大臣杯第53回全日本大学女子ソフトボール選手権大会



※ () 内は出場回数で、校名変更のあった大学は以前の名称での出場も含む。

試合結果

▼1回戦（8月31日・9月1日）

環太平洋大学000603 : 9
日本女子体育大学000000 : 0

[環] ○吉井 朝香・上村 紗輝・比嘉瑛里衣ー
米倉 綾香

(三)有吉 茜

(二)桃原 祐里・有吉 茜・岡田 莉歩

[日] ●鈴木 美帆・山本 優花ー久保かえで

【評】IPU・環太平洋大学 先発全員安打でコールド勝ち！

IPU・環太平洋大が4回に4連続を含む6安打、打者一巡の集中打で一挙6点を挙げ試合を優位に進めると、終盤6回に有吉の三塁打などで3点を追加し得点差コールドで初戦大勝した。

日本女子体育大は2、4回に安打を放つも得点できず2安打に終わり、初戦を突破できなかった。

中京大学0001010 : 2
山梨学院大学0000000 : 0

[中] ○金丸侑志帆ー高山美蓉子

(三)川口 菜菜②

(二)佐藤 果歩・杉本 梨緒

[山] ●豊田 彩乃ー菊池 朋美

【評】中京大学 金丸が圧巻の1安打完封！

試合開始から再三の好機を逃していた中京大は4回表に二死から安打・内野失で二進の舟橋を二塁に置いて8番山本が右翼線にはじき返して待望の先取点を挙げた。終盤6回にも川口の三塁打と1番高瀬の適時打で貴重な追加点を挙げ試合を決めた。先発金丸はストライク先行で許した走者は失策を含め3人だけ。外野まで運ばれたのも2本と圧巻の投球で完封。

一方の山梨学院大は敵失とバント安打で一死一二塁と反撃を試みたが後続が併殺に打ち取られた。終わってみれば1安打2四球と振るわず金丸に抑え込まれた。

日本体育大学0300100 : 4
岐阜経済大学0000001 : 1

[日] ○白井 桃佳・鈴木 杏佳・橋口 紫織ー

安川 裕美

(三)亀田 栞里・須藤麻里子

(二)田沼 華乃

[岐] ●鈴木 彩芽ー藤原 穂香

(二)多賀 楓

【評】日本体育大学 先制3点逃げ切る！

初回到二死満塁の好機を逃した日本体育大は、2回二死一二塁で亀田が左中間に三塁打を放ち2者を迎え入れ、続く田沼の適時打でこの回3点を先制し主導権を握った。その後5回にも須藤の中越三塁打と安川の内野安打で1点を追加し快勝した。

岐阜経済大は7回、この回先頭が多賀が右中間三塁打を放ち次打者の犠飛で意地の1点を返したが、反撃が遅すぎた。

大阪青山大学0100000 : 1
城西大学102010x : 4

[大] ●川添 恵・沖島 由奈・川添 恵ー
長井みなみ

(本)杉本明里紗 (二)杉本明里紗

[城] ○遠藤 光姫・松崎 美南ー江口 菜摘

(三)鈴木 美結

【評】城西大学 理想的な試合運びで快勝！

城西大は初回到鈴木の三塁打と連続四球で一死満塁とし富沢の中犠飛で1点を先制した。同点とされた3回、3安打と敵失で2点を挙げ主導権を握った。後半5回には無死満塁の好機を掴み、投ゴロ併殺の間に二塁走者富沢が好走塁で本塁を突き貴重な追加点を奪い、先制、追加、ダメ押しと着実に加点し追う大阪青山大を振り切った。

大阪青山大は2回に杉本が左翼に本塁打を放ち同点に追いついたが、3回以降は毎回のようには走者は出すものの要所を抑えられ得点することができなかつた。

白鷗大学00000020 : 2
美作大学01010001x : 3

[白] 井野口 菜由・●薄井貴代奈ー高橋 亜実

(二)藤川 寧々・猿橋 双葉

[美] ○溝田 玲奈－荻野 真鈴

(二)末本 歩美

【評】美作大学 タイブレーカーを制す！

少人数部員同士の対決はタイブレークにもつれ込んだ。7回に追いつかれた美作大はタイブレーカーの8回裏、無死一二塁で萩野の三塁前バントが犠打野選を誘い満塁。このサヨナラの好機に5番麦谷が中堅に犠飛を打ち上げ、接戦に終止符を打った。

白鷗大は土壇場の7回、井野口、猿橋の連続二塁打と吉田の適時打で2点差を追いついたが、あと1本が出ず涙を飲んだ。

早稲田大学0020000 : 2

武庫川女子大学0001002x : 3

[早] 廣瀬 夏季・伊藤貴世美・●増田 侑希－
手塚麻菜美・加藤 千陽

(二)神 樹里乃・増子 奈保

[武] 脇山 朱音・立目 静奈・○久保田菜々香
－福元 美紗

【評】武庫川女子大学 逆転サヨナラ勝ち！

2点を先行された武庫川女子大は4回に1点を返し迎えた7回、代打谷本が一二塁間を破り出塁、6番福元のバント安打で反撃の狼煙をあげた。続く7番代打中村の投飛が併殺となり万事急須と思われたが、8番代打浅野の右前適時打で土壇場で同点に追いついた。奥田も一二塁間安打で続き、先頭に戻り津田の内野ゴロが敵失を誘い競り勝った。

早稲田大は3回一死から増子の右中間二塁打、二死後5番加藤、6番網島の連続適時打で2点を先取した。その後も毎回のように塁上を賑わすも2併殺を喫し追加点を奪えなかった。

福岡大学00000 : 0
東北福祉大学00206x : 8

[福] ●増本 亜美－片山 瑠奈

(二)野村美沙希

[東] ○永谷 真衣－三浦 愛佳

(三)南 亜子・山北 莉乃

【評】東北福祉大学 5回一気6点、コールド勝ち！

東北福祉大は3回一死から四球、犠打、四球で二死一二塁の好機に2番南の右中間適時三塁打で2点を先行した。5回には山北の右越2点三塁打などで一挙5点を挙げコールド勝ちした。先発の永谷は5回こそ連続安打を許したが8奪三振の好投を見せた。

福岡大は2点を追う5回に、この回先頭の5番野村が左越二塁打で出塁、児玉も中前安打で続き無死二三塁の同点期を掴んだが、後続が打ち取られ一矢を報いることができなかった。

奈良学園大学0000210 : 3

星城大学0001000 : 1

[奈] ○山中 美来－堀 あかね

(二)堀 あかね

[星] ●松岡 里歩・中村 瑠伽・中嶋 瑠々－
榊原 桜

(三)榊原 桜

【評】奈良学園大学 終盤に地力、逆転勝ち！

4回に1点を先行された奈良学園大は5回一死から9番代打の上村、1番曾木の連続安打で好機を掴み、犠打で走者を進め、ここで3番鎌田が中前に弾き返し2点を奪い逆転した。続く6回には死球、犠打の走者を二塁において7番堀が三塁線を破る適時二塁打を放ち、貴重な追加点を挙げ試合を決めた。

星城大は4回一死から5番榊原（桜）が中越三塁打で出塁すると、続く代打の小林が期待に応え右翼へ犠飛を打ち上げ均衡を破る1点を挙げたが、その後は山中投手の前に2安打と振るわず涙を飲んだ。

淑徳大学0000000 : 0
東海学園大学020001x : 3

[淑] ●朝倉 莉奈－小澤 陽

[東] ○竹田 早希・原内 智香－棚町 佳奈

(二)昆野 藍加

【評】東海学園大学 完封リレー！

東海学園大は2回二死から四球、内野安打の走者を置いて9番昆野が走者一掃の左越二塁打で幸先よく2点を先制した。終盤6回には棚町の三塁横の安打、犠打失、犠打で一死二三塁とし、8番細川が左翼へ犠飛を打上げ貴重な追加点を挙げ勝利を決めた。投げては先発武田、継投原内の両投手が好投し無失点に抑えた。

淑徳大は3回と4回に得点圏に走者を進めたが、あと1本が出ず、先発朝倉を援護できなかった。

国士館大学 1010002 : 4
環太平洋大学短大 1010000 : 2

- [国] 丸山 桃花・○小島 亜夢ー本田 渚沙
(二)角田美華子・本田 渚沙
[環] 森 千晴・阿部 優香・●浅井 夏海・
横山菜々子ー久高 亜美
(本)村岡 香菜
(二)山崎 千佳・久高 亜美

【評】国士館大学が競り勝つ！

国士館大は、2対2の同点で迎えた7回一死から2番角田、3番篠原の連続安打と4番本田の左越二塁打で2点奪い試合を決めた。投げては先発丸山、継投小島の両投手が毎回走者を出し危うい試合運びだったが、2併殺など好守備に助けられた。

環太平洋大学短期大学部は1点を先行された初回、村岡の左中間本塁打で追いつき、追加点を奪われた3回にも5番久高の右中間適時二塁打で再び追いついたが、勝ち越しすることが出来ず、相手を上回る11安打を放ちながらも勝利にはあと一歩届かなかった。

大阪大谷大学 101024 : 8
東京国際大学 000000 : 0

- [大] ○吉崎菜々海ー殿井 綾
(二)殿井 綾②・森山 春奈②・領家 妃奈
[東] ●千葉 彩香ー尾田 海音・千葉 彩香ー
大塚あすか・中村 仰
(三)中津 日和

【評】大阪大谷大 着実に加点しコールド勝ち！

大阪大谷大は投打がかみ合い、着実に加点し6回コールド勝ちした。初回、殿井の左中間二塁打で先制。3回、5回に1点ずつ加点し、6回には9番領家、1番森山の連続適時二塁打で3点、一死後この試合ここまで3連続安打の殿井が中越二塁打を放ちさらに1点を追加し東京国際大を突き放した。

東京国際大は3回二死から中津、大國の連続安打と死球で満塁と反撃の糸口を掴んだが、続く大塚が粘った後の11球目を捕邪飛に打ち取られた。5回にも中津が右越三塁打で出塁したが後続が打ち取られ零封された。

東京女子体育大学 0000501 : 6
立命館大学 0000040 : 4

- [東] ○久本 美波・柳橋 里奈・高橋 耶也
ー比護奈保子
[立] ●山口 希・本田 明梨ー日吉野乃子
(三)大西ゆりか

【評】東京女子体育大学 4回に5得点、逃げ切る！

東京女子体育大は4回無死から須田、石野の連続安打と野選で満塁の好機を作り上島の犠飛で1点を先取。その後も古谷、貝沼の連続適時打などこの回打者一巡の猛攻で5点を奪い主導権を握った。6回には花岡の適時打で1点を加え、立命館大を振り切った。主戦の久本は5回2/3を被安打3、7奪三振、無失点と好投した。

立命館大は6点差を追う6回に、2四球と8番大西の左翼線三塁打を含む長短打で4点を返したが、最後は再出場した久本投手に抑え込まれた。5回の大量失点が響いた。

松本大学 0010000 : 1
神戸親和女子大学 200001x : 3

- [松] ●大西 由美・多田 春菜ー草場 夏実・
寺田 優花
(三)甲田のどか
[神] ○有元 茜ー東田 海愛・山口 歩
(二)東田 海愛・井藤 成美・石塚エリナ

【評】神戸親和女子大学が逃げ切る！

神戸親和女子大は、初回3番東田の左越え適時二塁打で先制、さらに5番井藤の左越え適時二塁打で1点追加し試合の主導権を握った。1点差に詰め寄せられた終盤6回には二死一塁から代打の石塚が中越二塁打でダメ押しの追加点を入れ逃げ切った。先発有元は7安打を打たれたが1失点で完投した。

松本大は3回に甲田、熊野の連続安打と暴投で1点を返した。5回二死から甲田の右越三塁打で同点機を掴んだが、あと1本が出なかった。1回に救援した多田が力投してただけに打線の援護が欲しかった。

東京富士大学0000000 : 0

日本文理大学010000x : 1

[東] ●黒木 美紀一星野ひかり

(二)西 愛美

[日] ○阿南 恵子一乙津向茄秋

【評】日本文理大学 阿南、粘投で完封！

日本文理大は2回一死から乙津が遊撃内野安打で出塁、次打者三振のあと有吉が三塁内野安打で先制の好機を掴み、続く9番堀口の遊撃内野安打で先取点を奪った。3本の内野安打で奪ったこの1点を先発阿南が、走者を背負うものの粘り強く要所を締め完封した。

東京富士大2回以外は塁上を賑わし、7回には敵失、安打、2盗塁で一死二三塁と逆転機を掴んだが、後続が投ゴロ、最後は三塁直飛で本塁を踏めず惜敗した。

関西大学0020010 : 3

東海大学023000x : 5

[関] ●高井 菜々・杉本 樹菜一日吉 里香

(二)鎌塚 玲美・辻 楓

[東] ○矢作 実緒一渡邊 真央

(三)野崎 杏郁

【評】東海大学 接戦を制す！

東海大は、同点に追いつかれた直後の3回に一死から渡邊（真）、遠畑の連続安打、盗塁で二三

塁とし6番野崎の左中間を深々と破る三塁打で2点、続く佐藤の投前バント安打でさらに1点を奪い試合の流れをつかみ、先発矢作が相手の攻撃をしのご勝利した。

関西大は6回に石橋の内野安打を足掛かりに野選で1点を返し2点差と迫った。7回には3番辻が中越えの二塁打を放ったがあとが続かず、勝利までには届かなかった。

園田学園女子大学1000050 : 6

富士大学0000000 : 0

[園] ○秋豆 朱音・小西 彩未一椀山 奈々

(三)下山 絵里

(二)中村 優花・椀山 奈々

[富] ●苅込 千波一 相馬 里砂

【評】園田学園女子大学 終盤6回に集中打！

園田学園女子大は初回、先頭の中村が左中間二塁打で口火を切り内野ゴロの間に幸先よく1点を先行。膠着状態が続いた後、終盤6回椀山が左中間二塁打、下山が左越三塁打と連続適時打で2点を追加し、この回打者一巡7長短打の猛攻で5点を奪い圧勝した。投げては先発秋豆、継投小西が被安打4の好投を見せ零封した。

富士大は、3回一死から9番山口が中前安打で出塁、1番金田も右前安打と続いたが一塁走者が三塁を欲張り右翼手の好返球で三塁憤死。次打者が左前安打を放っていただけに悔やまれる。

▼2回戦（9月2日）

中京大学01100000 : 2

環太平洋大学00011001x : 3

[中] 丹羽 萌・寺澤小百合・丹羽 萌・

●金丸侑志帆一高山美蓉子

(三)佐藤 果歩

(二)山元 綾乃・佐藤 友香

[環] ○吉井 朝香一米倉 綾香

(二)米倉 綾香

【評】環太平洋大学 延長8回サヨナラ勝ち！

2点を先行されたIPU・環太平洋大は4回と5回に相手守備の乱れに乗じ得点し同点に追いつ

いた。タイブレークに突入した8回は、ここまで3安打の米倉が三振に倒れ、5番中川は勝負を避けられ故意四球、続く桃原の犠打が野選を誘い一死満塁。この好機に岡田の一塁内野安打でサヨナラの走者を迎え入れた。

中京大は2回に山元の中越適時二塁打、3回に佐藤（果）の右越三塁打などで2点を先行した。その後も得点圏に走者を進めたがあと1本が出ず、8回は二塁走者が遊撃直飛で併殺され得点することができなかった。

城西大学00020 : 2
日本体育大学7040x : 11

[城] ●遠藤 光姫・松崎 美南・遠藤 光姫・市沢 美佳—江口 菜摘

(二)金子 知香

[日] ○長谷川鈴夏・浅井 茉琳—安川 裕美

(本)亀田 栞里・竹中 真海・木原菜々子

(三)山田 柚葵

(二)安川 裕美・田沼 華乃・竹中 真海

【評】日本体育大 木原が満塁本塁打！

日本体育大は、初回亀田が先頭打者本塁打を打ち強力打線に火をつけた。四球後竹中が右越2点本塁打、その後も四球、中前安打、打撃妨害と攻め8番木原がセンターに大会通算7本目となる満塁本塁打を打ち込んだ。この回打者13人、7安打の猛攻で一挙7点を挙げ、3回にも4点を加え圧勝した。この1イニング3本塁打は奇しくも昭和55年に同じ金沢市で記録された1イニング2本塁打を38年ぶりに更新した。

城西大は4回に3番金子の右中間適時二塁打と敵失などで2点を返したが、序盤の大量失点が響いた。

武庫川女子大学0000101 : 2
美作大学1000000 : 1

[武] 脇山 朱音・○久保田菜々香—福元 美紗

[美] ●溝田 玲奈—荻野 真鈴

(二)荻野 真鈴

【評】武庫川女子大 7回に決勝点、逆転勝ち！

武庫川女子大は1点を追う5回、安打、盗塁、犠打で二死三塁の好機を掴むと4番後藤の左前適時打で同点に追い付いた。7回には二死から前田の二遊間安打、四球で一二塁と好機を掴んだ。続く代打の4、6球目にまさかの暴投で勝ち越し点をもぎ取った。投げては2回途中から救援した久保田が被安打1、無失点と好投し勝利に貢献した。

美作大は初回に左前安打の比嘉を手堅く犠打で進め、この好機に萩野が期待に応じて右越適時二塁打を打ち1点を先制した。2回以降は久保田に要所を締められ得点することができなかった。

奈良学園大学0000000 : 0
東北福祉大学100041x : 6

[奈] ●馬本 実侑・山中 美来・尾高 杏花—堀 あかね

[東] ○保坂 鼓・工藤 遥—三浦 愛佳

(三)山北 莉乃・小野寺セリカ

(二)山北 莉乃

【評】東北福祉大 先発保坂、6回1安打無失点！

東北福祉大は初回に先頭の山北が右越三塁打で出塁、一死後3番大石が二遊間を抜く適時打で1点を先制。5回には佐々木（佳）の右翼線適時三塁打など5安打で4点を加え、6回にも山北の適時打で1点を追加した。先発の保坂は6回を1安打無四球で零封し、継投の工藤も7回を無失点で切り抜けた。

奈良学園大は6回に一死三塁の絶好の得点機をつくるもあと1本が出なかった、先発馬本は4回まで1失点の力投を見せた。

東海学園大学02151 : 9
国士舘大学00100 : 1

[東] ○竹田 早希・山田 玲菜—棚町 佳奈

(三)吉田 彩夏②

[国] ●丸山 桃花・小島 亜夢・菅原佐和子—本田 渚沙

【評】東海学園大学 10安打9点得点でコールド勝ち！

東海学園大は、2回に小島の右前適時打などで2点を先取。3回にも吉田の右越三塁打と犠飛で1点を加えた。2点差に詰め寄られた4回、連続安打と犠打で一死二三塁から星野の二遊間2点適時打、さらには3番吉田の左中間適時三塁打などで一挙5点を奪った。5回にも1点を加えコールド勝ちした。

国士舘大は3回に西野、岩崎、角田の3連打で1点を返し、5回にも2四死球で反撃を試みたが最後は併殺に打ち取られた

大阪大谷大学 1 0 0 0 0 0 5 : 6
東京女子体育大学 3 1 1 2 0 0 x : 7

- [大] ●吉崎菜々海一殿井 綾
(二)東郷 佑実・仁科 芽惟・殿井 綾
[東] ○久本 美波・佐々木さくら・今西 美穂
・古川 由乃・久本 美波一比護奈保子
(三)貝沼 晴香
(二)上島 紗羽・兼平 真咲・比護奈保子

【評】乱打戦、東京女子体育大学逃げ切る！

両チーム合わせて25安打が飛び交う乱打戦を東京女子体育大が制した。

東京女子体育大は初回、上島と兼平の連続適時二塁打で3点を先制し、2回に1点、3回にも貝沼の右翼線適時三塁打で1を加点した。なおも攻撃の手は緩めず4回には比護の適時二塁打を含む3連打で結果的には決勝点となる2点を奪った。

大阪大谷大は6点差を追う7回、9番領家から2本の適時二塁打を含む6連続安打で5点を返し1点差と迫り、なおも無死満塁と逆転の好機を掴んだが、後続が一塁直飛併殺、三振であと1点が取れなかった。

神戸親和女子大学 0 0 0 0 0 0 0 : 0
日本文理大学 0 1 0 0 0 0 x : 1

- [神] 有元 茜・●平良 優花一東田 海愛・
山口 歩・東田 海愛
[日] ○阿南 恵子一乙津向茄秋
(二)小坂 茜

【評】日本文理大学 阿南が2試合連続完封！

日本文理大は、2回二死から藤田が右前、堀口が中前に連続安打し、1番に戻って川畑が三遊間を抜き二塁走者を迎え入れ先取点を奪った。この1点を先発阿南が6安打を打たれながらも粘りの投球で守り切り、2試合連続で完封した。

神戸親和女子大は、4回に畑垣、井藤の連続安打で得点圏に走者を進めたが、後続が打ち取られた。また6回には一死二塁と好機を掴んだが、三振併殺で追いつくことができなかった。救援の平良が好投し、2回の3連打の1点に抑えていただけにあと1本が欲しかった。

東海大学 0 0 0 0 : 0
園田学園女子大学 3 0 8 x : 11

- [東] ●矢作 実緒・伊東 彩・矢作 実緒一
渡邊 真央
[園] ○三原 千空・根本 七海一服部 洋代
(本)下山 絵里
(二)中村 優花・石川 恭子

【評】園田学園女子大学 3回猛攻8点！

園田学園女子大は、初回に下山の3点本塁打で先行した。3回にはこの回先頭の石川が中越二塁打で口火を切り、打者13人6長短打の猛攻で一挙8点を挙げ、5回コールド勝ちした。投げては先発三原、継投根本が被安打1、2四死球で三塁を踏ませず零封した。

東海大は、3回に渡邊の右前安打と四球で二死一二塁と攻めたが、後続が三振に終わり一矢を報いることができなかった。

▼準々決勝戦(9月2日)

日本体育大学 0 1 0 0 2 3 1 : 7
環太平洋大学 1 0 0 0 0 0 0 : 1

- [日] ○長谷川鈴夏・中山日菜子一安川 裕美
(本)山田 柚葵・須藤麻里子・新居かなえ・
田沼 華乃
(三)木原菜々子
[環] ●吉井 朝香・藤 彩夏一米倉 綾香
(二)中川 彩音

【評】日本体育大学 終盤の4本塁打で昨年王者下す！

日本体育大は、2回に木原の右越三塁打などで同点に追いついた。3、4回は走者を出すものの併殺で得点できなかったが、終盤打線が奮起した。5回に山田が右中間に2点本塁打、6回に須藤が右翼へ本塁打、山田が2打席連続で中堅に放り込み計3点、7回にも田沼が左中間へ大会新記録となるチーム1試合4本目の本塁打を放ち圧勝した。

I P U環太平洋大は、初回に連続敵失から幸運な先取点を貰ったが、以降は散発の4安打で得点することができず、連覇の夢は散った。

東北福祉大学10000000 : 1
武庫川女子大学00000000 : 0

[東] ○永谷 真衣—三浦 愛佳
(三)菊地野乃子・小野寺美里

[武] ●久保田菜々香・立目 静奈—福元 美紗
(三)後藤 愛佳

【評】東北福祉大学 「スミ1」を守り切る！

東北福祉大は、初回二死から死球の走者を一塁に置いて5番菊地が右越適時三塁打で迎え入れ1点を先行した。4回には二死から小野寺の左越三塁打が出たが、追加点を奪うことができなかった。結局初回の1点を先発永谷が守り切り被安打3で完封勝ちした。

武庫川女子大は、2回にこの回先頭の須藤が左翼線に三塁打を放ち、無死三塁と絶好の同点機を作ったが、後続が3連続で飛球を打ち上げ好機をつぶした。5回には内野安打、四球、故意四球で二死満塁としたが、次打者が三振し得点することができなかった。

東海学園大学0010110 : 3
東京女子体育大学001210x : 4

[海] ●竹田 早希・柴田 果歩・原内 智香・
竹田 早希—棚町 佳奈
(本)棚町 佳奈
(三)高田有実香・細川 香恋
(二)高田有実香

[京] ○久本 美波—比護奈保子

【評】東京女子体育大学 久本粘投、逃げ切る！

東京女子体育大は、3回に同点に追いつき、4回に一死二塁で古谷の右翼線適時打で1点、二死後9番臼杵の中前適時打で1点を追加しこの回2点を奪った。続く5回には上島の三遊間安打と野選で一死一二塁とし、内野ゴロ失の間に貴重な追加点を挙げた。投げたは久本が粘りの投球で1点差を守り切り逃げ切った。

東海学園大は3回に高田の一塁線を破る三塁打などで1点を先取。5回には右越三塁打の細川を犠飛で迎え入れ1点。6回にも4番棚町の中越本塁打で1点を返し1点差と迫ったが、あと1点が足りなかった。

園田学園女子大学0002000 : 2
日本文理大学00000000 : 0

[園] 小西 彩未・○三原 千空—椛山 奈々
(二)下山 絵里

[日] ●阿南 恵子—乙津向茄秋・森田 京
(二)小坂 茜

【評】園田女子学園大 完封リレーでベスト4！

園田学園女子大は両校無得点で迎えた4回、四球、盗塁の無死二塁で椛山の左前適時打で待望の先取点を挙げ、さらに本塁送球の間に二進で好機は続き、下山の右中間を破る適時二塁打で2点目を奪った。投げては先発小西、継投三原と早めの継投策が爽り、初回のピンチ以外は三塁を踏ませなかった。

日本文理大は、初回二死からの小坂の三塁打を生かせず、その後は走者を出すもののあとが続かず、ここまで2試合連続完封の阿南を援護することができなかった。

▼準決勝戦(9月3日)

東北福祉大学00000000 : 0
日本体育大学100020x : 3

[東] ●保坂 鼓・永谷 真衣—三浦 愛佳
[日] ○中山日菜子—安川 裕美
(三)山田 柚葵

(二) 亀田 栞里・木原菜々子

【評】日本体育大学 毎回安打で決勝進出。中山 1 安打完封！

後攻の日本体育大は初回、一死から田沼が14球粘って四球で出塁、続く竹中も四球を選び一死一二塁とし、4番本間が三遊間を破って1点を先制した。2回以降走者は出すものの得点には至らず緊迫した展開が続いた。5回にこの回先頭の9番山田が一塁手横を破る右翼線三塁打で出塁すると、1番に戻り亀田が左翼手頭上を越す適時二塁打を放ち待望の追加点を挙げた。さらに一死後竹中の右前適時打でもう1点加えた。投げては先発中山が被安打1、奪三振10の見事な投球を披露し完封勝ちした。

一方の東北福祉大は中山の力投になすすべなく、4回の左前安打、6回の四球と僅かに走者2人と打線が沈黙。投手陣が毎回の8安打を浴びながらも大崩れしなかっただけに攻略の糸口を見つけて欲しかった。

東京女子体育大学 0 0 0 0 0 : 0
園田学園女子大学 4 1 3 0 x : 8

【東】 ●久本 美波・佐々木さくらー比護奈保子

【園】 ○秋豆 朱音・三原 千空ー椀山 奈々

(本) 下山 絵里

(二) 中村 優花・椀山 奈々・下山 絵里・

石川 恭子

【評】園田学園女子大学 投打がっちり4試合連続無失点！

園田学園女子大は1回先頭の中村が中越二塁打で出塁、犠打、四球で一死一三塁とし、4番桃山が左中間に適時二塁打を放ち二者を迎え入れ、さらに主砲下山の中越2点本塁打で4点を奪い、試合の主導権を手にした。2回にも宮崎、下村の連続安打から一死後屋瀬の右前適時打で1点を追加し、3回には下山の二塁打を足掛かりに二つの犠飛等で3点を加え5回コールド勝ちした。投げては秋豆、三原の好投で1安打無失点に抑え、今大会4試合無失点で3年連続の決勝戦へ駒を進めた。

東京女子体育大は2回にこの回先頭の比護が左

前安打で出塁し犠打で得点圏に進んだが、後続なく得点できなかった。以降は走者を出すこともできず準決勝敗退となった。

▼決勝戦（9月3日）

園田学園女子大学 0 1 0 0 1 1 0 : 3
日本体育大学 0 2 0 0 0 0 1 x : 4

【園】 秋豆 朱音・●三原 千空ー椀山 奈々

(二) 下村 歩実

【日】 長谷川鈴夏・○中山日菜子ー安川 裕美

(二) 安川 裕美・山田 柚葵・亀田 栞里

【評】日本体育大学 逆転サヨナラで14年ぶり19回目の優勝！

先攻の園田学園女子大は2回表園部、小西の連続安打で二死一二塁から内野ゴロ失策、挟殺失で幸運な先取点を挙げた。その裏日本体育大は、7番安川の左越二塁打、四球の好機に山田が右中間に2点適時二塁打を放ち逆転し、嫌な流れを断ち切った。5回表に石川の適時打で同点とした園田学園女子大は6回表に、下山が三遊間を破り犠打と内野ゴロで二死三塁の好機を掴み、代打の白石が期待に応えて右前に適時打を放ち1点を勝ち越した。これで勝負は決したかと思われたが、土壇場の7回裏、日本体育大はこの回先頭の9番山田が遊撃手の横を抜く安打で出塁。1番に戻り亀田が初球を左中間の一番深い所へ適時二塁打を放ちまず同点、本塁送球の間に打者走者も三塁に進み、一死後敬遠気味の四球と故意四球で満塁の最高の舞台が整い、この好機に5番飯田の放った打球は前進守備のレフトの頭上を越し劇的な決着で歓喜の輪ができた。

日本体育大が手に汗握る緊迫した好ゲームを制し、14年ぶり19度目の優勝、21年ぶりの「男女アベック優勝」を飾るとともに、見事「王座奪還」を果たした。敗れた園田学園女子大も3年連続での決勝進出。昨年準優勝の「リベンジ」を果たすことはできなかったが、準決勝までの4試合はすべて完封勝ち。決勝でも「堂々たる戦い」を見せてくれ、最後は詰め掛けた観客から惜しみない拍手が送られていた。

最高の景色っ何だろう

日本体育大学女子ソフトボール部主将 本間 睦

今年のチームが始動してからこの一年間、日本日本一を目指した4年間の答がようやく出た。

今年のチームテーマは「真に想えるチーム」。60人近い大所帯が一つになって戦うにはこれしかないとして新チーム発足時に決めた。チームの勝利を、仲間の活躍を、全員が心から想えるチームを作りたいかった。私の心に強くある言葉。「one for all all for one～一人はみんなのために、みんなは一人のために～」こんなチームにしたかった。高橋監督は、「一人の打席は日体大の打席、一人の投球は日体大の一球」と言い続け、常に緻密なソフトボールを求めている。私達のもう一つの目標。それは大切な家族を持ちながら、朝早くから夜遅くまで選手の為に尽くしてくれている監督を「日本一の監督」にすること。時に厳しく、それ以上に選手想いの監督を私達は信じ続けた。優勝して胴上げしている時本当に幸せだった。監督の苦勞が報われた。形になって本当に良かったと強く思った。

ここまで来る道はそう簡単な道ではなかった。想いが伝わらなかったり、下級生とぶつかったり、結果が出なかったり、求めているものとの違いに、どうしていけばいいのか、何を目指していけばいいのか、何度も分からなくなった。キャプテンとして、約60年以上の歴史や伝統をプレッシャーに感じる事もあった。それでも気づけばいつもチームみんなでお互いに励まし合い、前を向いて進み続けた。

チームとして一年間やってきた事がある。「思い交換」、「本気ノート」メッセージやノートのやりとりでいつもはあまり知ることの出来ない学年を越えた関係でも思いを伝えることが出来た。自分の想いや、今考えていること、悩んでいることなど、内容は様々。グラウンドでは知ることの出来ないような本音を知ることが出来、コミュニケーションや仲間を深く知ることにも大きく繋がった。そしてこれらが「真に想えるチーム」に大きく近づけた。

夏に近づくにつれて、思いは形にそしてそれが最大の強みになった。大所帯がたく強い束になり、全日本総合東京都予選、東日本インカレでは、理想のチームが形になり優勝することが出来た。

そして迎えた最後の夏。日本一を目指せる最後のインカレ。チームの思いは強かった。メンバー、メンバー外、応援団、日体大が一つになった。14年ぶり19回目の日本一。そして21年ぶり、10回目のアベック優勝。ずっと目指し続けた日本一は「勝ち」よりも大きな「価値」を私達に教えてくれた。大切な仲間と大好きな監督と掴み取った優勝は、一生忘れることのない、心に刻まれる優勝になった。技術だけでは勝てない。技術に勝る何かを見つけなければならない。それは「仲間を真に想うこと」だった。そして「最高の景色」とは言葉では表せない夢のような景色だった。



全日本大学(女子)選手権大会入賞校・入賞回数

大学名	優勝	2位	3位	入賞	大学名	優勝	2位	3位	入賞
日本体育大学	19	13	7	1	大阪体育大学		1	1	
東京女子体育大学	15	15	9		東海学園大学		1	1	1
園田学園女子大学	6	6	9		東海女子大学		1	1	
東北福祉大学	3		3		鈴鹿国際大学		1	1	
日本女子体育大学	1	5	8		九州女子大学			2	
大阪成蹊女子短大	1	4	5		仙台大学			2	
中京大学	1		12	1	東京富士大学			1	1
淑徳大学	1		2		関西外国語大学			1	
大阪大谷大学	1		2		神戸親和女子大学			1	
中京女子大学	1		1		龍谷大学			1	
早稲田大学	1		1		愛媛女子短期大学			1	
環太平洋大学	1		1		龍谷大学			1	
東京国際大学	1				清和大学			1	
武庫川女子大学		2	6		福岡大学			1	
大阪国際大学		2	2		立命館大学			1	

※旧校名分を含む ※第39回の優勝は2校 ※第50回は入賞4校 ※50回連続出場校：日本体育大学・東京女子体育大学

女子大会打撃ベスト10 (規定打席数12以上)

順位	選手名	大学名	打席数	打点	安打	犠打	犠飛	四球	三振	盗塁	残塁	打出	本塁打	三塁打	二塁打	打撃率	試合数				
1	田沼華乃	日本体育	19	16	10	2	3	1	0	2	0	2	0	3	0	12	1	0	2	0.625	5
2	下山絵里	園田学園	15	13	7	3	7	1	0	1	0	2	0	1	0	8	2	1	2	0.538	5
3	上島紗羽	東女体	13	10	5	3	4	1	1	1	0	1	0	0	0	6	0	0	1	0.500	4
4	石川恭子	園田学園	18	11	5	6	3	1	0	6	0	2	3	6	0	11	0	0	2	0.455	5
5	須田真琴	東女体	14	10	4	2	0	2	0	0	2	1	0	3	0	6	0	0	0	0.400	4
6	須藤麻里子	日本体育	16	16	6	4	2	0	0	0	0	2	0	5	0	6	1	1	0	0.375	5
6	椋山奈々	園田学園	17	16	6	2	5	0	0	0	1	0	0	0	0	7	0	0	2	0.375	5
8	山北莉乃	東北福祉	13	11	4	4	3	0	0	2	0	2	2	3	0	6	0	2	1	0.364	4
8	大石沙和	東北福祉	12	11	4	3	2	0	0	0	1	0	1	2	0	5	0	0	0	0.364	4
10	飯田瑞稀	日本体育	17	14	5	1	2	1	0	2	0	1	0	5	0	7	0	0	0	0.353	5

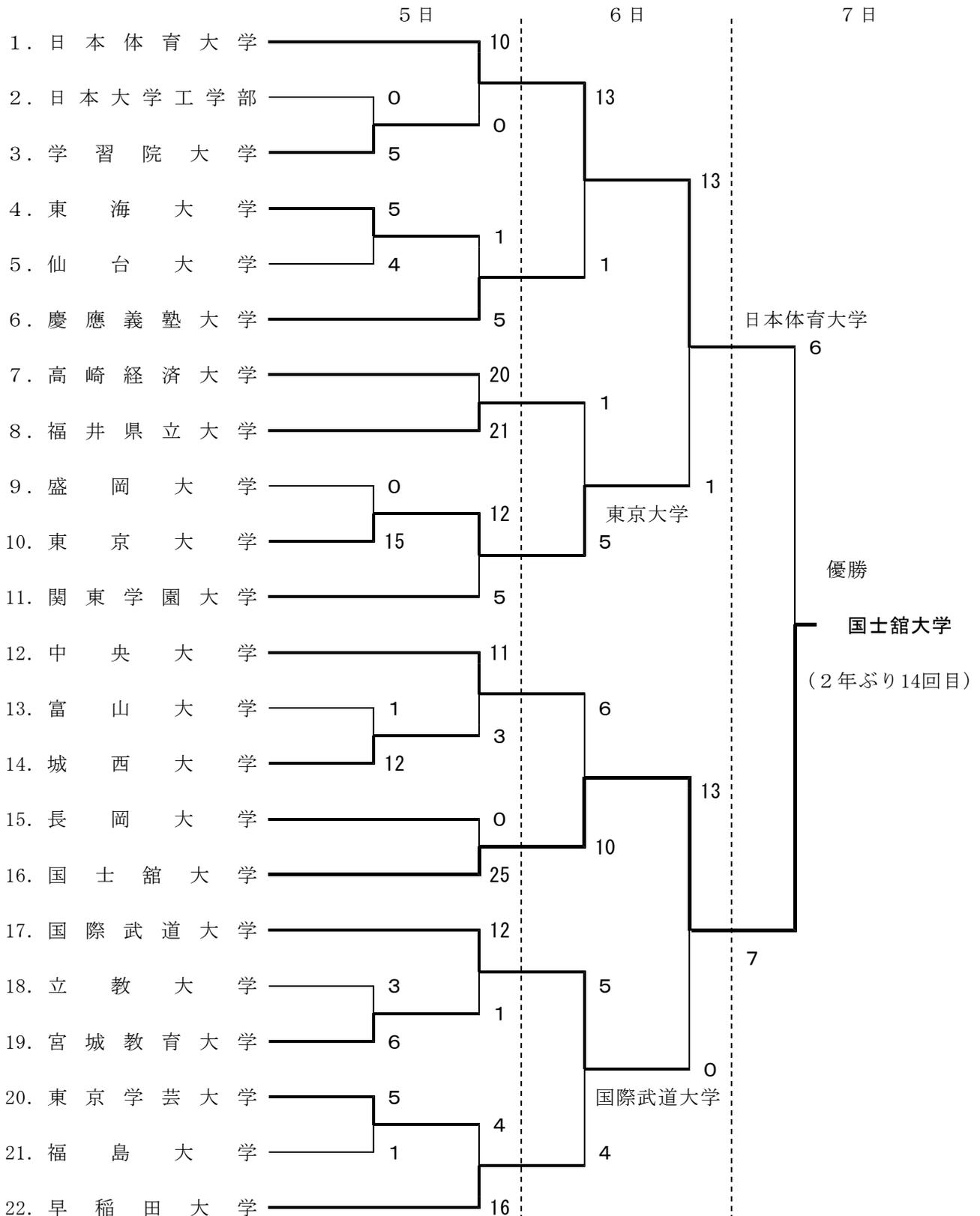
女子大会投手成績ベスト9 (規定投球イニング数11以上)

順位	選手名	大学名	投球回	打者数	打点	被安打	失点	自責点	被犠打	与四球	与三振	奪三振	暴投	不正投	投球数	防御率	勝試合	負試合	試合数	
1	阿南恵子	日本文理	21	85	76	17	2	2	2	6	1	12	0	0	0	321	0.67	2	1	3
2	永谷真衣	東北福祉	15	60	52	11	2	2	3	5	0	15	0	0	0	220	0.93	2	0	3
3	長谷川鈴夏	日本体育	13 2/3	55	49	11	4	2	5	1	0	7	0	0	0	188	1.02	2	0	3
4	三原千空	園田学園	12 2/3	50	43	6	2	2	1	5	1	7	0	0	0	169	1.11	2	1	4
5	溝田玲奈	美作	15	62	54	17	4	3	3	5	0	8	0	2	0	205	1.40	1	1	2
6	吉崎菜々海	大阪大谷	12	54	51	15	7	3	1	0	2	7	0	0	0	172	1.75	1	1	2
7	竹田早希	東海学園	11 2/3	49	40	10	3	3	4	3	2	8	0	0	0	190	1.80	2	1	3
8	吉井朝香	環太平洋	18	68	64	17	8	6	0	3	1	11	3	0	0	292	2.33	2	1	3
9	久本美波	東女体	21 2/3	96	81	24	12	11	7	7	1	18	2	1	0	377	3.55	3	1	4

第33回東日本大学(男子)ソフトボール選手権大会

会期：平成30年8月3日(金)～8月6(月)

会場：富山県富山市／岩瀬スポーツ公園ソフトボール場



試合結果

▼1回戦（8月4日）

学習院大学0001301 : 5
日本大学工学部0000000 : 0

[学] ○古河 健太-浅見 宗一郎

(本)渡邊 和哉

(二)渡辺 大志・井戸 勝也

[日] ●菅野 和輝-土屋 行大

東海大学3000110 : 5
仙台大学1000030 : 4

[東] ○高橋 祐輔-吉江 元希

(三)吉江 元希 (二)田所 諒馬

[仙] ●西 造史-嶋貫 佑平

盛岡大学000 : 0
東京大学564x : 15

[盛] ●角 太志-佐久間 敬

(三)吉江 元希 (二)田所 諒馬

[東] ○森岡 純平-平子 文崇

(二)池内 俊也

富山大学0010 : 1
城西大学525x : 12

[富] ●安岡 拓海-和氣 健太郎

[城] ○工藤 駿・高橋 陸・後藤 真誓-

小林凌也・黒田湧太

(本)小林 凌也

(二)宇治川大和②・原 圭太・斎藤 壮馬・

渡辺 暢

立教大学0002001 : 3
宮城教育大学100023x : 6

[立] ●星 光太郎-椎根 大輔

[宮] ○高橋 達也・松本 智貴-藤田 紘平

(本)小林 凌也

福島大学0001000 : 1
東京学芸大学003101x : 5

[福] ●水上 武斗-谷口 貴洋

[東] ○赤峯 悠太-座間 航

▼2回戦（8月4日）

日本体育大学20116 : 10
学習院大学00000 : 0

[日] ○岡部 樹滉・酒井 匠-山田 雄万・

調 和政

(本)メンス・ジエラン秀吉・濱田 慎②

[学] ●古河 健太・新井 啓一郎・根本 大輔

-浅見宗一郎

(二)浅見宗一郎

東海大学0010000 : 1
慶應義塾大学000005x : 5

[東] ●佐藤 拓矢-吉江 元希

(本)福田 耕大・丸山 岳

[慶] ○笠井 亮之介-古川 雄一

(本)日下 秀太 (三)澤畑 海斗

(二)萬代 悦正

高崎経済大学27112412 : 20
福井県立大学02019603x : 21

[高] ●青木翔太郎・武石 拓也-田中 樹

(本)吉江 元希

(三)福田 耕大・溝井竜之介

(二)丸山 岳②・宮下 翼②・福田 耕大

[福] ○川村 尚之-佐古田 慎

(本)佐古田 慎

(三)青山 源太・赤井 勇斗

(二)大賀 悠馬,佐古田 慎

東京大学0016104 : 12
関東学園大学3101000 : 5

[東] ○森岡 純平・今川 直人-平子 文崇

(三)森岡 純平・大久保 峻

(二)森岡 純平②

[関] ●土屋 克司-大木 智之

(二)大木 智之②

中央大学422012 : 11
城西大学001200 : 3

[中] ○歳川 幹大-大川 智

(本)大淵有輝也

[城] ●後藤 真誓・町田 幸正・高橋 陸一
小林 凌也
(二) 保科 太良

長岡大学000 : 0
国士舘大学205x : 25

[長] ●池田 雄大・齋藤 吏・池田 雄大一
尾島 聡

[国] ○中島 悠貴・中島 優人・中根 孝太一
橋本 郁弥・亀田 弦希

(本)中島 悠貴・山本 潤
(二) 中島 悠貴・竹内 功

国際武道大学6204 : 12
宮城教育大学0001 : 1

[国] ○羽鳥淳之介・福崎 史也一西浦 龍
(三)大間 洋平・吉田 大輝

(二)石井 翔太・永尾 嘉宣

[宮] ●高橋 達也・松本 智貴一藤田 紘平

(二) 佐藤 駿太・松本 智貴

早稲田大学4642 : 16

東京学芸大学0004 : 4

[早] ○杖子 量哉・山内 壮起・松下 直矢一
実重 僚右

(本)杉本 亮太

(二)梶谷 陽介・鳥岡 健

[東] ●赤峯 悠太・伊東 航平一座間 航

▼準々決勝戦(8月5日)

日本体育大学70204 : 13

慶應義塾大学00100 : 1

[日] ○三浦 大和・板垣 翔斐・小山 玲央一
山田 雄万・調 和政

(本)山田 雄万

(二)関 亘・矢野口 功司

[慶] ●笠井 亮之介・川崎 惇平・笠俊史郎一
古川 雄一

(二)澤畑 海斗

福井県立大学0000100 : 1

東京大学010220x : 5

[福] ●川村 尚之一佐古田 慎

(本)佐古田 慎

[東] ○森岡 純平一平子 文崇

中央大学0000 : 0

国士舘大学0244x : 10

[中] ●歳川 幹大一山田 雄一

(二)大淵有輝也

[国] ○中島 優人一橋本 郁弥

(本)八角光太郎・岡 龍太郎

(三)竹内 功 (二)中島 優人

早稲田大学0030010 : 4

国際武道大学001121x : 5

[早] ●杖子 量哉一実重 僚右

[国] ○柴田 將希一石井 翔太・西浦 龍

(本)重川 葵・菅 守継

(三)大間 洋平

▼準決勝戦(8月5日)

東京大学0100 : 1

日本体育大学1246 : 13

[東] ●今川 直人・池内 俊也一平子 文崇

(二)久次米康太

[日] ○岡部 樹滉・酒井 匠一上田 郁也・

調 和政

(本)上田 郁也・調 和政

(二)上田 郁也・小貫 満郎・メンス^o・ジ^oェラン
秀吉

国際武道大学0000 : 0

国士舘大学544x : 13

[際] ●羽鳥 淳之介一西浦 龍

[士] ○中島 悠貴・中根 孝太一橋本 郁弥・

亀田 弦希

(本)中島 悠貴・岡 龍太郎

(二)河本 悠司・八角光太郎

▼決勝戦(8月6日)

日本体育大学0041001 : 6

国士舘大学1140001x : 7

[日] ●酒井 匠一調 和政・上田 郁也

(本)植田 涼 (二)小貫 満郎

[国] 中根 孝太・中島 悠貴・中根 孝太・

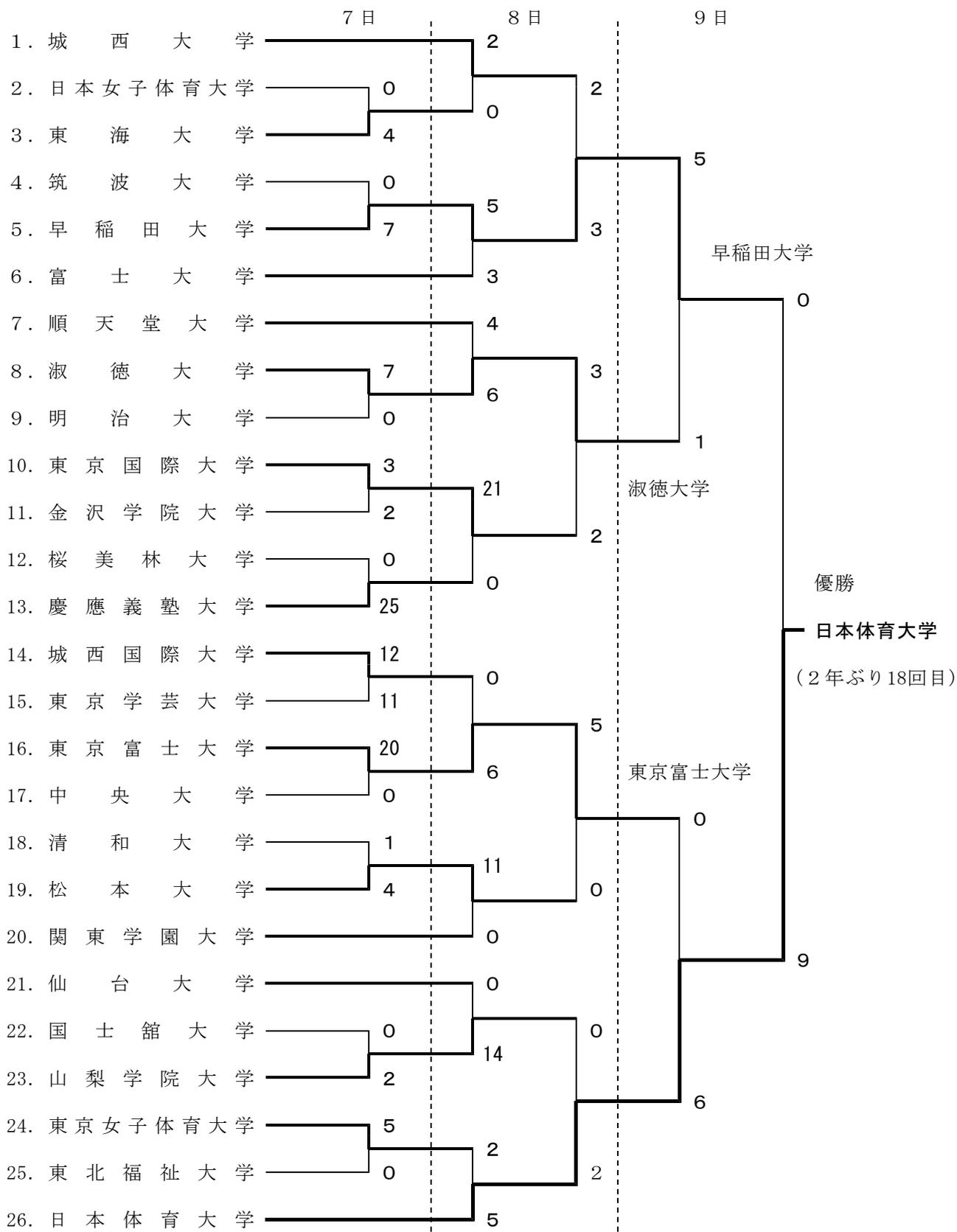
○中島 悠貴一橋本 郁弥

(本)八角光太郎・中島 優人

第33回東日本大学(女子)ソフトボール選手権大会

会期：平成30年7月5日(土)～9日(月)

会場：東京都町田市／町田市民球場 他



試合結果

▼1回戦(7月7日)

日本女子体育大学0000000 : 0
東海大学000301x : 4

[日] ●山本 優香・鈴木 美帆-久保かえで
[東] ○矢作 実緒-渡邊 真央
(二)外岡 雅

筑波大学00000 : 0
早稲田大学0025x : 7

[筑] ●大谷 悠里江・山田 理衣-工藤 実里
[早] ○廣瀬 夏季・伊藤 貴世美・増田 侑希
-河野 友里・手塚麻菜美
(三)増子 奈保
(二)川崎 楽舞・落合 未稀・丹野ちさき

明治大学00000 : 0
淑徳大学2023x : 7

[明] ●岡田 汐音-松永美緒里
[淑] ○朝倉 莉奈・中澤 萌-小澤 陽
(三)比内 美波②・金子 千夏

金沢学院大学0000002 : 2
東京国際大学010002x : 3

[金] ●山中 美輝-氏丸 陽南
(三)前 まりの
[東] 千葉 彩香・○尾田 海音-中村 仰・
大塚あすか
(三)芝 奏 (二)横山 蒼

桜美林大学0000 : 0
慶應義塾大学2005x : 25

[桜] ●山中 美輝-氏丸 陽南
[慶] ○馬場 暁子・吉田 星来-岩本 美紅
(三)山本 叶嘉・米谷 春花
(二)鈴木 詩織

東京学芸大学20110601 : 11
城西国際大学21000702x : 12

[東] 岩瀬 仁美・●鍵山 皐月-五十嵐 叶
(三)山岸 滯衣・菅野 光結

(二)三浦 瑞貴・佐々木 響・浅尾真梨花・
山岸 滯衣

東京富士大学16013 : 20
中央大学0000 : 0

[東] 黒木 美紀・○上原 彩瑛-田立 梨子・
西山しずく
(三)松村 美月・松島 加奈・星野ひかり・
西山しずく・鶴見 栞奈・岡崎 里彩②
(二)辻 未来・寺坂明日香・鈴木 未空・
西山しずく

[中] ●丸山 咲紀-阿部緋七子

清和大学0000010 : 1
松本大学003010x : 4

[清] ●古屋 英恵-荒木かんな
[松] ○多田 春菜・大西 由美-寺田 優花

国士舘大学0000000 : 0
山梨学院大学000020x : 2

[国] 丸山 桃花・●小島 亜夢-本田 渚沙
[山] ○内藤 加菜-菊池 朋美

東北福祉大学0000000 : 0
東京女子体育大学022001x : 5

[北] ●工藤 遥・永谷 真衣-三浦 愛佳
[京] ○久本 美波・柳橋 里奈・佐々木さくら
-比護奈保子

▼2回戦(7月8日)

東海大学0000000 : 0
城西大学000101x : 2

[東] ●矢作 実緒-渡邊 真央
(三)最上 奈菜
[城] ○遠藤 光姫-江口 菜摘
(三)三浦 万季 (二)山北 萌香

早稲田大学0020300 : 5
富士大学0200100 : 3

[早] 伊藤 貴世美・○増田 侑希-加藤 千陽
・手塚麻菜美

(本)落合 未稀

(二)落合 未稀・手塚 麻菜美

[富] ●荻込 千波一相馬 里砂

(三)鎌水 ゆう

淑徳大学0310020 : 6

順天堂大学3010000 : 4

[淑] 朝倉 莉奈・○寺田 愛友一小澤 陽

(三)金子 千夏

[順] 佐藤 有紗・●荒巻 佑香一佐藤 奈緒

(二)高橋 美穂・佐藤 奈緒・高澤 光歩

東京国際大学0579 : 21

慶應義塾大学0000 : 4

[東] ○千葉 彩香・高鷹 秋桜音一大塚 あすか
・中村 仰

(本)佐藤 芽衣

(三)三部あゆみ・横山 蒼

(二)三部あゆみ・芝 奏・千葉 栞菜

[慶] ●馬場 暁子・吉田 星来一岩本 美紅

東京富士大学1200210 : 6

城西国際大学0000000 : 0

[東] ○黒木 美紀・上原 彩瑛一田立 梨子

(三)鶴見 栞奈・岡崎 里彩

(二)田立 梨子

[城] ●栗生 裕衣・小野塚 菜奈一石井麻璃乃

関東学園大学0000 : 0

松本大学506x : 11

[関] ●長瀬あかり一白井 栞

[松] ○多田 春菜・高須 涼音一寺田 優花

(三)石田 真央・甲田のどか

(二)下島由賀里

山梨学院大学3155 : 14

仙台大学0000 : 0

[山] ●長瀬あかり一白井 栞

[仙] ○多田 春菜・高須 涼音一寺田 優花

(三)石田 真央・甲田のどか

(二)下島由賀里

東京女子体育大学0010010 : 2

日本体育大学120020x : 5

[東] ●久本 美波・柳橋 里奈・佐々木さくら
一比護奈保子

(二)比護奈保子・兼平 真咲・古谷 祐花

[日] ○浅井 茉琳・鈴木 杏佳一安川 裕美

(本)長谷部陽香

(二)竹中 真海・本間 睦

▼準々決勝戦(7月8日)

城西大学0010100 : 2

早稲田大学3000000 : 3

[早] ○廣瀬 夏季・伊藤 貴世美・増田 侑希
一手塚麻菜美・加藤 千陽

(二)落合 未稀・川崎 楽舞

[城] ●遠藤 光姫一江口 菜摘

東京国際大学010000010 : 2

淑徳大学001000011x : 3

[東] ●千葉 彩香一大塚 あすか

(二)大國 結華

[淑] 寺田 愛友・○朝倉 莉奈一小澤 陽

(二)比内 美波

東京富士大学4000001 : 5

松本大学0000000 : 0

[東] ○黒木 美紀・上原 彩瑛一田立 梨子

(二)西 愛美

[松] ●大西 由美・多田 春菜一寺田 優花

日本体育大学0002000 : 2

山梨学院大学0000000 : 0

[日] ○中山 日菜子一安川 裕美

(本)飯田 瑞稀 (二)亀田 栞里

[山] ●太田 百香一菊池 朋美

▼準決勝戦（7月9日）

淑徳大学 0000001 : 1
早稲田大学 000401x : 5

[淑] ●朝倉 莉奈 - 小澤 陽

(二)金子 千夏

[早] ○廣瀬 夏季・川崎 楽舞 - 手塚麻菜美

(二)神 樹里乃

東京富士大学 0000000 : 0
日本体育大学 100500x : 6

[東] ●黒木 美紀・上原 彩瑛 - 田立 梨子・
西山しずく

(二)松島 加奈

[日] ○浅井 茉琳・白井 桃佳・橋口 紫織 -

安川 裕美

(本)竹中 真海・長谷部 陽香

(二)田沼 華乃・竹中 真海

▼決勝戦（7月9日）

日本体育大学 50103 : 9
早稲田大学 00000 : 0

[日] ○中山日菜子・新田 茜・鈴木 杏佳 -

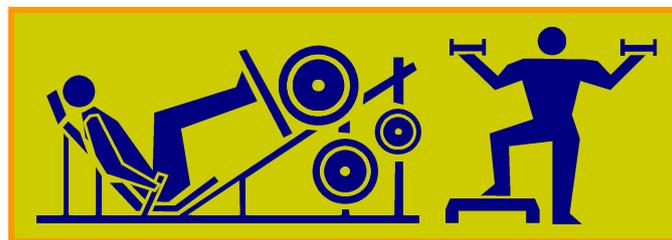
安川 裕美

(本)安川 裕美

(三)飯田 瑞稀・鳥羽真紀子

(二)亀田 栞里・須藤麻里子

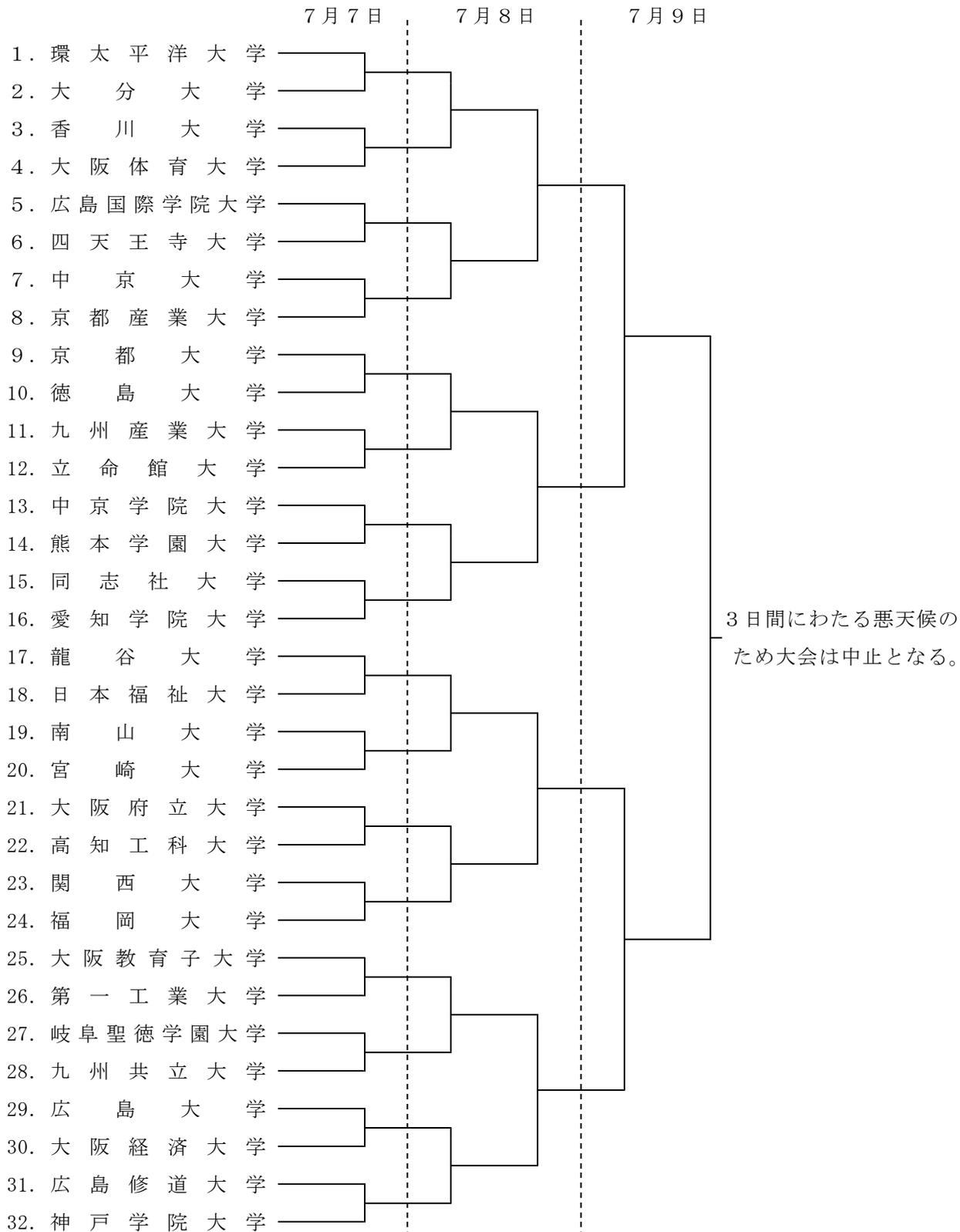
[早] ●伊藤貴世美 - 加藤 千陽



第50回西日本大学(男子)ソフトボール選手権大会

会期：平成30年7月6日(金)～9日(月)

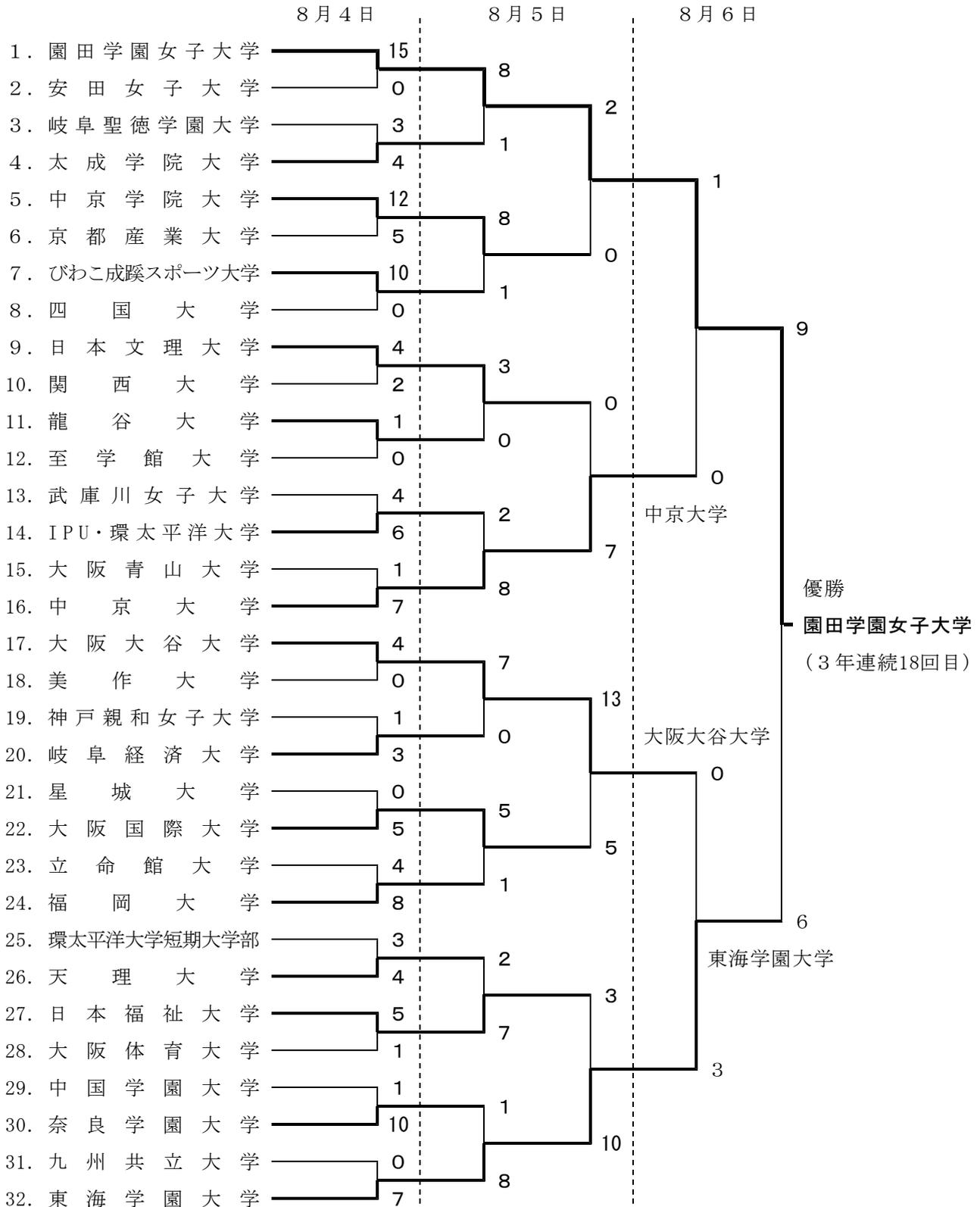
会場：高知県高知市／高知県立春野総合運動公園



第50回西日本大学(女子)ソフトボール選手権大会

会期：平成30年8月3日(金)～6日(月)

会場：徳島県徳島市／徳島市民吉野川北岸運動広場ソフトボール場



試合結果

▼1回戦(8月4日)

安田女子大学 000 : 0
園田学園女子大学1221x : 15

[安] ●田中 京香・平川佳奈実―中井 あい
[園] ○根本 七海・横谷 瑞希―柁山 奈々
(本)中村 優花・下山 絵理
(三)中村 優花・園部真里茶②・安田 胡桃
・加藤 亜実
(二)柁山 奈々②

岐阜聖徳学園大学0000030 : 3
大成学院大学 220000x : 4

[岐] ●新實えりか・伊藤 紗季―若森ゆずき
(二)伊藤 紗季
[大] ○岡 真里流・中居 奈緒・松本 香那―
金橋 郁美

京都産業大学102200 : 5
中京学院大学300306x : 12

[京] 宮本 菜那・●黒野 陽子―西沢 祐香・
松村 普子
(本)橋本 侑佳・松村 普子
(二)西沢 祐香
[中] 柴本 知穂・○細川 優―瀬戸 裕菜
(二)竹井 朱美・中村 南海

四 国 大 学0000 : 0
びわこ成蹊スポーツ大学3511x : 10

[四] ●田中亜希帆―大地 葵
[び] ○山口 りこー児玉茉奈美
(三)藤村 優香・松下 桃奈
(二)安藝 澄伶

関 西 大 学0002000 : 2
日本文理大学010030x : 4

[関] ●高井 菜々・杉本 樹菜―日吉 里香
[日] 阿南 恵子・○今村みなみ―森田 京
(二)分藤 柚葉

至学館大学0000000 : 0
龍谷大学000001x : 1

[至] ●藤井 杏奈―太田 萌絵
(二)松葉 寧々
[龍] ○井戸 渚―奥 実里
(三)峰 サアヤ (二)林 杏奈

武庫川女子大学0200200 : 4

環太平洋大学110121x : 6

[武] 脇山 朱音・●久保田菜々香―福元 美紗
(本)福元 美紗
[環] ○吉井 朝香―米倉 綾香
(二)米倉 綾香・徳嶺 法子

中 京 大 学3000301 : 7

大阪青山大学0001000 : 1

[中] ○丹羽 萌・村田 未幸・寺澤小百合―
高山美蓉子・安山 涼香
(三)川口 茉菜 (二)杉本 梨緒
[大] ●川添 恵・沖島 由奈―長井みなみ
(二)長井みなみ

大阪大谷大学2101000 : 4

美作大学0000000 : 0

[大] ○吉崎菜々海・藤原 朱里―殿井 綾
(三)森山 春奈 (二)東郷 佑実
[美] ●貴田妃紗菜―荻野 真鈴

神戸親和女子大学0000001 : 1

岐阜経済大学020010x : 3

[神] ●平良 優花―山口 歩
(二)小嶋那奈美・東田 海愛・今津 由貴・
大久保奈穂
[岐] ○鈴木 彩芽―藤原 穂香

大阪国際大学0500000 : 5

星城大学0000000 : 0

[大] ○石川 千尋―梶原ゆりな
(三)佐藤 静香・梶原ゆりな
[星] 中村 瑠伽・●松岡 里歩・山宿 稔梨―
榊原 桜

福岡大学01000200014:8
立命館大学01100100010:4

[福] ○増本 亜美-片山 瑠奈
(本)野村美沙希 (二)川浪 美月
[立] ●山口 希-日吉野乃子
(三)日吉野乃子
(二)日吉野乃子・鈴木 麻未

環太平洋大学短期大学0300000:3
天理大学0111001x:4

[環] 浅井 夏海・●横山菜々子-久高 亜美
(三)松岡 有紗 (二)村岡 香菜
[天] ○田口 明純-北風 舞
(三)上川 奏
(二)深川 結衣・本村 愛美

大阪体育大学0000001:1
日本福祉大学111002x:5

[大] ●大工原愛美・中妻 由依・鈴木 亜美-
岩城 南美・山内 紅里
(二)内田 実奈
[日] ○松崎 恭子・北原 椿・石原 鮎美-
黒田 朋美
(二)田中 優菜・藤井 杏朱・大崎 小夏
中谷日向子②

中国学園大学10000:1
奈良学園大学2206x:10

[中] ●吉川実衣菜-原田 佳美
[奈] ○山中 美来・尾高 杏花-堀 あかね
(三)岩波 冴果②
(二)窪田 夢真・鎌田 七海・上村 彩乃

九州共立大学00000:0
東海学園大学0700x:7

[九] ●渡邊 葵美・西村こころ-寺田 彩香
[東] ○竹田 早希・高橋 由依-棚町 佳奈
(本)棚町 佳奈
(二)飛弾 優里・吉田 彩夏

▼2回戦(8月5日)

太成学院大学01000:1
園田学園女子大学20006x:8

[太] ●岡 真里流-金橋 郁美
[園] ○小西 彩未-服部 洋代・椛山 奈々
(本)椛山 奈々・下山 絵理
(三)下村 歩実 (二)石川 恭子

びわこ成蹊スポーツ大学00100:1
中京学院大学0215x:8

[び] ●荒川 花涼-児玉 茉奈美
[中] ○柴本 知穂・藤田 朱莉-瀬戸 裕菜
(二)稲垣可奈子

日本文理大学1000002:3
龍谷大学0000000:0

[日] ○藤田 莉子-森田 京
(二)堀口 佳乃
[龍] ●緒方 雛乃・井戸 渚・田原 奈愛-
奥 実里・平田 優依

環太平洋大学1010000:2
中京大学320201x:8

[環] ●後藤明日香・上村 紗輝-米倉 綾香
(二)米倉 綾香
[中] ○金丸侑志帆・村田 未幸-高山美蓉子
(二)佐藤 果歩・山元 綾乃

大阪大谷大学101032:7
岐阜経済大学000000:0

[大] ○吉崎菜々海・藤原 朱里-殿井 綾
(二)鈴木友美恵・東郷 佑実②・殿井 綾②
[岐] ●山下 葵・鈴木 彩芽・山本 佳奈-
藤原 穂香

福岡大学0000010:1
大阪国際大学202001x:5

[福] ●増本 亜美-片山 瑠奈
(二)田川 茉理・相川 理沙
[大] ○石川 千尋・前田 康江-梶原ゆりな・
磯村 百夏
(三)前田 佳穂

天理大学0200000:2
日本福祉大学003004x:7

[天] ●筒井 南帆-北風 舞
(二)筒井 南帆
[日] ○松崎 恭子・勝 ちひろ・宮田 奈於一
黒田 朋美
(二)中谷日向子・村上 純菜

奈良学園大学00001 :1
東海学園大学2033x :8

[奈] ●山中 美来・馬本 実侑一堀 あかね
[東] ○竹田 早希・原内 智香一棚町 佳奈
(本)棚町 佳奈②

▼準々決勝回戦(8月5日)

園田学園女子大学0000002:2
中京学院大学0000000:0

[園] ○三原 千空一椋山 奈々
(本)秋豆 朱音 (二)中村 優花

中京大学0011302:7
日本文理大学0021100:4

[中] 金丸侑志帆・○村田 未幸・丹羽 萌一
高山 美蓉子
(本)杉本 梨緒② (三)佐藤 果歩
[日] ●阿南 恵子・今村みなみ一森田 京
(三)松瀬 清夏②

大阪大谷大学4040302:13
大阪国際大学0140000:5

[谷] ○吉崎菜々海一殿井 綾
(本)山根 志帆
(二)東郷 佑実・殿井 綾・田中 愛夏
[国] ●石川 千尋・前田 康江一梶原ゆりな・

礪村 百夏

(二)前田 佳穂・奥村 愛梨

日本福祉大学200100 :3
東海学園大学011701x :10

[日] ●松崎 恭子・北原 椿・勝 ちひろ・
高山智慧子一黒田 朋美
(本)大崎 小夏
[東] ○竹田 早希・山田 玲菜一棚町 佳奈
(本)吉田 彩夏② (三)久米 晶

▼準決勝回戦(8月6日)

中京大学0000000:0
園田学園女子大学100000x:1

[中] ●金丸侑志帆一高山美蓉子
[園] ○三原 千空一椋山 奈々

大阪大谷大学0000000:0
東海学園大学010101x:3

[大] ●吉崎菜々海一殿井 綾
(二)東郷 佑実
[東] ○山田 玲菜一棚町 佳奈
(三)梅野 結菜・飛弾 優里

▼決勝回戦(8月6日)

園田学園女子大学0020034:9
東海学園大学0010500:6

[園] 秋豆 朱音・三原 千空・○小西 彩未一
椋山 奈々
(本)石川 恭子② (二)下村 歩実
[東] 竹田 早希・●山田 玲菜一棚町 佳奈
(二)久米 晶

個人表彰

最優秀賞:石川 恭子(園田学園女子大学)、 敢闘賞:梅野 結菜(東海学園大学)

第19回 「峠のまち」 Matsuida Cup 男・女大学ソフトボール強化大会

会期：4月21日(土)～22日(日)

会場：群馬県安中市／五料運動場・坂本スポーツ広場・久芳スポーツ広場

【男子】

横川LEAG	城西	千葉	高経A	東高B	順
城西 A	○	○	●		2
千葉	●	△	●		3
高経 A	●	△	●		4
東海高経 B	○	○	○		1

※3～4位は大会規定による。

順位決定戦

◇1～2位：東海／高経B 1－7 都留文科大学

◆5～6位：千葉大学 6－7 城西大学 B

碓氷LEAG	信州	津留文	関学	城西B	順
信州	●	●	●		4
都留文科	○	○	●		1
関東学園	○	●	○		2
城西 B	○	○	●		3

1～3位は大会規定による。

◇3～4位：城西大学 A 5－7 関東学園大学

◆7～8位：高崎経済大 A 13－5 信州大学

【女子】

BLEAG	東海A	関学	白鷗	東福	順
東海 A	○	○	○		1
関東学園	●	○	●		3
白鷗	●	●	●		4
東北福祉	●	○	○		2

順位決定戦

◇1～2位：東海大学 A 0－3 富士大学

◆5～6位：関東学園大学 8－9 松本大学

DLEAG	松本	富士	新島	東海B	順
松本	△	○	●		3
富士	△	○	○		1
新島短大	●	●	●		4
東海 B	○	●	○		2

◇3～4位：東北福祉大学 6－1 東海大学 B

◆7～8位：白鷗大学 5－5 新島短期大学

【最終結果】（男子／女子※7～8位は大会規定による。）

優勝：津留文科大学／富士大学

準優勝：東海／高経B／東海大学 A

第3位：関東学園大学／東北福祉大学

第4位：城西大学 A／東海大学 B

第5位：城西大学 B／松本大学

第6位：千葉大学／関東学園大学

第7位：高崎経済大 A／新島短期大学

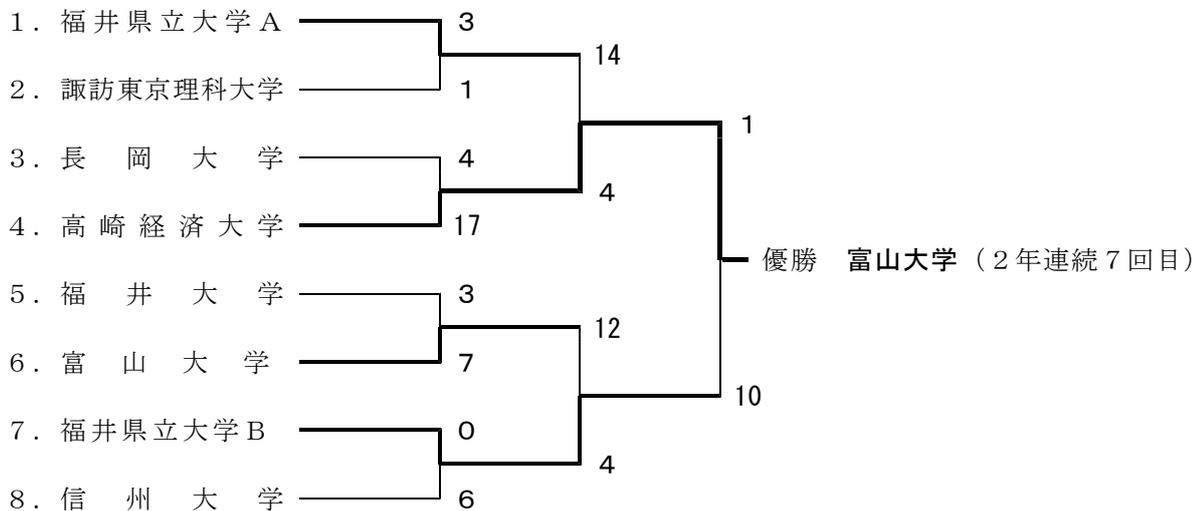
第8位：信州大学／白鷗大学

第15回 北信越大学オープンソフトボール大会

会期：7月7日(土)・8日(日)

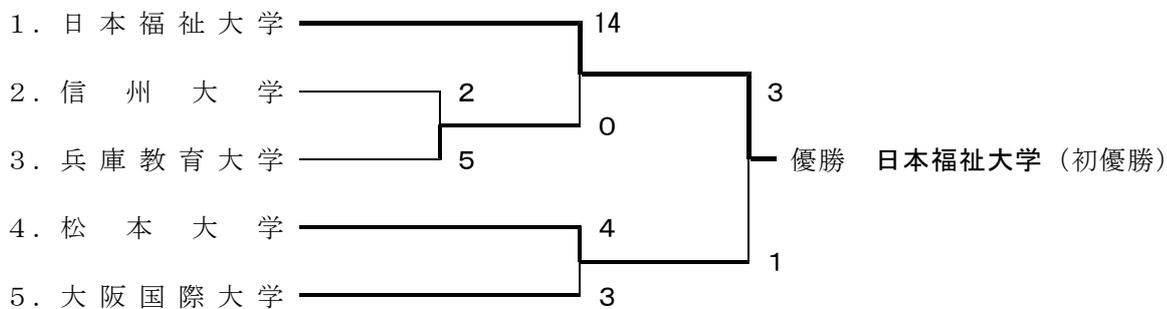
会場：新潟県長岡市／ニュータウン運動公園ソフトボール場

【男子】



交流戦：諏訪東京理科大学 8 - 3 長岡大学、福井大学 6 - 3 福井県立大学 B

【女子】



交流戦：兵庫教育大学 3 - 17 大阪国際大学、信州大学 0 - 11 大阪国際大学

第10回 HAKUBA CUP大学女子ソフトボール大会

会期：8月21日(火)～23日(木)

会場：長野県白馬村／村営北部G、切久保南G、のだらパンoramコート

予選リーグ戦

岩岳リーグ	大阪青山	中京学院	仙 台	東 海	岐阜経済	大阪体育	勝	分	敗	点	失率	順
大阪青山		○3-0	○9-2	○3-1	○1-0		4	0	0	16	-	1
中京学院	●0-3		○16-0	●0-8		○2-1	2	0	2	8	0.52	5
仙 台	●2-9	●0-16			●0-12	●1-13	0	0	4	0	-	6
東 海	●1-3	○8-0			○7-0	●0-1	2	0	2	8	0.17	3
岐阜経済	●0-1		○12-0	●0-7		○1-0	2	0	2	8	0.33	4
大阪体育		●1-2	○13-1	○1-0	●0-1		2	0	2	8	0.15	2

五竜リーグ	日本福祉	淑 徳	金沢学院	天 理	東京学芸	星 城	勝	分	敗	点	失率	順
日本福祉		●0-7	●4-5	○5-1	○12-2		2	0	2	8	-	3
淑 徳	○7-0		○4-3	○2-0		○3-2	4	0	0	16	-	1
金沢学院	○5-4	●3-4			○10-6	○1-0	3	0	1	12	-	2
天 理	●1-5	●0-2			○7-4	●3-7	1	0	3	4	0.67	5
東京学芸	●2-12		●6-10	●4-7		○4-2	1	0	3	4	1.24	6
星 城		●2-3	●0-1	○7-3	●2-4		1	0	3	4	0.41	4

八方リーグ	大阪国際	東京国際	至学館	松 本	新島学園	奈良学園	勝	分	敗	点	失率	順
大阪国際		○3-2	○6-3	○3-2	○7-1		4	0	0	16	-	1
東京国際	●2-3		○3-0	○3-2		○5-4	3	0	1	12	-	2
至学館	●3-6	●0-3			○2-1	●1-8	1	0	3	4	-	5
松 本	●2-3	●2-3			○7-0	○6-2	2	0	2	8	-	3
新島学園	●1-7		●1-2	●0-7		●0-9	0	0	4	0	-	6
奈良学園		●4-5	○8-1	●2-6	○9-0		2	0	2	8	-	4

※勝点と同じ場合は直接対戦の結果と全試合の失点率（総失点÷総守備回数）による。

順位決定リーグ戦

優勝 淑徳大学(初)

最優秀選手賞

朝倉

莉奈(淑徳大学3年生)

1～3位決定リーグ		大阪青山	大阪国際	淑徳	勝	分	敗	点	順位
岩岳1位	大阪青山大学		●1-3	●1-3	0	0	2	0	3位
八方1位	大阪国際大学	○3-1		●0-1	1	0	1	5	2位
五竜1位	淑徳大学	○3-1	○1-0		2	0	0	7	優勝

4～6位決定リーグ		大阪体育	東京国際	金沢学院	勝	分	敗	点	順位
岩岳2位	大阪体育大学		●3-12	●1-4	0	0	2	0	6位
八方2位	東京国際大学	○12-3		●2-6	1	0	1	4	5位
五竜2位	金沢学院大学	○4-1	○6-2		2	0	0	8	4位

7～9位決定リーグ		東海	松本	日本福祉	勝	分	敗	点	順位
岩岳3位	東海大学		○2-1	○9-1	2	0	0	8	7位
八方3位	松本大学	●1-2		●2-5	0	0	2	0	9位
五竜3位	日本福祉大学	●1-9	○5-2		1	0	1	4	8位

10～12位決定リーグ		岐阜経済	奈良学園	星城	勝	分	敗	点	順位
岩岳4位	岐阜経済大学		●4-5	○4-3	1	0	1	3	11位
八方4位	奈良学園大学	○5-4		○3-1	2	0	0	7	10位
五竜4位	星城大学	●3-4	●1-3		0	0	2	1	12位

13～15位決定リーグ		中京学院	至学館	天理	勝	分	敗	点	順位
岩岳5位	中京学院大学		○2-5	●1-4	1	0	1	4	14位
八方5位	至学館大学	●5-2		●0-4	0	0	2	0	15位
五竜5位	天理大学	○4-1	○4-0		2	0	0	8	13位

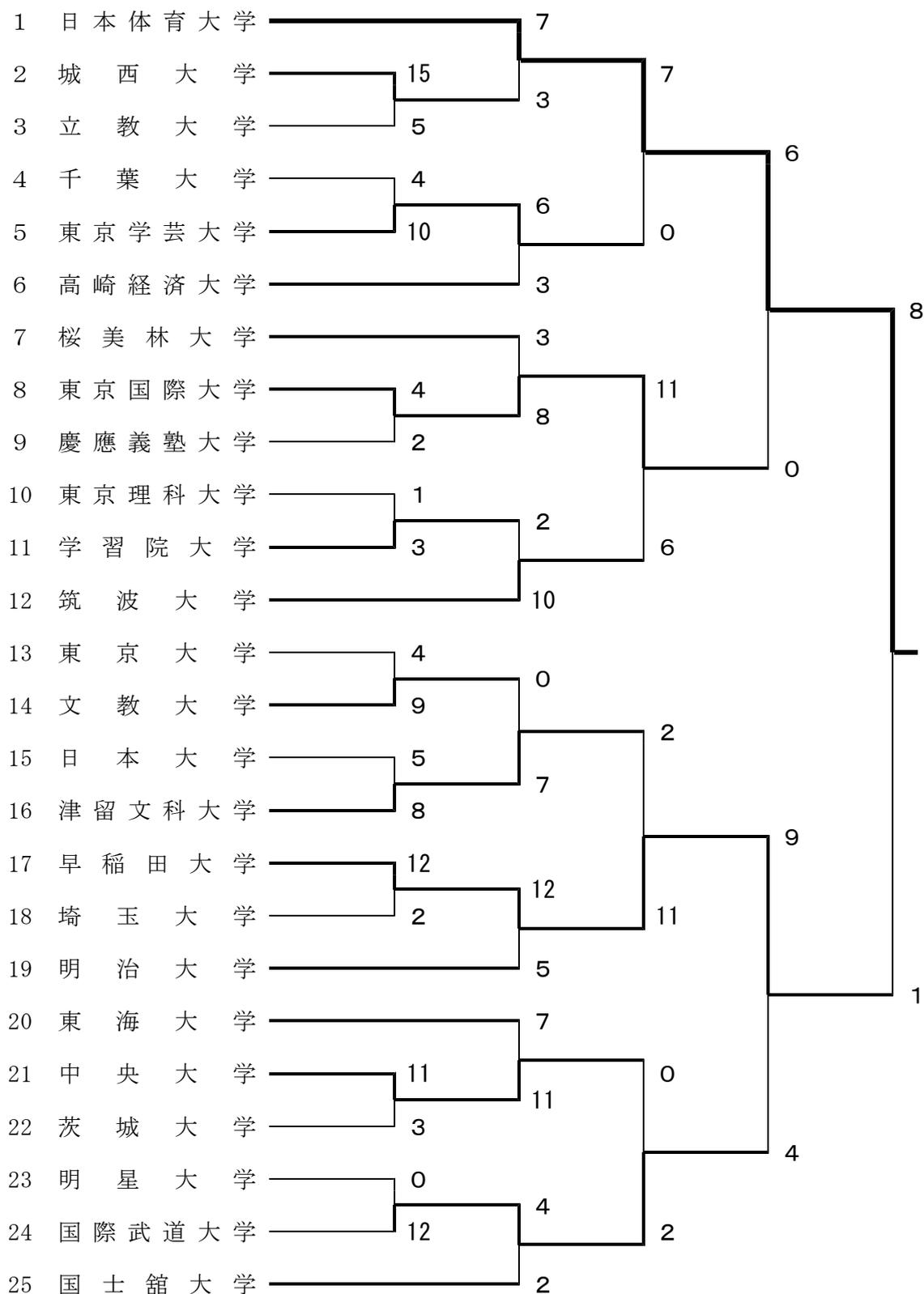
16～18位決定リーグ		仙台	新島学園	東京学芸	勝	分	敗	点	順位
岩岳6位	仙台大学		●2-9	●9-16	0	0	2	0	18位
八方6位	新島学園短大	○9-2		●1-18	1	0	1	4	17位
五竜6位	東京学芸大学	○16-9	○18-1		2	0	2	8	16位

第49回 関東大学男女ソフトボール選手権大会

会期：10月27日(土)～29日(月)

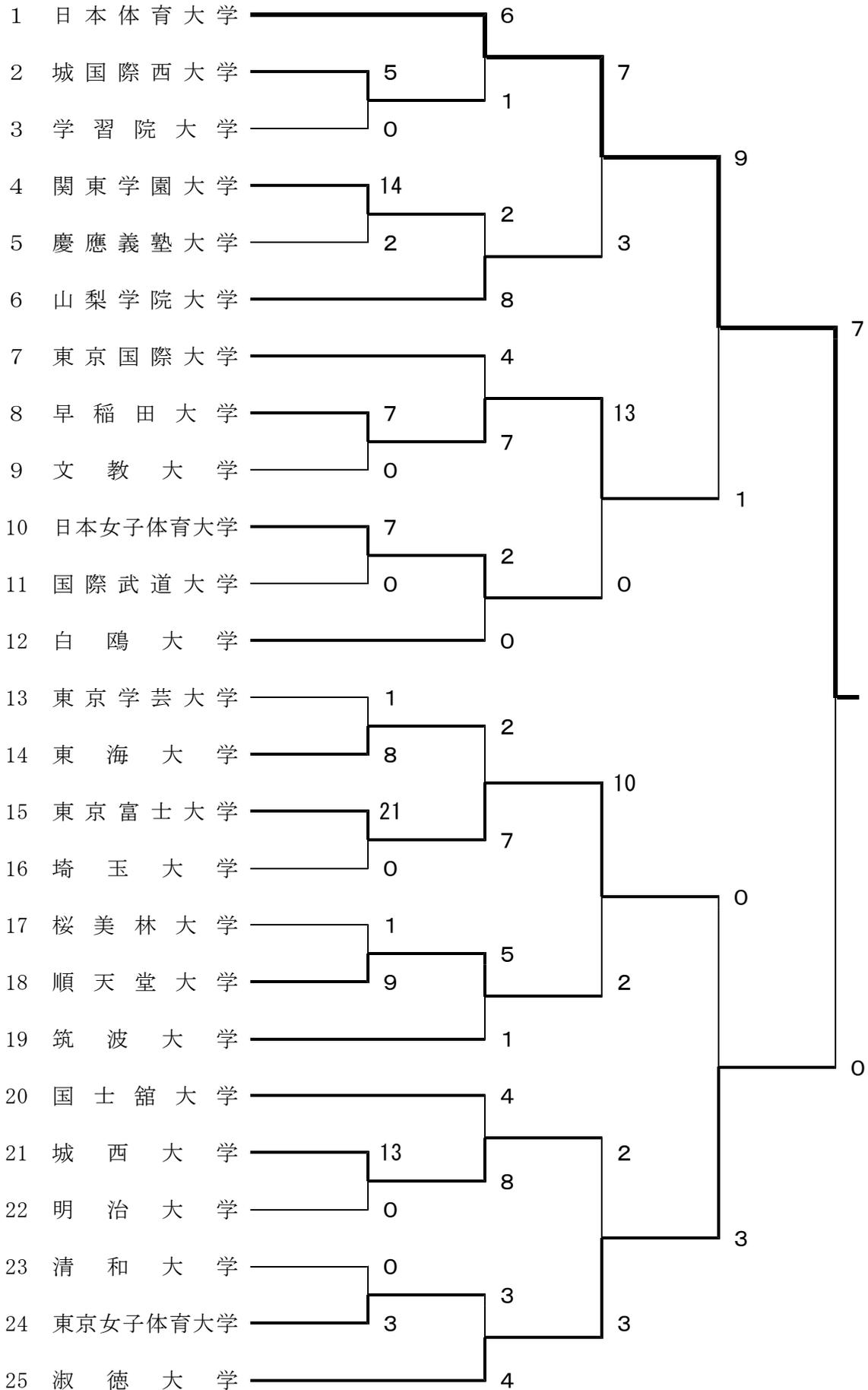
会場：栃木県足利市／渡良瀬運動場 他

【男子】



(2年連続28回目)
日本体育大学
優勝

【女子】



(3年連続19回目)
 日本体育大学
 優勝

藤原初男杯第10回全国大学・実業団対抗選抜女子ソフトボール大会

会期：11月24日(土)・25日(日)

会場：愛知県豊田市／運動公園ソフトボール場 他

Aグループ	織機	東福	大谷	星城	理化	山学	園田	東学	勝	分	敗	順
豊田織機	○	○	○	○	○	○	○	○	4	0	0	2位
東北福祉	●	○	○	●	●	○	○	●	0	0	4	-
大阪大谷	●	○	○	○	●	○	○	●	1	0	3	-
星城	○	●	○	○	○	●	●	○	1	0	3	-
東海理化	○	○	○	○	○	○	●	○	3	0	1	-
山梨学院	●	○	○	○	●	○	○	○	2	0	2	-
園田学園	●	○	○	○	○	○	○	○	3	0	1	-
東海学園	○	○	○	○	○	●	●	○	2	0	2	-

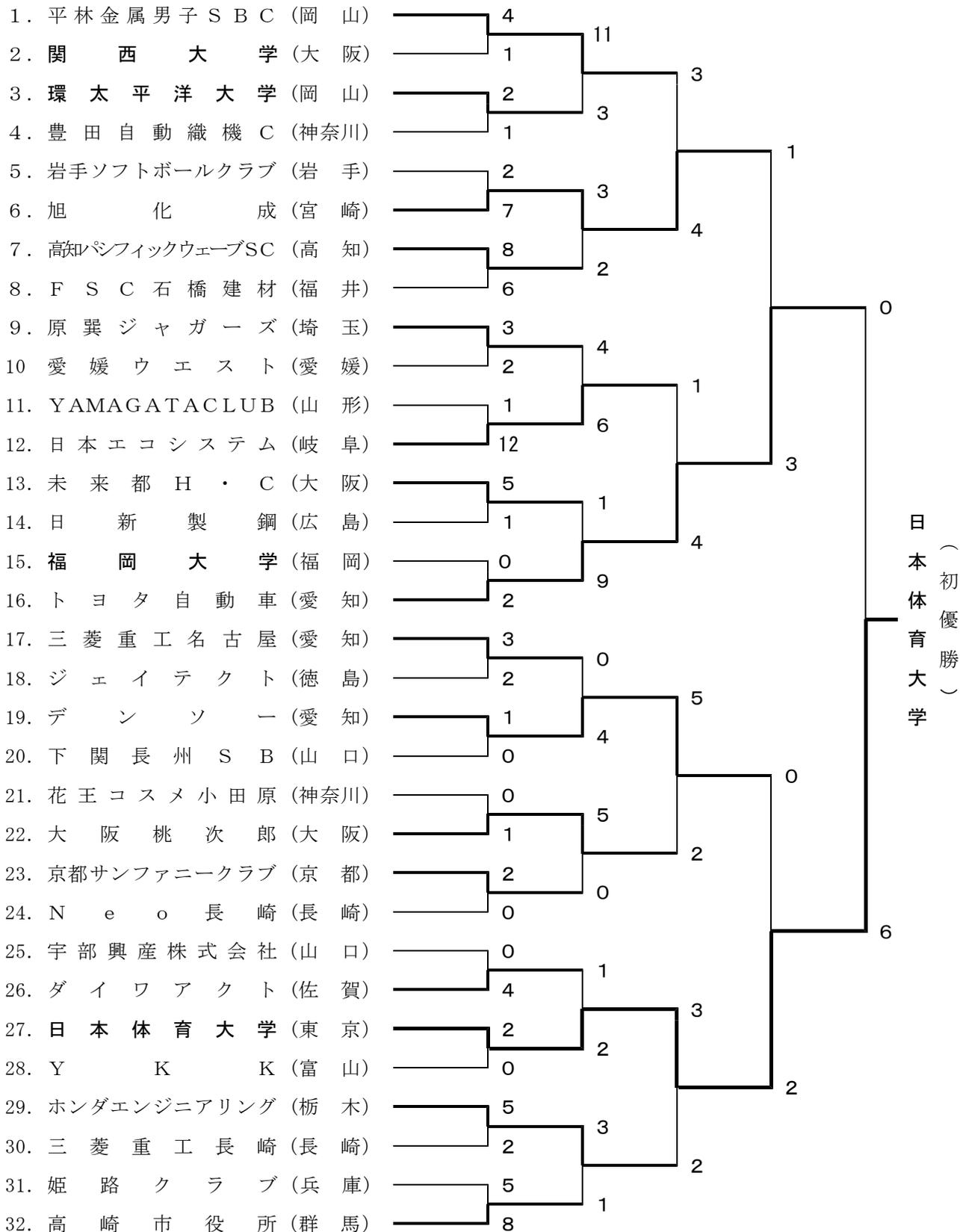
Bグループ	NEC	富士	国際	中京	DENSO	城西	IPU	日福	勝	分	敗	順
NEC	○	●	○	○	○	○	●	○	2	0	2	-
富士	○	○	○	●	●	○	○	○	2	0	2	-
大阪国際	●	○	○	●	●	○	○	○	1	0	3	-
中京	○	○	○	○	○	○	○	○	4	0	0	優勝
デンソー	○	○	○	○	○	○	○	○	4	0	0	-
城西	●	○	○	●	●	○	○	○	1	0	3	-
環太平洋	○	○	○	●	●	○	○	●	1	0	3	-
日本福祉	○	●	●	○	○	○	○	○	1	0	3	-

※優勝と2位は勝ち数と失点率によって決定 全勝チームの失点率 中京大学0.00、豊田自動織機0.54、デンソー1.48

第64回全日本総合男子選手権大会

会期：平成30年9月15日(土)～18日(日) ※降雨により1日順延

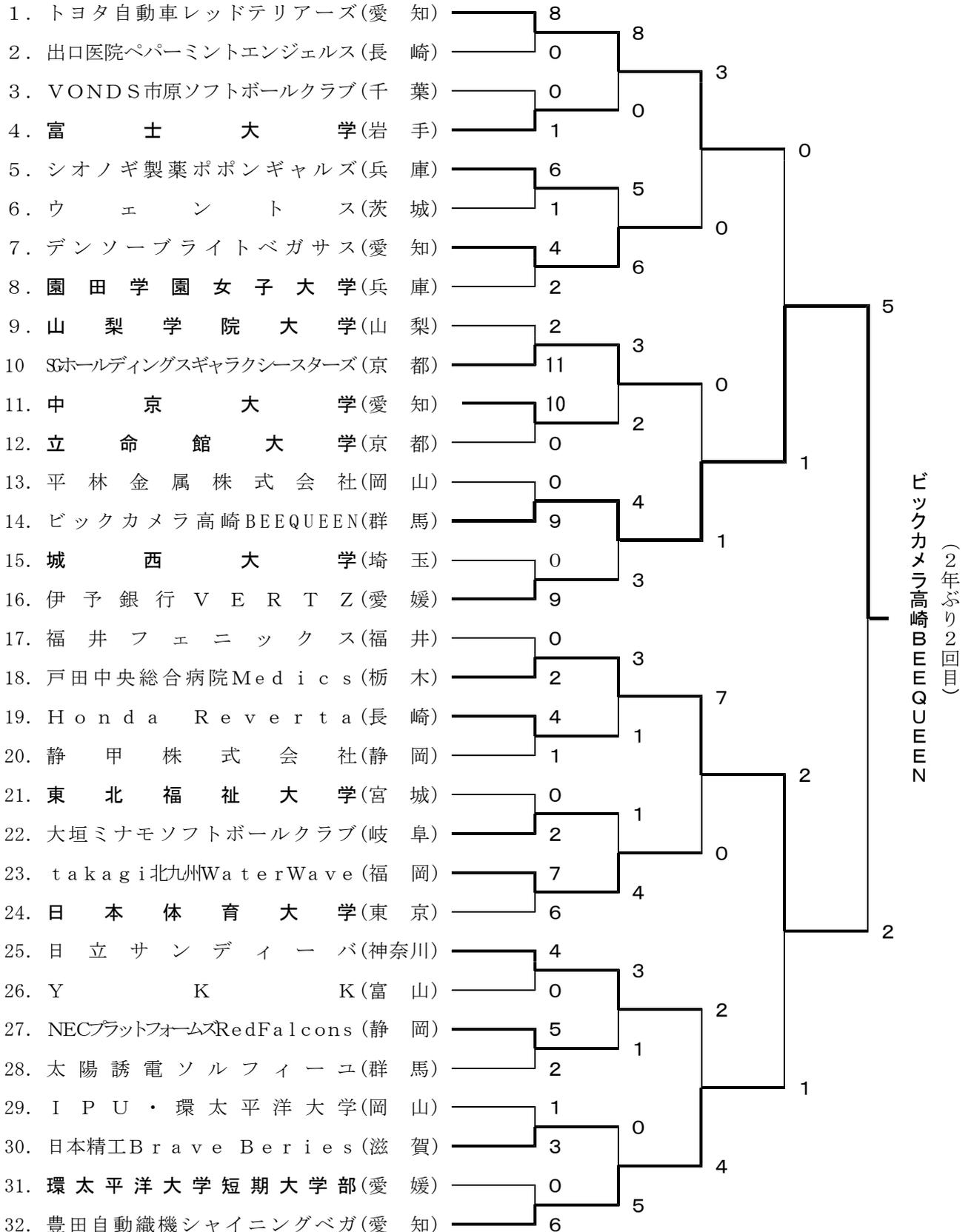
会場：京都府福知山市／三段池公園多目的グラウンド



第70回全日本総合女子選手権大会

会期：平成30年9月15日（土）～18日（火）※降雨により1日順延

会場：福井県／敦賀市・越前市・福井市・永平寺町



【北海道東北地区】

平成30年度北海道・東北地区大学ソフトボール春季大会（男子）

会期：4月21日（土）～29日（日）

会場：宮城県シリーズ／阿武隈川運動場、岩手県シリーズ／一関総合運動公園

チーム	北海道	弘 前	八戸工	盛 岡	東 北	宮 教	仙 台	福 島	日大工	勝分負	順
北海道	—	○ 5-2	* —	* —	* —	△ 9-9	○ 19-4	○ 14-3	* —	3 1 0	6
弘 前	● 2-5	—	● 0-7	● 4-10	* —	● 1-13	* —	* —	* —	0 0 4	9
八戸工業	* —	○ 7-0	—	● 7-11	● 3-29	* —	* —	● 7-21	* —	1 0 3	7
盛 岡	* —	○ 10-4	○ 11-7	—	● 1-14	○ 13-6	● 8-9	○ 10-3	○ 13-3	5 0 2	2
東 北	* —	* —	○ 29-3	○ 14-1	—	○ 13-4	● 9-10	○ 4-3	○ 6-1	5 0 1	3
宮城教育	△ 9-9	○ 13-1	* —	● 6-13	● 4-13	—	● 8-10	○ 18-8	* —	2 1 3	4
仙 台	● 4-19	* —	○ 21-7	○ 9-8	○ 10-9	○ 10-8	—	△ 11-11	○ 9-2	5 1 1	1
福 島	● 3-14	* —	* —	● 3-10	● 3-4	● 8-18	△ 11-11	—	○ 16-3	1 1 4	5
日大工学	* —	* —	* —	● 3-13	● 1-6	* —	● 2-9	● 3-16	—	0 0 4	8

※順位の決定：①勝数の多いチーム ②試合数の多いチーム ③総得点の多いチーム ④総失点の少ないチーム

平成30年度北海道・東北地区大学ソフトボール春季大会（女子）

会期：4月29・30日

会場：宮城県蔵王町／蔵王町総合運動公園多目的グラウンド

- 1部リーグ 東北福祉大学A 6-7 富士大学
 2部リーグ 仙台大学 3-7 東北福祉大学B 仙台大学 8-0 盛岡大学
 東北福祉大学B 19-0 盛岡大学
 上位順位決定戦 東北福祉大学A 8-1 東北福祉大学B 富士大学 6-3 東北福祉大学A
 下位順位決定戦 仙台大学 6-3 盛岡大学

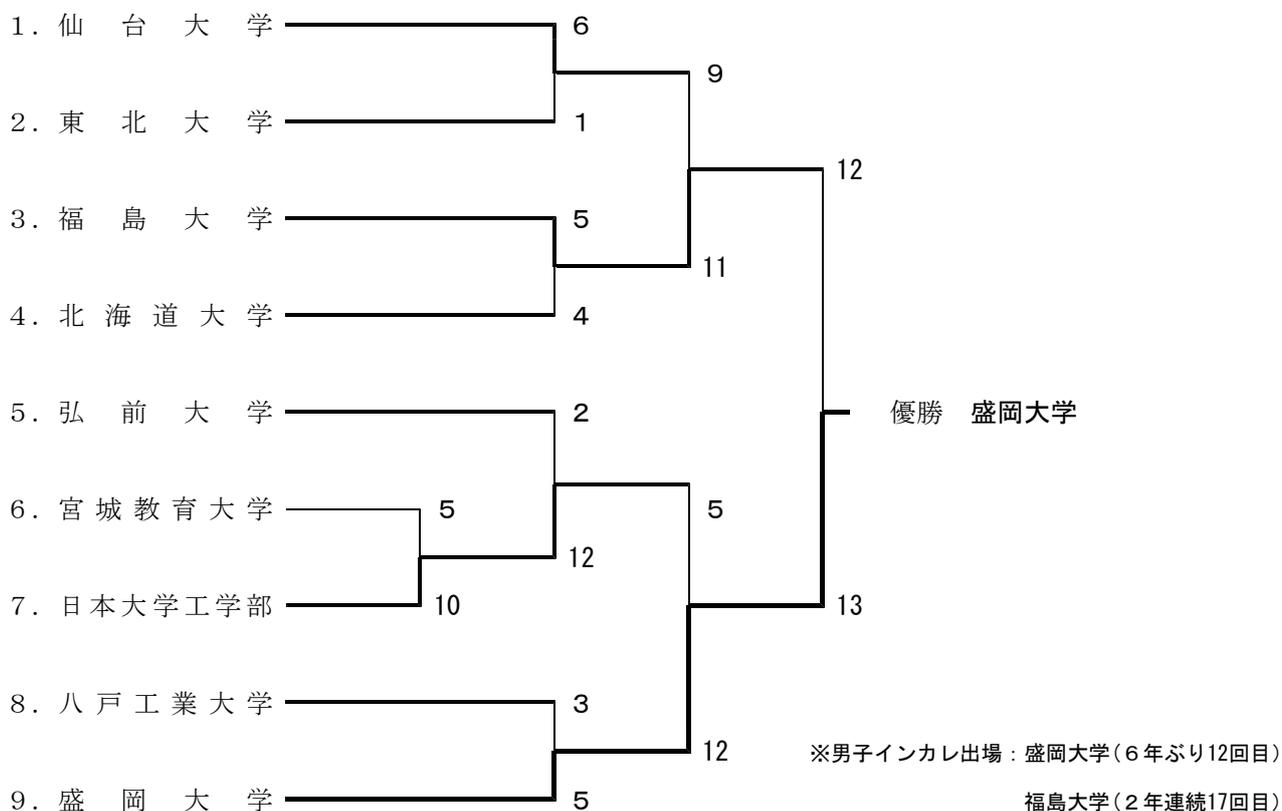
最終順位 ①富士大学 ②東北福祉大学A ③東北福祉大学B ④仙台大学 ⑤盛岡大学

第39回 北海道・東北地区大学ソフトボール選手権大会
兼、第53回全日本大学ソフトボール選手権大会北海道・東北地区予選会

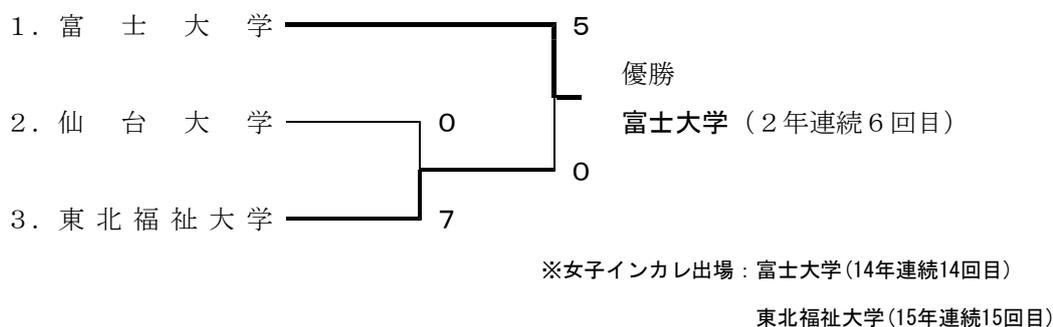
会期：5月12日(土)・13日(日)

会場：山形県／南陽市向山公園ソフトボール場、西置賜郡白鷹町ソフトボール場

【男子】



【女子】



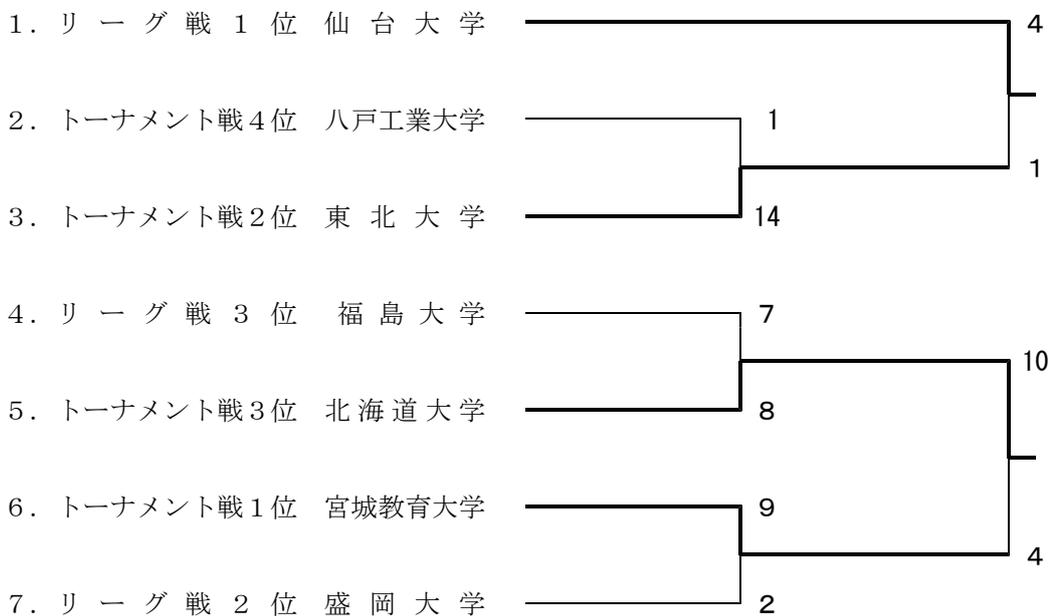
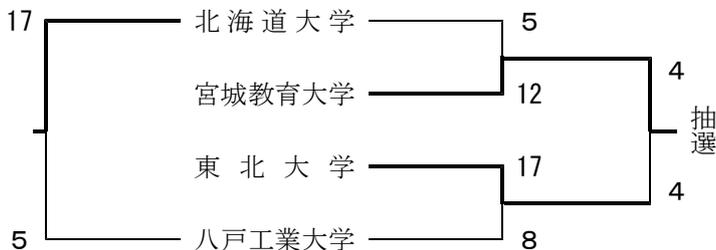
平成30年度北海道・東北地区大学ソフトボール秋季大会（男子）

会期：10月6日(土)・7日(日)

会場：岩手県／八幡平市松尾総合運動公園多目的広場

リーグ戦	盛岡	福島	仙台	順位
盛岡	○	○	●	2
福島	●	○	●	3
仙台	○	○	○	1

トーナメント戦



※交流戦としたため、最終順位無しとした。

平成30年度北海道・東北地区大学ソフトボール秋季大会（女子）

会期：10月20日(土)・21日(日)

会場：宮城県／蔵王町総合運動公園

- 1部リーグ 東北福祉大学 0-2 富士大学
- 2部リーグ 仙台大学 17-5 宮城教育大学 仙台大学 24-4 盛岡大学
宮城教育大学 9-6 盛岡大学
- 順位決定戦 宮城教育大学 7-15 盛岡大学 東北福祉大学 7-0 仙台大学
富士大学 5-1 東北福祉大学
- 最終順位 ①富士大学 ②東北福祉大学 ③仙台大学 ⑤盛岡大学 ⑤宮城教育大学

【関東地区】 第13回 関東学生男子ソフトボール春季リーグ戦

会期：5月3日(木)・4日(金)・5日(土)

会場：群馬県藤岡市／烏川緑地スポーツ広場

I 部リーグ

チーム	東京理科	国際武道	関東学園	城西	高崎経済	都留文科	勝	分	敗	順位
東京理科	○11-1	○17-5	○8-1	○8-3	○6-1	5	0	0	1位	
国際武道	●1-11	○14-0	○6-1	○8-1	●3-4	3	0	2	2位	
関東学園	●5-17	●0-14	●3-12	●3-4	●1-2	0	0	5	6位	
城西	●1-8	●1-6	○12-3	○5-4	○11-4	3	0	2	3位	
高崎経済	●3-8	●1-8	○4-3	●4-5	○10-8	2	0	3	4位	
都留文科	●1-6	○4-3	○2-1	●4-11	●8-10	2	0	3	5位	

※勝ち点同数の2位と3位、4位と5位の順位は大会規定により決定

II 部リーグ

チーム	東海	埼玉	東京国際	千葉	茨城	筑波	勝	分	敗	順位
東海	△9-9	●5-17	○9-5	○8-0	○8-5	3	1	1	2位	
埼玉	△9-9	●0-7	●6-8	○13-9	●4-8	1	1	3	5位	
東京国際	○17-5	○7-0	○13-1	○10-1	○8-2	5	0	0	1位	
千葉	●5-9	○8-6	●1-13	●6-8	○8-6	2	0	3	3位	
茨城	●0-8	●9-13	●1-10	○8-6	●2-17	1	0	4	6位	
筑波	●5-8	○8-4	●2-8	●6-8	○17-2	2	0	3	4位	

※勝ち点同数の3位と4位の順位は大会規定により決定

III 部リーグ

チーム	日大生資	日大生工	文教	山梨学院	中央学院	芝浦工業	勝	分	敗	順位
日大生資	○16-0	●0-7	●5-7	○16-0	○8-1	3	0	2	3位	
日大生工	●0-16	●5-16	●5-20	●16-17	○12-8	1	0	4	4位	
文教	○7-0	○16-5	○8-6	○12-3	○7-0	5	0	0	1位	
山梨学院	○7-5	○20-5	●6-8	○13-6	○19-7	4	0	1	2位	
中央学院	●0-16	○17-16	●3-12	●6-13	●7-12	1	0	4	6位	
芝浦工業	●1-8	●8-12	●0-7	●7-19	○12-7	1	0	4	5位	

※勝ち点同数の4位～6位の順位は大会規定により決定

I 部 II 部入替戦 関東学園大学(I部6位)0-7(棄権)東京国際大学(II部1位) ※東京国際大学はI部昇格

II 部 III 部入替戦 茨城大学(II部6位)13-20 文教大学(III部1位) ※文教大学はII部昇格

第13回 関東学生女子ソフトボール春季リーグ戦

会期：5月3日(木)・4日(金)・5日(土)

会場：埼玉県毛呂山町／大類ソフトボールパーク、坂戸市／総合運動公園 他

I部リーグ

チーム	山梨学院	城西	淑徳	東京国際	東海	清和	勝	分	敗	順位
山梨学院	-	○1-0	○4-2	○8-1	○6-0	○6-4	5	0	0	1位
城西	●0-1	-	●2-4	△1-1	○3-2	○5-3	2	1	2	4位
淑徳	●2-4	○4-2	-	○9-5	●1-3	○1-0	3	0	2	3位
東京国際	●1-8	△1-1	●5-9	-	●3-5	△0-0	0	2	3	5位
東海	●0-6	●2-3	○3-1	○5-3	-	○9-0	3	0	2	2位
清和	●4-6	●3-5	●0-1	△0-0	●0-9	-	0	1	4	6位

※2位～3位の順位は大会規定により決定

II部リーグ

チーム	順天堂	関東学園	文教	順天堂	筑波	新島学園	勝	分	敗	順位
順天堂	-	○5-2	○8-0	○1-0	○3-2	○2-1	5	0	0	1位
関東学園	●2-5	-	○10-3	●3-10	●6-13	●7-10	1	0	4	5位
文教	●0-8	●3-10	-	●3-11	●2-9	●2-7	0	0	5	6位
城西国際	●0-1	○10-3	○11-3	-	○6-3	○5-1	4	0	1	2位
筑波	●2-3	○13-6	○9-2	●3-6	-	●4-5	2	0	3	4位
新島学園	●1-2	○10-7	○7-2	●1-5	○5-4	-	3	0	2	3位

III部リーグ

チーム	白鷗	茨城	埼玉	国際武道	日大生資	千葉	勝	分	敗	順位
白鷗	-	○16-2	○21-2	○17-1	○21-2	○28-3	5	0	0	1位
茨城	●2-16	-	○9-8	○9-6	●2-9	○10-5	3	0	2	2位
埼玉	●2-21	●8-9	-	●5-12	●6-11	●4-15	0	0	5	6位
国際武道	●1-17	●6-9	○12-5	-	○10-7	●2-11	2	0	3	4位
日大生資	●2-21	○9-2	○11-6	●7-10	-	●6-9	2	0	3	5位
千葉	●3-28	●5-10	○15-4	○11-2	○9-6	-	3	0	2	3位

※2～3位、4～5位の順位は大会規定により決定

I部II部入替戦 清和大学(I部6位) 0-3 順天堂大学(II部1位) ※順天堂大学はI部昇格

II部III部入替戦 文教大学(II部6位) 15-4 白鷗大学(III部1位) ※文教大学はII部残留

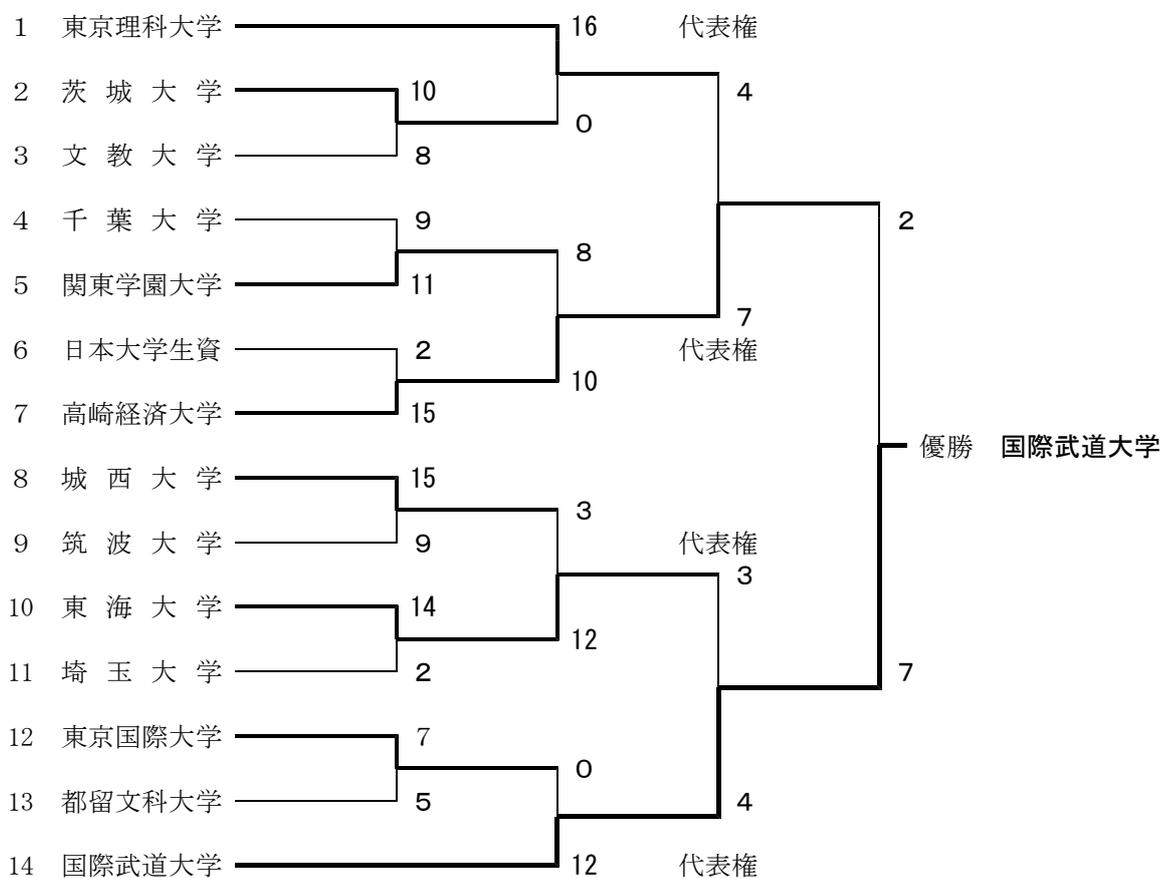
第26回 関東学生男子ソフトボール選手権大会
兼 第53回全日本大学ソフトボール選手権大会関東地区予選会

会期：5月19日(土)・20日(日)

会場：埼玉県深谷市／利根川河川敷グラウンド中瀬ソフトボール場 他

- 【関東学生春季リーグ戦の結果】 優勝 東京理科大学 (第1シード)
準優勝 国際武道大学 (第2シード)
第3位 城西大学 (第3シード)
第4位 高崎経済大学 (第4シード)

※上記4チームがそれぞれのブロックに分かれ、関東学生選手権大会で代表権を争う。



3位決定戦 東海大学 17-14 東京理科大学

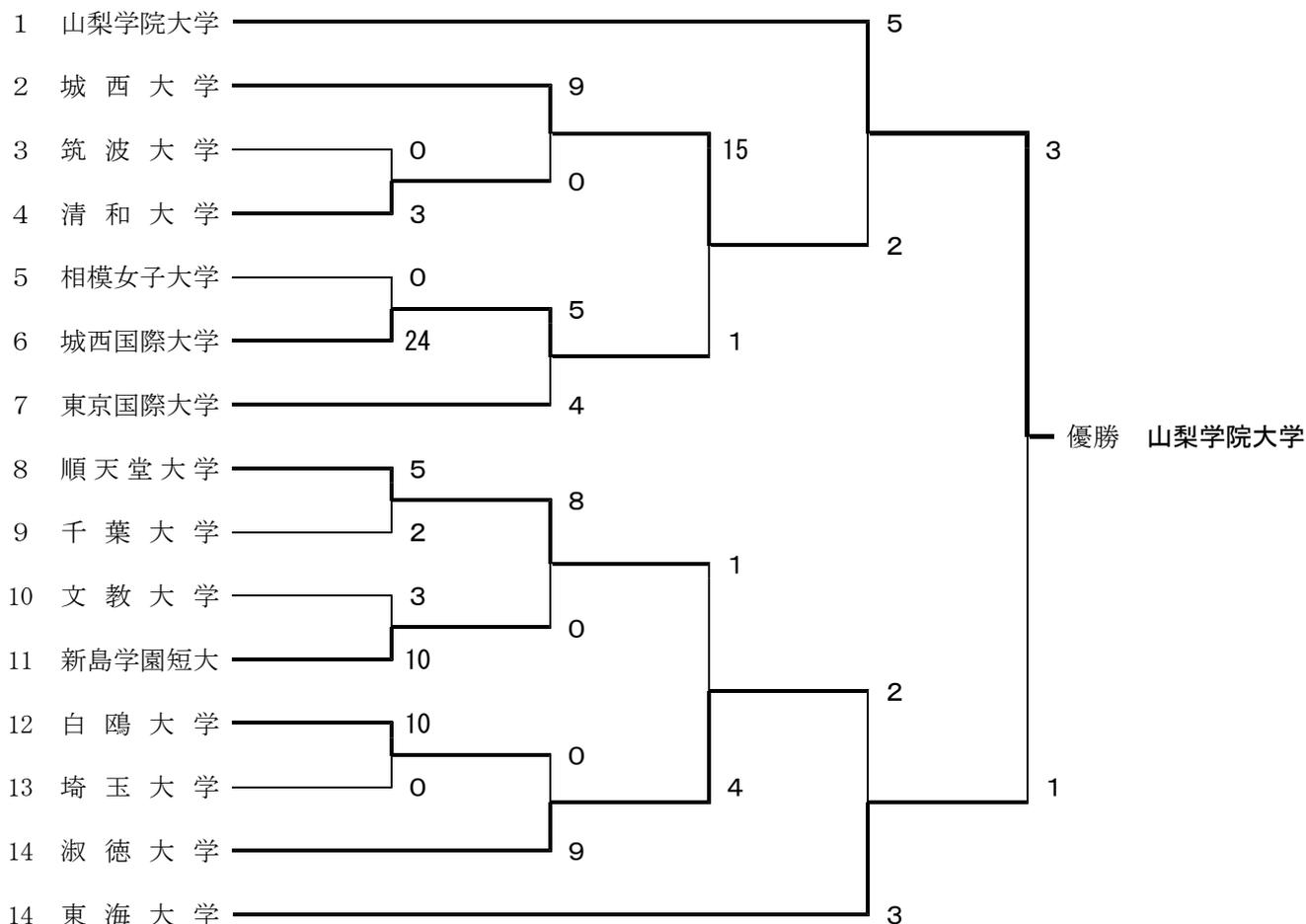
インカレ出場権獲得校

国際武道大学 (2年連続24回目) 高崎経済大学 (2年ぶり31回目)、東京理科大学 (3年連続17回目)、東海大学 (7年連続44回目)

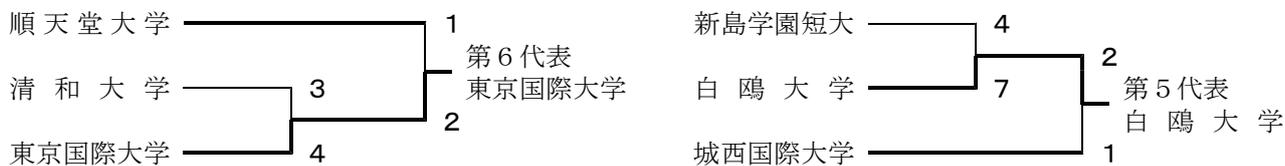
第26回 関東学生女子ソフトボール選手権大会
兼 第53回全日本大学ソフトボール選手権大会関東地区予選会

会期：5月19日(土)・20日(日)

会場：埼玉県戸田市／道満グリーンパークソフトボール球場



敗者復活戦及び第5・6代表決定戦



3位決定戦 城西大学 7 - 1 淑徳大学

インカレ出場権獲得校

山梨学院大学（4年連続7回目の優勝、10年連続10回目）、東海大学（2年連続30回目）、淑徳大学（2年連続24回目）、城西大学（16年連続16回目）、白鷗大学（初出場）、東京国際大学（2年ぶり7回目）、

第18回 関東学生男子ソフトボール秋季リーグ戦

会期：9月24日(土)～10月9日(月)

会場：群馬県館林市／高根運動場 他

I部リーグ

チーム	東京理科	国際武道	城西	高崎経済	都留文科	東京国際	勝	分	敗	順位
東京理科	-	●6-7	○6-4	○7-3	○6-3	○7-5	4	0	1	1位
国際武道	○7-6	-	●1-3	○6-0	○5-0	○5-1	4	0	1	3位
城西	●4-6	○3-1	-	○9-2	○4-0	○4-1	4	0	1	2位
高崎経済	●3-7	●0-6	●2-9	-	●4-17	●4-8	0	0	5	6位
都留文科	●3-6	●0-5	●0-4	○17-4	-	●6-13	1	0	4	5位
東京国際	●5-7	●1-5	●1-4	○8-4	○13-6	-	2	0	3	4位

※1～3位は当該間の得失点差による。

II部リーグ

チーム	関東学園	東海	千葉	筑波	埼玉	文教	勝	分	敗	順位
関東学園	-	○7-6	○22-17	○8-4	○12-4	○10-4	5	0	0	1位
東海	●6-7	-	○9-2	●5-6	○14-0	●3-5	2	0	3	3位
千葉	●17-22	●2-9	-	●2-7	○2-0	○5-4	2	0	3	4位
筑波	●4-8	○6-5	○7-2	-	●9-13	○8-7	3	0	2	2位
埼玉	●4-12	●0-14	●0-2	○13-9	-	○8-0	2	0	3	5位
文教	●4-10	○5-3	●4-5	●7-8	●0-8	-	1	0	4	6位

※3～5位は当該チーム間の直接対戦の結果による。

III部リーグ

チーム	茨城	山梨学院	日大生資	日大生産	芝浦工業	中央学院	勝	分	敗	順位
茨城	-	○10-4	△6-6	○7-0	○24-7	●10-15	3	1	1	2位
山梨学院	●4-10	-	○7-0	○7-0	○10-7	○14-4	4	0	1	1位
日大生資	△6-6	●0-7	-	○7-0	●11-12	○9-2	2	1	2	4位
日大生産	●0-7	●0-7	●0-7	-	●0-7	●0-7	0	0	5	6位
芝浦工業	●7-24	●7-10	○12-11	○7-0	-	△15-15	2	1	2	3位
中央学院	○15-10	●4-14	●2-9	○7-0	△15-15	-	2	1	2	5位

※3～5位は当該チーム間の勝ち点差による。

入替戦

I部～II部 高崎経済大学(I部6位) 8-0 関東学園大学(II部1位) ※高崎経済大学はI部残留
 II部～III部 文教大学(II部6位) 1-8 山梨学院大学(III部1位) ※山梨学院大学はII部昇格

第18回 関東学生女子ソフトボール秋季リーグ戦

会期：10月6日(土)・7日(日)・8日(月)

会場：埼玉県毛呂山町／大類ソフトボールパーク・東松山市／駒形公園ソフトボール場 他

I部リーグ

チーム	山梨学院	東海	淑徳	城西	東京国際	順天堂	勝	分	敗	順位
山梨学院	-	○2-1	○7-0	○2-1	○9-4	○9-2	5	0	0	1位
東海	●1-2	-	○2-1	●1-2	○3-1	○4-1	3	0	2	3位
淑徳	●0-7	●1-2	-	○1-0	●1-2	○1-0	2	0	3	5位
城西	●1-2	○2-1	●0-1	-	○3-1	○1-0	3	0	2	2位
東京国際	●4-9	●1-3	○2-1	●1-3	-	○4-3	2	0	3	4位
順天堂	●2-9	●1-4	●0-1	●0-1	●3-4	-	0	0	5	6位

※勝ち点同数の2～3位、4～5位の順位決定は大会規定による。

II部リーグ

チーム	清和	城西国際	新島学園	筑波	関東学園	文教	勝	分	敗	順位
清和	-	●3-5	○6-1	○7-0	○2-1	○6-2	4	0	1	2位
城西国際	○5-3	-	●2-3	○17-3	○5-3	○7-0	4	0	1	1位
新島学園	●1-6	○3-2	-	○15-3	●0-8	○4-3	3	0	2	3位
筑波	●0-7	●3-17	●3-15	-	●3-6	●9-11	0	0	5	6位
関東学園	●1-2	●3-5	○8-0	○6-3	-	△8-8	2	1	2	4位
文教	●2-6	●0-7	●3-4	○11-9	△8-8	-	1	1	3	5位

※勝ち点同数の1～2位の順位決定は大会規定による。

III部リーグ

チーム	白鷗	千葉	茨城	日大生資	埼玉	勝	分	敗	順位
白鷗	-	○12-1	○7-0	○22-0	○7-0	4	0	0	1位
千葉	●1-12	-	●2-3	○22-1	○19-0	2	0	2	3位
茨城	●0-7	○3-2	-	○15-10	○13-2	3	0	1	2位
日大生資	●0-22	●1-22	●10-15	-	○16-9	1	0	3	4位
埼玉	●0-7	●0-19	●2-13	●9-16	-	0	0	5	5位

I部II部入替戦 順天堂大学(I部6位) 3-1 城西国際大学(II部1位) ※順天堂大学はI部残留

II部III部入替戦 筑波大学(II部6位) 1-9 白鷗大学(III部1位) ※白鷗大学はII部昇格

最優秀選手賞

I部：信田沙南(山梨学院大投手) II部：小野塚菜奈(城西国際大投手) III部：井野口茉由(白鷗大投手)

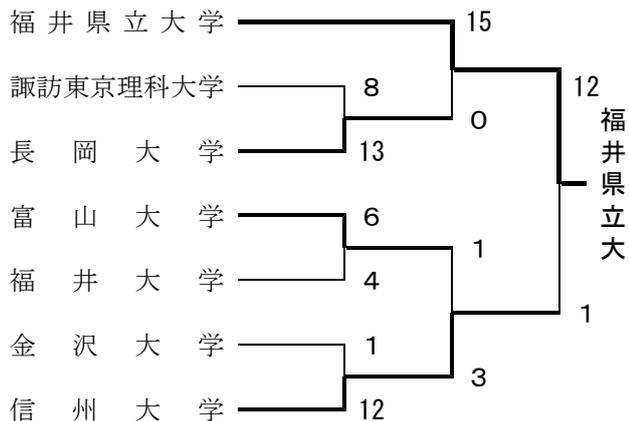
【北信越地区】

第25回 北信越地区大学男子・女子ソフトボール選手権大会
 (兼、文部科学大臣杯第53回全日本大学ソフトボール選手権大会予選会)

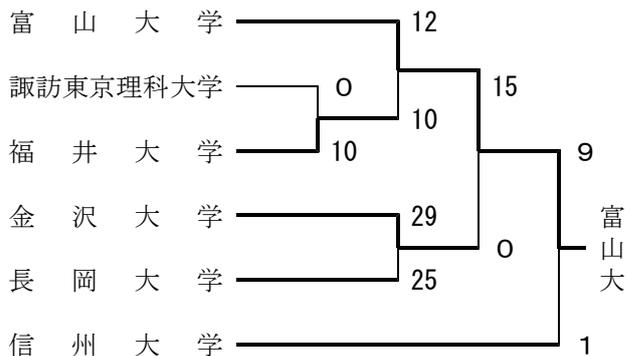
会 期：5月26日(土)・27日(日)

会 場：石川県小松市/スカイパークこまつ翼

男子トーナメント戦



男子第2代表決定戦



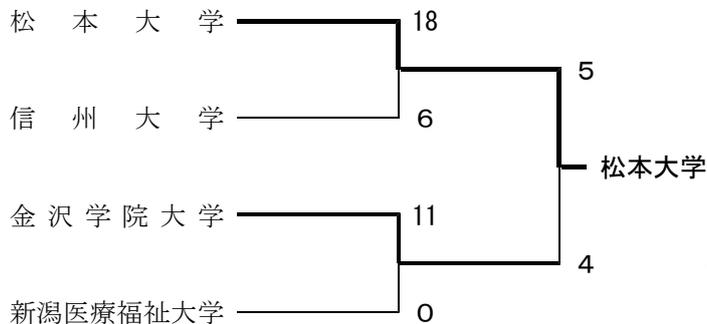
※インカレ出場権獲得校：福井県立大学（3年連続7回目）、富山大学（2年連続15回目）

女子予選リーグ

女子A	松本	金沢	新潟	勝	敗	順
松本	○	○	○	2	0	1
金沢	●	○	●	0	2	3
新潟医療福祉	●	○	○	1	1	2

女子B	富山	信州	金学	勝	敗	順
富山	○	●	●	0	2	3
信州	○	○	●	1	1	2
金沢学院	○	○	○	2	0	1

女子決勝トーナメント



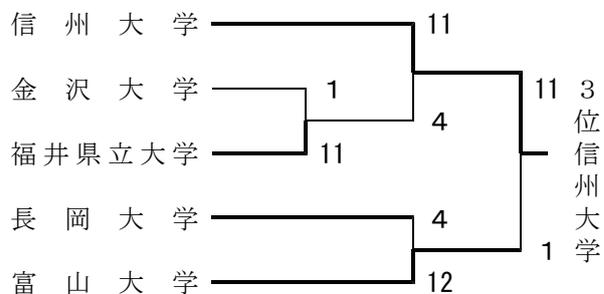
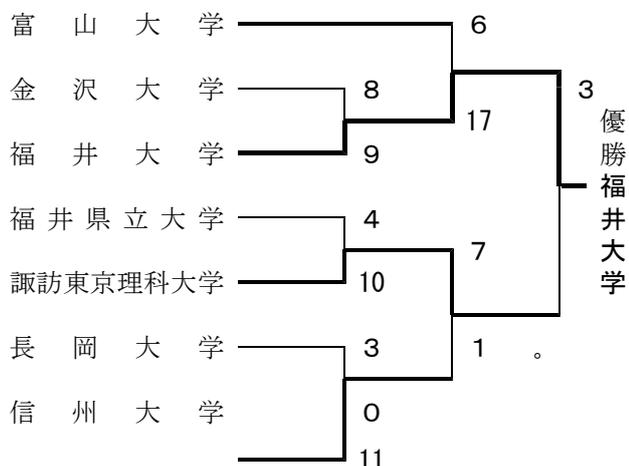
※インカレ出場権獲得校：松本大学（13年連続13回目）

第25回 北信越大学男女新人ソフトボール選手権大会

会期：10月27日(土)・28日(日)

会場：長野県高山村／北部運動広場、須坂市／北部体育館グラウンド 他

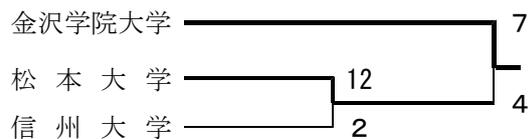
【男子】



【女子予選リーグ】

チーム	信州	松本	金学	勝	敗	順
信州	-	● 0-10	● 0-15	0	2	3
松本	○ 10-0	-	● 2-9	1	1	2
金沢学院	○ 15-0	○ 9-2	-	0	2	3

【女子決勝トーナメント】



優勝：金沢学院大学

2位：松本大学

3位：信州大学



【東京地区】 平成30年度第50回 東京都大学ソフトボール春季リーグ戦

会期：平成30年4月7日～5月6日

会場：早稲田大学・大類ソフトパーク・東京富士大学 他

【Men's Division 1】

チーム	国 土 館	日本体育	早 稲 田	中 央	東京学芸	東 京	勝	分	敗	順 位
国 土 館		● 8-9	○ 8-4	○ 5-0	○ 14-3	○ 5-4	4	0	1	2位
日本体育	○ 9-8		○ 6-2	○ 9-0	○ 4-0	○ 12-0	5	0	0	1位
早 稲 田	● 4-8	● 2-6		● 2-4	○ 16-0	○ 2-0	2	0	3	4位
中 央	● 0-5	● 0-9	○ 4-2		○ 8-1	○ 6-1	3	0	2	3位
東京学芸	● 3-14	● 0-4	● 0-16	● 1-8		○ 10-3	1	0	4	5位
東 京	● 4-5	● 0-12	● 0-2	● 1-6	● 3-10		0	0	5	6位

【Men's Division 2】

チーム	慶應義塾	明 治	学 習 院	日 本	立 教	東 洋	勝	分	敗	順 位
慶應義塾		● 6-17	● 2-9	● 0-16	● 3-7	○ 10-8	1	0	4	6位
明 治	○ 17-6		● 6-7	● 4-7	○ 13-3	○ 18-2	3	0	2	3位
学 習 院	○ 9-2	○ 7-6		● 3-17	○ 10-4	○ 8-0	4	0	1	2位
日 本	○ 16-0	○ 7-4	○ 17-3		○ 21-12	○ 14-4	5	0	0	1位
立 教	○ 7-3	● 3-13	● 4-10	● 12-21		● 2-9	1	0	4	5位
東 洋	● 8-10	● 2-18	● 0-8	● 4-14	○ 9-2		1	0	4	4位

【Men's Division 3】

チーム	文 教	帝 京	専 修	明 星	桜美林	成 蹊	東 農	勝	分	敗	順 位
文教湘南		● 0-7	○ 16-1	● 0-12	● 10-14	● 2-14	○ 7-0	2	0	4	5位
帝 京	○ 7-0		○ 17-1	○ 8-1	○ 8-4	○ 12-3	○ 7-7	6	0	0	1位
専 修	● 1-16	● 1-17		● 4-16	● 0-13	○ 28-11	○ 7-0	2	0	4	6位
明 星	○ 12-0	● 1-8	○ 16-4		● 0-15	● 3-5	○ 7-0	3	0	3	3位
桜美林	○ 14-10	● 4-8	○ 13-0	○ 15-0		○ 4-2	○ 7-0	5	0	1	2位
成 蹊	○ 14-2	● 3-12	● 11-28	○ 5-3	● 2-4		○ 7-0	3	0	3	4位
東京農業	● 0-7	● 0-7	● 0-7	● 0-7	● 0-7	● 0-7		0	0	6	7位

【Women's Division 1】

チーム	東女体	日本体育	早稲田	東京富士	国士舘	日女体	勝	分	敗	順位
東女体		● 3-10	● 3-5	● 1-4	○ 6-0	● 2-4	1	0	4	4位
日本体育	○ 10-3		○ 7-0	○ 5-2	○ 3-1	○ 1-0	5	0	0	1位
早稲田	○ 5-3	● 0-7		● 0-1	○ 6-3	○ 9-1	3	0	2	3位
東京富士	○ 4-1	● 2-5	○ 1-0		○ 3-0	○ 3-1	4	0	1	2位
国士舘	● 0-6	● 1-3	● 3-6	● 0-3		○ 5-3	1	0	4	6位
日女体	○ 4-2	● 0-1	● 1-9	● 1-3	● 3-5		1	0	4	5位

【Women's Division 2】

チーム	東京学芸	学習院	桜美林	中央	明治	慶應義塾	勝	分	敗	順位
東京学芸		○ 3-0	○ 15-0	○ 12-5	○ 16-0	○ 13-2	5	0	0	1位
学習院	● 0-3		○ 15-5	○ 4-3	○ 9-1	○ 8-1	4	0	1	2位
桜美林	● 0-15	● 5-15		● 4-8	● 3-10	● 0-8	0	0	5	6位
中央	● 5-12	● 3-4	○ 8-4		○ 5-1	○ 11-10	3	0	2	3位
明治	● 0-16	● 1-9	○ 10-3	● 1-5		● 2-11	1	0	4	5位
慶應義塾	● 2-13	● 1-8	○ 8-0	● 10-11	○ 11-2		2	0	3	4位

【Women's Division 3】

チーム	東洋	実践女子	日本	成蹊	専修	文教湘南	勝	分	敗	順位
東洋		○ 20-4	○ 9-4	○ 11-7			3	0	0	1位
実践女子	● 4-20		● 5-12	● 7-9			0	0	3	4位
日本	● 7-11	○ 12-5		○ 10-5			2	0	1	2位
成蹊	● 7-11	○ 9-7	● 5-10				1	0	2	3位
専修										
文教湘南										

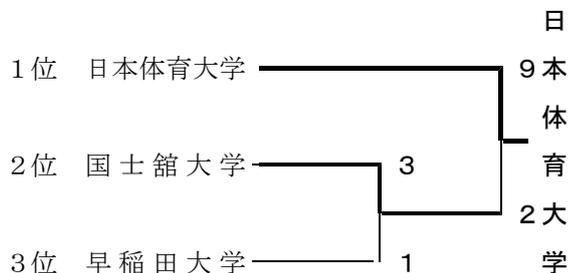
※勝敗が同じ場合の順位決定は、各リーグ戦とも失点率による。

第53回全日本大学選手権大会出場枠決定特別ページシステム

男子1部

会場：福生球場

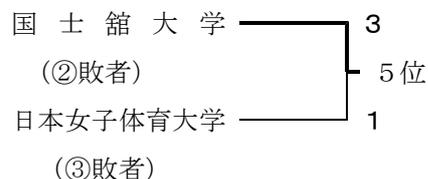
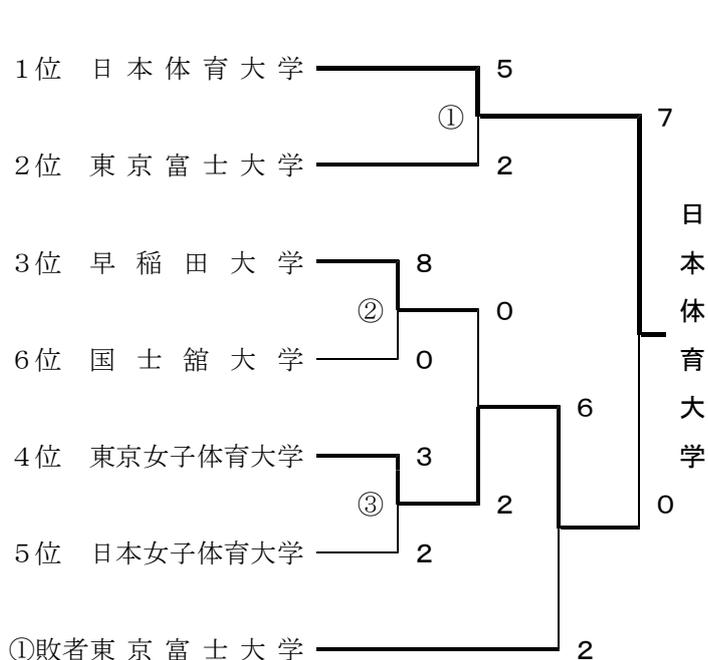
会期：5月3日(日)



女子1部

会場：早稲田大学所沢グラウンド

会期：4月22日(日)・4月28日(土)



【男子1部最終順位】

優勝：日本体育大学

準優勝：国士舘大学

3位：中央大学

4位：早稲田大学

5位：東京学芸大学

6位：東京大学

【女子1部最終順位】

優勝：日本体育大学

準優勝：東京女子体育大学

3位：東京富士大学

4位：早稲田大学

5位：国士舘大学

6位：日本女子体育大学

男子入れ替え戦

1部-2部 東京大学(1部6位) 3-2 日本大学(2部1位) 東京大学は1部残留

2部-3部 慶應義塾大学(2部6位) 9-7 帝京大学(3部1位) 慶應大学は2部残留

女子入れ替え戦

1部-2部 日本女子体育大学(1部6位) 7-0 東京学芸大学(2部1位) 日本女子体育大学は1部残留

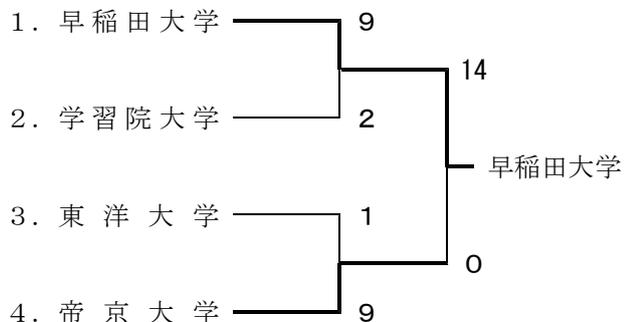
2部-3部 桜美林大学(2部6位) 7-11 東洋大学(3部1位) 桜美林大学は3部降格、東洋大学は2部昇格

文部科学大臣杯第53回全日本大学ソフトボール選手権大会東京都2次予選

会場：大類ソフトボールパークA

会期：5月6日(土)

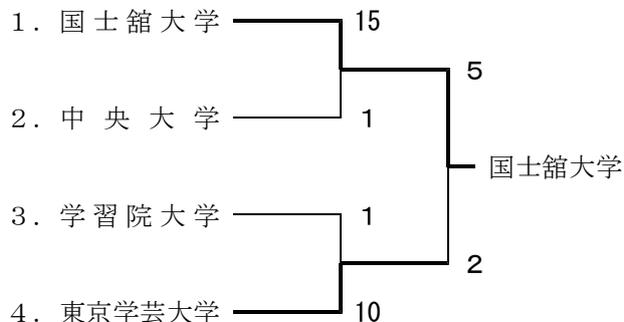
男子



会場：西戸グラウンドA

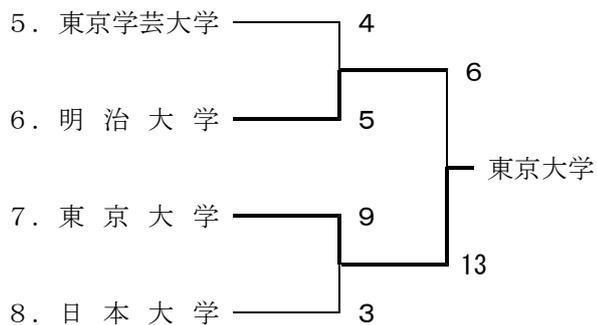
会期：5月6日(土)

女子



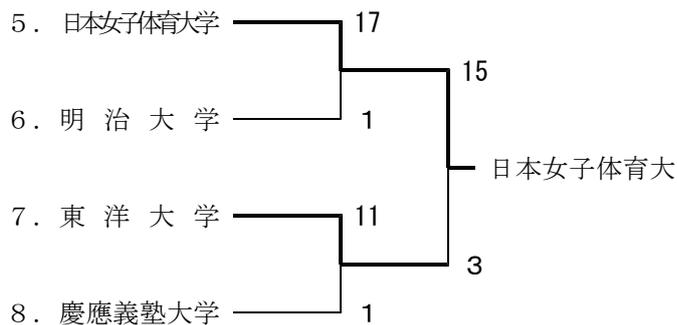
会場：大類ソフトボールパークB

会期：5月6日(土)



会場：西戸グラウンドB

会期：5月6日(土)



第53回全日本大学選手権大会の東京地区代表校

男子：日本体育大学(53年連続53回目)

国士舘大学(53年連続53回目)

中央大学(7年連続29回目)

早稲田大学(52年連続52目)

東京大学(12年ぶり19回目)

女子：日本体育大学(53年連続53回目)

東京女子体育大学(53年連続53回目)

東京富士大学(7年連続7回目)

早稲田大学(14年連続15回目)

国士舘大学(8年連続24回目)

日本女子体育大学(6年連続49回目)

平成30年度第50回 東京都大学ソフトボール秋季リーグ戦

会期：9月8日～10月20日

会場：江戸川球場・大類ソフトボールパーク 他

【Men's Division 1】

チーム	国士館	日本体育	早稲田	中央	東京学芸	東京	勝	分	敗	順位
国士館	-	● 1-4	○ 8-0	○ 4-2	○ 10-0	○ 11-1	4	0	1	2位
日本体育	○ 4-1	-	● 4-11	○ 1-0	○ 5-0	○ 3-1	4	0	1	1位
早稲田	● 0-8	○ 11-4	-	● 1-11	○ 26-7	○ 7-2	3	0	2	4位
中央	● 2-4	● 0-1	○ 11-1	-	○ 8-3	○ 4-3	3	0	2	3位
東京学芸	● 0-10	● 0-5	● 7-26	● 3-8	-	● 11-12	0	0	5	6位
東京	● 1-11	● 1-3	● 2-7	● 3-4	○ 12-11	-	1	0	4	5位

【Men's Division 2】

チーム	慶應義塾	明治	学習院	日本	立教	東洋	勝	分	敗	順位
慶應義塾	-	○ 16-5	○ 7-2	○ 14-4	○ 10-5	○ 6-4	5	0	0	1位
明治	● 5-16	-	○ 12-0	● 2-13	● 8-9	○ 15-5	2	0	3	3位
学習院	● 2-7	● 0-12	-	● 8-9	○ 4-3	○ 7-0	2	0	3	5位
日本	● 4-14	○ 13-2	○ 9-8	-	○ 4-2	○ 9-8	4	0	1	2位
立教	● 5-10	○ 9-8	● 3-4	● 2-4	-	○ 10-8	2	0	3	4位
東洋	● 4-6	● 5-15	● 0-7	● 8-9	● 8-10	-	0	0	5	6位

【Men's Division 3】

チーム	文教	帝京	明星	桜美林	成蹊	専修	東農	勝	分	敗	順位
文教湘南	-	○ 17-2	○ 10-6	● 0-12	● 1-7			2	0	2	3位
帝京	● 2-17	-	● 2-17	● 4-25	● 2-17			0	0	4	5位
専修	● 6-10	○ 17-2	-	● 0-7	● 11-12			1	0	3	4位
桜美林	○ 12-0	○ 25-4	○ 7-0	-	○ 8-5			4	0	0	1位
成蹊	○ 7-1	○ 17-2	○ 12-11	● 5-8	-			3	0	1	2位
専修						-					
東京農業							-				

男子入れ替え戦

1部-2部 東京学芸大学(6位) 9-6 慶應義塾大学(1位) 東京学芸大学は1部残留

2部-3部 東洋大学(6位) 6-9 桜美林大学(1位) 東洋大学は3部降格、桜美林大学は2部昇格

【Women's Division 1】

チーム	東女体	日本体育	早稲田	東京富士	国士館	日女体	勝	分	敗	順位
東女体		●0-7	○4-0	●0-1	○7-3	○5-2	3	0	2	3位
日本体育	○7-0		○7-1	○5-3	○4-3	○3-0	5	0	0	1位
早稲田	●0-4	●1-7		●1-11	○5-0	○8-2	2	0	3	4位
東京富士	○1-0	●3-5	○11-1		○3-0	○3-0	4	0	1	2位
国士館	●3-7	●3-4	●0-5	●0-3		●2-10	0	0	5	6位
日女体	●2-5	●0-3	●2-8	●0-3	○10-2		1	0	4	5位

【Women's Division 2】

チーム	東京学芸	学習院	慶應義塾	中央	明治	東洋	勝	分	敗	順位
東京学芸		○2-0	○17-0	○16-0	○17-2	○8-1	5	0	0	1位
学習院	●0-2		○6-0	○2-1	○11-0	●7-9	3	0	2	3位
慶應義塾	●0-17	●0-6		●0-6	○8-7	●10-20	1	0	4	5位
中央	●0-16	●1-2	○6-0		○10-0	○12-4	3	0	2	2位
明治	●2-17	●0-11	●7-8	●0-10		●3-12	0	0	5	6位
東洋	●1-8	○9-7	○20-10	●4-12	○12-3		3	0	2	4位

【Women's Division 3】

チーム	桜美林	実践女子	日本	成蹊	専修	文教教湘	勝	分	敗	順位
桜美林		●7-8	●2-20	○15-11			1	0	2	4位
実践女子	○8-7		●6-13	●3-4			1	0	2	2位
日本	○20-2	○13-6		○14-5			3	0	0	1位
成蹊	●11-15	○4-3	●5-14				1	0	2	3位
専修										
文教湘南										

※勝敗が同じ場合の順位決定は、各リーグ戦とも失点率による。

女子入れ替え戦

- 1部-2部 国士館大学(1部6位) 8-5 東京学芸大学(2部1位) 国士館大学は1部残留
 2部-3部 明治大学(2部6位) 4-10 日本大学(3部1位) 日本大学は2部昇格

【東海地区】

中京テレビ杯

平成30年度春季第82回 東海地区大学(男子)ソフトボールリーグ戦

—兼、第53回全日本大学ソフトボール選手権大会一次予選—

—兼、第50回西日本大学ソフトボール選手権大会予選—

会期：4月22日、5月4・5・6・12日

会場：愛知県刈谷市／亀城公園運動場

I部リーグ戦

チーム	中 京	中京学院	日本福祉	愛知学院	愛 知	岐阜聖徳	勝	分	敗	順位
中 京	-	○3-0	○9-4	○10-5	○7-2	○14-3	5	0	0	優勝
中京学院	●0-3	-	○3-0	○11-1	○9-0	○10-1	4	0	1	2位
日本福祉	●4-9	●0-3	-	○10-0	○8-0	○12-0	3	0	2	3位
愛知学院	●5-10	●1-11	●0-10	-	●8-15	○12-5	1	0	4	5位
愛 知	●2-7	●0-9	●0-8	○15-8	-	●2-12	1	0	4	6位
岐阜聖徳	●3-14	●1-10	●0-12	●5-12	○12-2	-	1	0	4	4位

※4～6位は当該チーム間の失点率による。

II部リーグ戦

予選A g	常 葉	愛知教育	名 古 屋	東海学園	勝	分	敗	順位
常 葉	-	●8-9	○11-4	○13-1	2	0	1	2位
愛知教育	○9-8	-	●5-8	○7-0	2	0	1	1位
名 古 屋	●4-11	○8-5	-	●3-6	1	0	2	4位
東海学園	●1-13	●0-7	○6-3	-	1	0	2	3位

※1～2、3～4位は当該チーム間の失点率による。

予選B g	名 城	南 山	中 部	静 岡	勝	分	敗	順位
名 城	-	●7-13	○14-9	○12-4	2	0	1	2位
南 山	○13-7	-	○16-6	○11-4	3	0	0	1位
中 部	●9-14	●6-16	-	●4-14	0	0	3	4位
静 岡	●4-12	●4-11	○14-4	-	1	0	2	3位

順位決定予備戦

常 葉 大 学(予選A 2位) 5-2 名 城 大 学(予選B 2位)

東海学園大学(予選A 3位) 4-16 静 岡 大 学(予選B 3位)

順位決定戦

- 1 位 決 定 戦：愛知教育大学(予選A 1位) 5-10 南 山 大 学(予選B 1位)
2・3 位決定戦：常 葉 大 学(予備戦勝者) 4-5 愛知教育大学(1位決定戦敗者)
4・5 位決定戦：静 岡 大 学(予備戦勝者) 12-5 名 城 大 学(予備戦敗者)
6・7 位決定戦：東海学園大学(予備戦敗者) 3-13 名 古 屋 大 学(8位決定戦勝者)
8 位 決 定 戦：名 古 屋 大 学(予選A 4位) 9-5 中 部 大 学(予選B 4位)

I 部×II 部入れ替え戦

愛知学院大学(5位) 8-3 愛知教育大学(2位)
愛知大学(6位) 5-15 南山大学(1位)

※愛知学院大学 I 部残留、南山大学 I 部昇格

代表

第15回東海地域大学ソフトボール選手権大会(第53回インカレ最終予選)：

中京大学・中京学院大学・日本福祉大学・
岐阜聖徳学園大学・愛知学院大学・南山大学・
愛知大学・愛知教育大学

第50回西日本大学ソフトボール選手権大会：

中京大学・中京学院大学・日本福祉大学・
岐阜聖徳学園大学・愛知学院大学・南山大学

個人表彰選手

● I 部リーグ

- 最 優 秀 選 手 賞：関口 幸輝(中京大学)
首 位 打 者 賞：菊川 智己(中京大学)
記 録 5 割 7 分 1 厘
打 点 賞：湊 裕哉(中京学院大学)
記 録 9
本 塁 打 賞：菊川 智己(中京大学)
記 録 3
盗 塁 賞：小島 直也(愛知大学)
記 録 4
最 優 秀 防 御 率 賞：関口 幸輝(中京大学)
記 録 0.00

ベ ス ト テ ン

- 投 手：関口 幸輝(中京大学)
捕 手：久保 朋也(愛知学院大学)
一 塁 手：山河 洋平(岐阜聖徳学園大学)
二 塁 手：松山 和貴(日本福祉大学)

- 三 塁 手：湊 裕哉(中京学院大学)
遊 撃 手：桶師 凌(中京学院大学)
外 野 手：菊川 智己(中京大学)
外 野 手：近藤 大嗣(中京大学)
外 野 手：池端 謙太(中京学院大学)
DP・FP：加島 佳明(日本福祉大学)

● II 部リーグ

- 優 秀 選 手 賞：加藤 優作(南山大学)
ベ ス ト プ レ イ ヤ ー 賞
南 山 大 学：鮫島 里騎
愛 知 教 育 大 学：河合隆太郎
常 葉 大 学：外山 大友
静 岡 大 学：松之木克哉
名 城 大 学：新貝 恭平
名 古 屋 大 学：堀 夏英
東 海 学 園 大 学：北村 勇輝
中 部 大 学：沼倉 辰弥

● I 部・II 部共通

- ベ ス ト マ ネ ジ メ ン ト 賞：稲垣 咲良(愛知学院大学)
ベ ス ト マ ー ケ テ ィ ン グ 賞：鈴木 莉奈(静岡大学)
ベ ス ト ス コ ア ラ ー 賞：太田 和希(中京大学)

講評 I 部は中京大と中京学院大の2強が全勝対決で中京大が2季連続の優勝を手にした。また、下位3チームは全敗がなく失点率で順位が決定するという混戦であったが、上位3チームとの投手力を中心とする守備力の差が目立った。

II 部も上位チームは混戦となったが、南山大が全勝で勝ち上がり、その勢いでI 部昇格も果たした。二桁得点の試合が多く、投手力の強化が喫緊の課題である。II 部降格の愛知大とII 部低迷の常葉大の両古豪に奮起を期待したい。(東海学連事務局長:水谷 博)

中京テレビ杯

平成30年度春季第71回 東海地区大学(女子)ソフトボールリーグ戦

ー兼、第53回全日本大学ソフトボール選手権大会一次予選ー

ー兼、第50回西日本大学ソフトボール選手権大会予選ー

会期：4月8・15・28・30日、5月3・4・5日

会場：愛知県東海市／新宝緑地運動公園、豊田市／運動公園ソフトボール場

I部リーグ戦結果

チーム	東海学園	中 京	岐阜経済	星 城	日本福祉	中京学院	勝	分	敗	率 順
東海学園	—	●0-1 △4-4	○8-0 ○7-0	○4-0 ○1-0	○3-0 ○4-0	○7-0 ○10-0	8	1	1	2位
中 京	○1-0 △4-4	—	○9-0 ○9-0	○7-0 ○3-0	○5-2 ○5-0	○3-2 ○4-2	9	1	0	優勝
岐阜経済	●0-8 ●0-7	●0-9 ●0-9	—	●1-2 ●1-2	○3-1 ●1-3	○8-1 ○4-0	3	0	7	5位
星 城	●0-4 ●0-1	●0-7 ●0-3	○2-1 ○2-1	—	●3-8 ○9-5	○5-2 ○7-1	5	0	5	3位
日本福祉	●0-3 ●0-4	●2-5 ●0-5	●1-3 ○3-1	○8-3 ●5-9	—	○3-2 ○3-1	4	0	6	4位
中京学院	●0-7 ●0-10	●2-3 ●2-4	●1-8 ●0-4	●2-5 ●1-7	●2-3 ●1-3	—	0	0	10	6位

II部リーグ戦結果

A	常 葉	至学館	静 岡	岐阜聖徳	愛知教育	中学名大	勝	分	敗	順位
常 葉	—	●1-10	○7-0	●1-2	○6-2	○16-0	3	0	2	3位
至学館	○10-1	—	○11-0	○6-0	○13-0	○8-0	5	0	0	1位
静 岡	●0-7	●0-11	—	●4-5	●0-8	●5-16	0	0	5	6位
岐阜聖徳	○2-1	●0-6	○5-4	—	○6-4	○10-0	4	0	1	2位
愛知教育	●2-6	●0-13	○8-0	●4-6	—	○8-6	2	0	3	4位
中学名大	●0-16	●0-8	○16-5	●0-10	●6-8	—	1	0	4	5位

I部×II部入れ替え戦

代表

岐阜経済大学(5位)3-5 岐阜聖徳学園葉大学
(2位)

※岐阜聖徳学園大学はI部昇格

中京学院大学(6位)0-3 至学館大学(1位)

※至学館大学はI部昇格

第15回東海地域大学選手権大会(第53回インカレ
最終予選)・第50回西日本大学選手権大会:

中京大学・東海学園大学・星城大学・

日本福祉大学・至学館大学・岐阜聖徳学園大学

岐阜経済大学・中京学院大学（以上8校）

個人表彰選手

● I 部リーグ

最優秀選手賞：高山美蓉子(中京大学)
首位打者賞：藤井 杏朱(日本福祉大学)
記録4割7分4厘
打点賞：佐藤 友香(中京大学)
記録12
本塁打賞：該当者なし
盗塁賞：佐藤 友香(中京大学)
記録6
最優秀防御率賞：竹田 早希(東海学園大学)
記録0.69

ベストテン：

投手：金丸侑志帆（中京大学）
捕手 棚町 佳奈（東海学園大学）
一塁手：藤原 量子（星城大学）
二塁手：杉本 梨緒（中京大学）
三塁手：細川 香恋（東海学園大学）
遊撃手：吉田 彩夏（東海学園大学）
外野手：佐藤 果歩（中京大学）
外野手：佐藤 友香（中京大学）
外野手：沖中由梨花（東海学園大学）
DPPF：大崎 小夏（日本福祉大学）

● II 部リーグ

優秀選手賞：木下 那夕(至学館大学)
ベストプレイヤー賞：
至学館大学：山崎真梨音
岐阜聖徳学園大学：齊木 千聡
常葉大学：鈴木 絢子
愛知教育大学：水口 莉沙
静岡大学：江口 優子
中部学院・名古屋：古田 雪乃

● I 部・II 部共通

MIP賞：竹田 早希(東海学園大学)
ベストマネジメント賞：藤本 莉加(南山大学)
ベストマーケティング賞：渡邊みこと(東海学園大学)
ベストスコアラー賞：吉田 香穂(岐阜経済大学)

講評 4月8・14・28日の三日間、愛知県東海市協会のご尽力のもと新宝緑地公園にて、4月30日、5月3～5日の四日間、同県豊田市協会のご尽力のもと豊田市運動公園において、II部も含めた全47試合が行われた。

前季、第70回秋季リーグ戦では、東海学園大が圧倒的な力を示し、全勝優勝を果たした。その実力を背景に、今季も独壇場となるかに思われた。しかしその前に立ちはだかったのは、二強の一角中京大であった。第1クールのエース対決は、両者譲らずタイブレイクの末1-0で中京大が逃げ切った。お互いに勝ち星を重ね第2クール最終日の決戦でも両エースが登板。この試合は点の取り合いとなり4-4の同点のまま7回終了。2時間の時間切れで、引き分けとなり中京大学が無敗のまま三季振り38回目の優勝を果たした。三位には、5勝5敗で星城大、4位には4勝6敗で日本福祉大が入った。岐阜経済大は第1クールを3位と好発進を果たしたものの第2クールで失速、3勝7敗で5位に終わった。中京学院大は、第1クールの初戦、優勝した中京大をタイブレイクまで持ち込むも一歩及ばず、その後は精彩を欠き、勝利を上げられず6位となった。

II部では、至学館大がわずか1失点のまま全勝優勝を果たした。2位には岐阜聖徳学園大が入り、入れ替え戦へ駒を進めた。入れ替え戦では、至学館大がリーグの勢いそのまま、中京学院大を寄せ付けず3-0で勝利、岐阜聖徳学園大は岐阜経済大に序盤3点のリードを奪われるも4回に逆転、その後ダメ押し5-3で勝利、創部以来初のI部昇格を果たした。近年の2校同時入れ替えは、第65回大会以来6大会振りのことである。

中京テレビ最優秀賞には、優勝した中京大の主将の高山美蓉子が選ばれた。昨季から三塁手から捕手にコンバートされ、主将も勤める中での活躍は見事であった。本リーグ戦、上位3チームには第53回全日本インカレの出場権が与えられる。5月末に行われる東海選手権で最後の一枚を決め、いよいよ夏の大一番に向けて各チームが凌ぎを削っていく。
(理事長 二瓶雄樹)

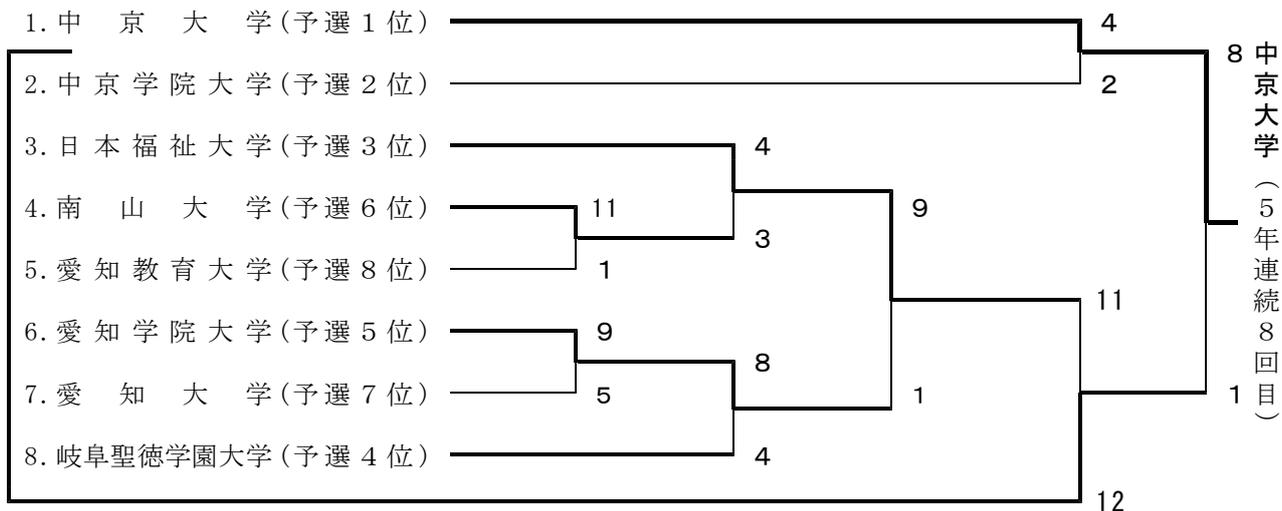
第15回東海地域大学男女ソフトボール選手権大会

一兼、第53回全日本大学(男・女)ソフトボール選手権大会東海地区最終予選会一

期日：5月26日(土)、27日(日)

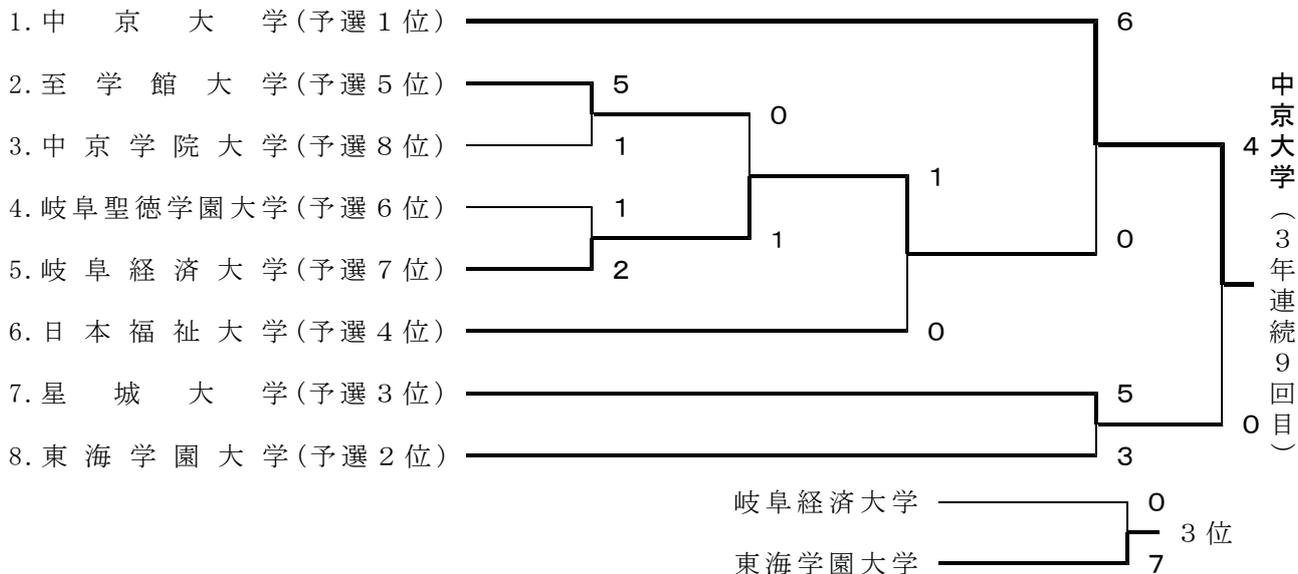
会場：岐阜県恵那市／岩村町総合グラウンド・山岡町グラウンド

【男子】



※男子インカレ出場権獲得校：中京大学（11年連続48回目）・中京学院大学（14年連続15回目）・日本福祉大学（4年連続7回目）

【女子】



※女子インカレ出場権獲得校：中京大学（34年連続43回目）・星城大学（2年連続2回目）・東海学園大学（11年連続17回目）・岐阜経済大学（2年ぶり3回目）

中京テレビ杯

平成30年度秋季第83回 東海地区大学(男子)ソフトボールリーグ戦

会期：10月13・14・20・21日

会場：愛知県名古屋市／船見緑地公園ソフトボール場

I 部リーグ戦

チーム	中 京	中京学院	日本福祉	岐阜聖徳	愛知学院	南 山	勝	分	敗	順 位
中 京	-	○ 9 - 1	○ 12 - 4	○ 9 - 0	● 5 - 6	○ 13 - 4	4	0	1	優勝
中京学院	● 1 - 9	-	● 4 - 13	○ 15 - 1	○ 16 - 2	○ 16 - 2	3	0	2	3位
日本福祉	● 4 - 12	○ 13 - 4	-	○ 12 - 7	○ 7 - 0	○ 8 - 6	4	0	1	2位
岐阜聖徳	● 0 - 9	● 1 - 15	● 7 - 12	-	● 3 - 8	○ 13 - 6	1	0	4	5位
愛知学院	○ 6 - 5	● 2 - 16	● 0 - 7	○ 8 - 3	-	○ 13 - 11	3	0	2	4位
南 山	● 4 - 13	● 2 - 16	● 6 - 8	● 6 - 13	● 11 - 13	-	0	0	5	6位

※1～2位、3～4位は直接対戦の結果による。

II 部リーグ戦

予選A g	愛 知	静 岡	名 城	中 部	名 商	勝	分	敗	失点率	順位
愛 知	-	● 8 - 9	● 15 - 16	○ 17 - 7	○ 20 - 5	2	0	2	12.71	4位
静 岡	○ 9 - 8	-	○ 9 - 4	○ 10 - 7	○ 11 - 0	4	0	0	-	1位
名 城	○ 16 - 15	● 4 - 9	-	● 6 - 7	○ 13 - 3	2	0	2	11.55	2位
中 部	● 7 - 17	● 7 - 10	○ 7 - 6	-	○ 17 - 1	2	0	2	12.38	3位
名古屋商	● 5 - 20	● 0 - 11	● 3 - 13	● 1 - 17	-	0	0	4	-	5位

※2～4位は失点率による。

予選B g	愛知教育	常 葉	名 古 屋	東海学園	勝	分	敗	順位
愛知教育	-	○ 5 - 4	● 5 - 6	○ 10 - 2	2	0	1	2位
常 葉	● 4 - 5	-	● 2 - 9	○ 8 - 5	1	0	2	3位
名 古 屋	○ 6 - 5	○ 9 - 2	-	○ 12 - 5	3	0	0	1位
東海学園	● 2 - 10	● 5 - 8	● 5 - 12	-	0	0	3	4位

順位決定予備戦

名 城 大 学(予選A 2位) 17-16 愛知教育大学(予選B 2位)

中 部 大 学(予選A 3位) 13-2 常 葉 大 学(予選B 3位)

愛 知 大 学(予選A 4位) 11-1 東海学園大学(予選B 4位)

順位決定戦

- 1 位 決 定 戦：静 岡 大 学(予選A 1 位) 4－5 名 古 屋 大 学(予選B 1 位)
 2・3 位決定戦：静 岡 大 学(1 位決定戦敗者) 5－14 名 城 大 学(予備戦勝者)
 4・5 位決定戦：愛 知 教 育 大 学(予備戦勝者) 7－6 中 部 大 学(予備戦敗者)
 6・7 位決定戦：愛 知 大 学(予備戦勝者) 9－8 常 葉 大 学(予備戦敗者)
 8・9 位決定戦：東 海 学 園 大 学(予備戦敗者) 17－9 名 古 屋 商 科 大 学(予選A 5 位)

I・II 部入れ替え戦

岐阜聖徳学園大学(I 部 5 位) 10－2 名城大学(II 部 2 位) ※両大とも原部に残留
 南山大学(I 部 6 位) 15－8 名古屋大学(II 部 1 位) ※両大とも原部に残留

個人表彰選手

最 優 秀 選 手 賞：久本 廉 (中京大)
 首 位 打 者 賞：久本 廉 (中京大)
 記録：7 割 1 分 4 厘
 打 点 賞：久本 廉 (中京大)
 記録：12
 本 塁 打 賞：久本 廉 (中京大)
 記録：7 ※リーグ新記録
 盗 塁 賞：該当者なし
 最 優 秀 防 御 率 賞：湯浅彰一郎 (中京大)
 記録：1. 3 4
 優 秀 選 手 賞：堀 夏英 (名古屋大)
 ベストマネジメント賞：稲垣咲良(愛知学院大)
 ベストマーケティング賞：太田 和希 (中京大)
 ベストスコアラー賞：中田 愛菜 (名城大)

I 部 ベ ス ト テ ン

投 手：湯浅彰一郎 (中京大)
 捕 手：寺地 宏平 (日本福祉大)
 一 塁 手：岸園 優希 (中京大)
 二 塁 手：吉川 泰史 (日本福祉大)
 三 塁 手：花井 大輔 (愛知学院大)
 遊 撃 手：池端 謙太 (中京学院大)
 遊 撃 手：森川 凱貴 (日本福祉大)
 外 野 手：南村 海斗 (中京学院大)
 外 野 手：高木 頌太 (中京学院大)
 外 野 手：奥村 大地 (南山大)
 D P F P：久本 廉 (中京大)

II 部 ベ ス ト プ レ イ ヤ ー

名 古 屋 大 学：江崎 智哉

名 城 大 学：飯田 友樹
 静 岡 大 学：窪田 朝希
 愛 知 教 育 大 学：市川 皓大
 中 部 大 学：牧野誉志己
 愛 知 大 学：永井 優希
 常 葉 大 学：小川勇太郎
 東 海 学 園 大 学：藤田 遼一
 名 古 屋 商 科 大 学：新美 大揮

講評 秋季リーグ戦は名古屋市協会のお世話になり、船見緑地グラウンドでは初の開催であった。関係各位にまずもって御礼申し上げます。

I 部リーグ戦は新チームになっても中京大学の独走が続くのが注目されたが、初日に愛知学院大学に敗れて波乱の展開になるかと思われた。しかし、その後は順調に勝ち星を重ねるとともに、最終日にそれまで全勝の日本福祉大学を撃破し、中京大学が余裕の3季連続49回目の優勝でリーグ戦は幕を閉じた。

II 部リーグ戦は、1 位決定戦が名古屋大学と静岡大学というこれまでになかった国立大学同士の対戦になり、1 点差で名古屋大学が勝利した。また、古豪の愛知大学や常葉大学が6～7 位決定戦を戦うという意外な展開であった。

完封試合はI 部II 部とも1 試合しかなく、打高投低のリーグ戦であった。中京大学・久本選手のリーグ新記録となる7 本塁打は賞賛されるが、10 点以上で勝敗をを争う試合が多く、投手力の強化が切に望まれる。(事務局長 水谷 博)

中京テレビ杯

平成30年度秋季第72回東海地区大学(女子)ソフトボールリーグ戦

会期：平成30年10月7・13・20・27日

会場：愛知県高浜市／碧海グラウンド・流作グラウンド

I 部リーグ戦

チーム	中 京	東海学園	星 城	日本福祉	至 学 館	岐阜聖徳	勝	分	敗	順 位
中 京	-	● 1 - 2	○ 15 - 2	○ 9 - 1	○ 12 - 0	○ 5 - 0	4	0	1	2 位
東海学園	○ 2 - 1	-	○ 5 - 3	○ 5 - 0	○ 6 - 1	○ 11 - 0	5	0	0	優勝
星 城	● 2 - 15	● 3 - 5	-	● 1 - 2	○ 8 - 1	○ 9 - 0	2	0	3	3 位
日本福祉	● 1 - 9	● 0 - 5	○ 2 - 1	-	● 7 - 12	○ 2 - 0	2	0	3	4 位
至 学 館	● 0 - 12	● 1 - 6	● 1 - 8	○ 12 - 7	-	○ 1 - 0	2	0	3	5 位
岐阜聖徳	● 0 - 5	● 0 - 11	● 0 - 9	● 0 - 2	● 0 - 1	-	0	0	5	6 位

※3～5位は失点率による。

II 部リーグ戦

チーム	岐阜経済	中京学院	常 葉	愛知教育	名 古 屋	静 岡	勝	分	敗	順 位
岐阜経済	-	△ 0 - 0	○ 9 - 8	○ 9 - 0	○ 13 - 0	○ 11 - 0	4	1	0	2 位
中京学院	△ 0 - 0	-	○ 11 - 0	○ 7 - 0	○ 10 - 0	○ 30 - 0	4	1	0	優勝
常 葉	● 8 - 9	● 0 - 11	-	● 0 - 7	○ 12 - 1	○ 11 - 1	2	0	3	4 位
愛知教育	● 0 - 9	● 0 - 7	○ 7 - 0	-	○ 12 - 4	○ 13 - 2	3	0	2	3 位
名 古 屋	● 0 - 13	● 0 - 10	● 1 - 12	● 4 - 12	-	○ 13 - 10	1	0	4	5 位
静 岡	● 0 - 11	● 0 - 30	● 1 - 11	● 2 - 13	● 10 - 13	-	0	0	5	6 位

※1～2位は失点率による。

I・II部入れ替え戦

至学館大学(I部5位) 1 - 4 岐阜経済大学(II部2位) ※岐経大はI部昇格、至学館大はII部降格

岐阜聖徳学園大学(I部6位) 2 - 7 中京学院大学(II部1位) ※中院大はI部昇格、聖徳大はII部降格

個人表彰選手

最優秀選手賞：山田 玲菜(東海学園大)

I部首位打者賞：高瀬 沙羅(中京大)

記録6割6分7厘

I部打点賞：高瀬 沙羅(中京大)

記録6

I部本塁打点賞：該当者なし

I部盗塁賞：該当者なし

I部最優秀防御率賞：丹羽 萌(中京大)

記録0.00

II部優秀選手賞：柴本 知穂(中京学院大)

ベストマネジメント賞：杉山あず美(南山大)

ベストマーケティング賞：鈴木 陽子（名古屋大）
 ベストスコアラー賞：水谷八重乃（岐阜経済大）

I 部 ベ ス ト 1 0 :

投 手 山田 玲菜（東海学園大）
 捕 手 藤井 杏寿（日本福祉大）
 一 塁 手 大塚 初菜（星城大）
 二 塁 手 杉本 梨緒（中京大）
 三 塁 手 伊藤梨里花（東海学園大）
 遊 撃 手 高瀬 沙羅（中京大）
 外 野 手 昆野 藍加（東海学園大）
 外 野 手 川口 茉菜（中京大）
 外 野 手 山岡 瑞季（至学館大）
 D P F P 藤原 量子（星城大）

II 部 ベ ス ト プ レ イ ヤ ー 賞 :

中 京 学 院 大 学 : 中村 南海
 岐 阜 経 済 大 学 : 赤池 麗奈
 愛 知 教 育 大 学 : 山田 芽唯
 常 葉 大 学 : 中野 未姫
 名 古 屋 大 学 : 鈴木 陽子
 静 岡 大 学 : 藤原奈々香

講評 2週連続の台風に見舞われ雨にたたられたリーグ戦となりました。1ヶ月にわたるリーグ戦でしたが、予定になかった会場のご提供等、開催にご尽力いただいた高浜市並びに高浜連盟をはじめとする関係各位にまずもって御礼申し上げます。

今季は、来年からの安城におけるインカレに向けてのスタートラインであった。東海地区の底上げには、I部リーグ戦2強の中京大学と東海学園大学をいかに他チームが崩してより高いレベルに到達できるか、また2強がより高い壁になるのが重要な注目点であった。しかし、結果は残念ながらであった。最終日まで2強は全く隙を見せず、完封もしくは最少失点で勝ち星を積み上げ

ていった。唯一健闘したのは春の東海インカレで2位に食い込んだ星城大学だけであったが、2強の壁に跳ね返された。その星城大学も、最終日に日本福祉大学に敗れて至学館大学とともに2勝3敗で3チームが並んだ。結果、失点率で星城大学3位、日本福祉大学4位、至学館大学5位となった。

2強に食い込むべき3チームの星のつぶし合いと余裕を持って3チームを下してきた2強の優勝決定戦は、1点差ゲームとなった。3回表に中京大学が2つの敵失を生かして先制したが、東海学園大学は4回に三塁打と内野ゴロで追いつき、続く5回には犠打を挟んだ2本の単打で逆転した。これが決勝点となり、2季ぶり15回目の優勝を飾った。なお、今季初めてI部で戦うことになった岐阜聖徳学園大学は、厚い壁に阻まれて得点を挙げるができず、全敗で最下位に甘んじた。

II部リーグ戦は、春季に降格となった中京学院大学と岐阜経済大学が圧倒的な強さを見せ、最終日に無敗で優勝決定戦に臨んだ。この試合も両者譲らず7回0-0の時間切れとなったが、全試合の失点率で中京学院大学のII部優勝となった。なお、中京学院大学は5試合無失点という記録を残した。

I部II部入れ替え戦は、II部の中京学院大学と岐阜経済大学2チームが、無敗の勢いに乗ってI部の至学館大学と岐阜聖徳学園大学を撃破し、1季でI部に返り咲いた。

リーグ戦を終えて、各チームにはそれぞれに課題が浮き彫りにされたが、来年のインカレを見据えてこの冬のトレーニングに励んでもらいたい。投手力や打撃力の向上は言うまでもないことであるが、このリーグで特に目立ったのは送球のミスである。外野手から内野手・捕手へ、内野手間の送球の速さと正確性・判断力の向上に励んでもらいたい。（理事長 二瓶 雄樹）

【近畿地区】

平成30年度 第50回春季関西学生ソフトボールリーグ戦（男子）

会期：4月14日～

会場：大阪府泉南市／サザンスタジアム・なみはやグラウンド、大阪市／柴島スポーツグラウンド

1部リーグ戦

チーム	神戸学院	立命館	関西	京都産業	大阪教育	四天王寺	勝	分	敗	順位
神戸学院	-	○5-0	○3-1	○6-0	○7-0	○6-0	5	0	0	1位
立命館	●0-5	-	○2-1	○15-1	○10-0	○6-5	4	0	1	2位
関西	●1-3	●1-2	-	○9-0	○10-1	○8-5	3	0	2	3位
京都産業	●0-6	●1-15	●0-9	-	○12-2	○11-2	2	0	3	4位
大阪教育	●0-7	●0-10	●1-10	●2-12	-	○4-3	1	0	4	5位
四天王寺	●0-6	●5-6	●5-8	●2-11	●3-4	-	0	0	5	6位

☆神戸学院大学は3季連続12回目の優勝！★四天王寺大学は2部に自動降格

2部リーグ戦

2部A	大阪府立	大阪体育	京都	大阪市立	神戸	勝	分	敗	点	順位
大阪府立	-	○5-1	○5-1	○6-1	○11-3	4	0	0	12	1位
大阪体育	●1-5	-	○4-9	○8-3	○10-2	3	0	1	9	2位
京都	●1-5	●4-9	-	○3-2	○9-8	2	0	2	6	3位
大阪市立	●1-6	●3-8	●2-3	-	○6-2	1	0	3	3	4位
神戸	●3-11	●2-10	●8-9	●2-6	-	0	0	4	0	5位

2部B	同志社	大阪経済	龍谷	大阪	大阪経法	勝	分	敗	点	順位
同志社	-	○8-0	○12-1	○7-3	○3-1	4	0	0	12	1位
大阪経済	●0-8	-	○4-3	○4-2	○4-1	3	0	1	9	2位
龍谷	●1-12	●3-4	-	○8-3	○6-3	2	0	2	6	3位
大阪	●3-7	●2-4	●3-8	-	○5-0	1	0	3	3	4位
大阪経法	●1-3	●1-4	●3-6	●0-5	-	0	0	4	0	5位

◎2部ブロック決勝

大阪府立大学4-0同志社大学

☆大阪府立大学は1部に自動昇格

◎2部最下位決定戦

神戸大学2-14大阪経法大学

★神戸大学は3部に自動降格

3部リーグ戦

3部A	兵庫県立	関西学院	大阪工業	甲南	奈良教育	勝	分	敗	点	順位
兵庫県立	○7-6	○6-4	○12-8	○7-0	4	0	0	12	1位	
関西学院	●6-7	○8-7	○8-1	○7-0	3	0	1	9	2位	
大阪工業	●4-6	●7-8	○11-9	○7-0	2	0	2	6	3位	
甲南	●8-12	●1-8	●9-11	○7-0	1	0	3	3	4位	
奈良教育	●0-7	●0-7	●0-7	●0-7	0	0	4	0	5位	

3部B	近畿	佛教	大阪産業	摂南	勝	分	敗	点	順位
近畿	○8-3	○16-0	○14-4	3	0	0	9	1位	
佛教	●3-8	○13-0	○19-11	2	0	1	6	2位	
大阪産業	●0-16	●0-13	○15-2	1	0	2	3	3位	
摂南	●4-14	●11-19	●2-15	0	0	3	0	4位	

3部C	兵庫教育	京都学園	和歌山	流通科学	勝	分	敗	点	順位
兵庫教育	○7-3	○13-7	○6-4	3	0	0	9	1位	
京都学園	●3-7	○6-2	○3-2	2	0	1	6	2位	
和歌山	●7-13	●2-6	○12-0	1	0	2	3	3位	
流通科学	●4-6	●2-3	●0-12	0	0	3	0	4位	

◎3部ブロック決勝 兵庫県立大学3-4近畿大学 近畿大学6-5兵庫教育大学
 兵庫県立大学6-3兵庫教育大学 ☆近畿大学は2部に自動昇格

◎入れ替え戦

1部・2部 大阪教育大学3-4同志社大学 ☆同志社大学は1部昇格、大阪教育大学2部降格

2部・3部 大阪経済法科大学13-7兵庫県立大学 ☆大阪経済法科大学、兵庫県立大学は原部残留

◇西日本インカレ出場チーム（リーグ戦結果の上位12大学）

神戸学院大学、立命館大学、関西大学、京都産業大学、大阪教育大学、四天王寺大学

大阪府立大学、同志社大学、大阪体育大学、大阪経済大学、京都大学、龍谷大学

◇全日本インカレ出場チーム（1部1・2位、及びインカレ予選により決定）

神戸学院大学、立命館大学、関西大学、京都産業大学、大阪教育大学、大阪体育大学、同志社大学

【総評】 関西リーグ50周年記念年となる春季1部は、昨年度2季連続で1部を制した神戸学院大学の牙城を他チームが崩すことができるかが焦点であった。しかしながら、追随すべき立命館大

学と関西大学に対しても神戸学院大学は危なげなく勝利し、全勝で3季連続優勝を果たした。特筆すべきは5試合で1失点というスコアであり、素晴らしい成績であった。

また、2部は濱口投手を擁する大阪府立大学が1部常連校の同志社大学とのブロック決勝を制し、念願の1部昇格を果たした。その対戦に破れはしたものの、同志社大学は入れ替え戦で勝利し、1部復帰となり、秋リーグは1部と2部の2チームずつが入れ替わる形で行われることとなった。

一方、3部は各ブロックを全勝で勝ち上がった

近畿大学、兵庫県立大学、兵庫教育大学によるブロック決勝となった。3対戦ともに接戦となったが、近畿大学が2勝をし、2部に自動昇格となった。

ここ数年に共通することであるが、安定した投手を抱えるチームが一步抜ける結果となっている。一にも二にも投手の養成に尽きることを改めて実感した。
(理事長 森田啓之)

平成29年度 第49回春季関西学生ソフトボールリーグ戦 (女子)

会期：4月8・14・21・22・28・29・30日、5月3日

会場：武庫川女子大学・大阪大谷大学・四天王寺大学・摂南大学

1部リーグ戦成績

チーム	園田学園	大阪大谷	武庫川	大阪青山	立命館	奈良学園	関西	神戸親和
園田学園	-	○1-0	○3-1	○1-0	○2-0	○7-2	○4-0	○7-0
大阪大谷	●0-1	-	○6-0	○3-1	○9-0	○7-0	○3-0	○3-0
武庫川	●1-3	●0-6	-	●1-2	●0-2	○5-0	○2-1	○1-0
大阪青山	●0-1	●1-3	○2-1	-	○2-1	○2-1	●1-2	○3-0
立命館	●0-2	●0-9	○2-0	●1-2	-	○3-0	●2-3	○3-2
奈良学園	●2-7	●0-7	●0-5	●1-2	●0-3	-	○6-0	●4-10
関西	●0-4	●0-3	●1-2	○2-1	○3-2	●0-6	-	○3-2
神戸親和	●0-7	●0-3	●0-1	●0-3	●2-3	○10-4	●2-3	-

※4～6位は当該チームの失点差により順位決定。7・8位は当該チームの直接対戦により順位決定。

1部最終成績

優勝 園田学園女子大学 (7勝0分0敗)
 2位 大阪大谷大学 (6勝0分1敗)
 3位 大阪青山大学 (4勝0分3敗)
 4位 立命館大学 (3勝0分4敗)
 5位 武庫川女子大学 (3勝0分4敗)
 6位 関西大学 (3勝0分4敗)

7位 神戸親和女子大学 (1勝0分6敗)

8位 奈良学園大学 (1勝0分6敗)

1部個人表彰

打撃成績

順位	氏名	大学	打率
1位	東郷 佑実	大阪大谷大学	0.483

2位	相本 真琴	武庫川女子大学	0.435
3位	福元 美紗	武庫川女子大学	0.410
4位	森山 春奈	大阪大谷大学	0.385
5位	井口莉加子	立命館大学	0.381
5位	原田有芽乃	神戸親和女子大学	0.381
7位	今橋このみ	関西大学	0.360
8位	山根 志帆	大阪大谷大学	0.333
8位	田中 美涼	大阪大谷大学	0.333
8位	下山 絵理	園田学園女子大学	0.333

ベストプレー賞

大	学	氏 名	守備位置
園田学園女子大学	下山	絵理	三塁手
大阪大谷大学	吉崎	菜々海	投手
武庫川女子大学	脇山	朱音	投手
大阪青山大学	川添	恵	投手
立命館大学	山口	希	投手
奈良学園大学	尾高	杏花	投手
関西大学	石橋	美奈	投手
神戸親和女子大学	畑垣	結女	左翼手

投手成績

順位	氏 名	大 学	防御率
1位	三原 千空	園田学園女子大学	0.00
2位	木戸口紗英	立命館大学	0.26
3位	川添 恵	大阪青山大学	0.56

ホームラン賞：下山 絵理 園田学園女子大学
日吉野乃子 立命館大学 記録2
盗塁賞：山本麻莉絵 関西大学 記録6

2部リーグ戦対戦成績

チーム	同志社	大阪国際	太成学院	龍 谷	大阪体育	京都産業	勝	分	敗	順 位
同志社	○ 6 - 3	● 6 - 7	● 4 - 5	○ 4 - 1	○ 8 - 6	3	0	2	3位	
大阪国際	● 3 - 6	○ 0 - 1	● 3 - 5	○ 4 - 3	○ 6 - 0	2	0	3	4位	
太成学院	○ 7 - 6	○ 1 - 0	○ 2 - 0	● 1 - 4	○ 5 - 0	4	0	1	1位	
龍 谷	○ 5 - 4	○ 5 - 3	● 0 - 2	○ 3 - 0	○ 6 - 2	4	0	1	2位	
大阪体育	● 1 - 4	● 3 - 4	○ 4 - 1	● 0 - 3	○ 6 - 3	2	0	3	5位	
京都産業	● 6 - 8	● 0 - 6	● 0 - 5	● 2 - 6	● 3 - 6	0	0	5	6位	

※1・2位、4・5位は、当該チームの直接対戦により順位決定。

2部個人表彰

打撃成績

順位	氏 名	大 学	打 率
1位	石井はるか	大阪体育大学	0.590
2位	峰 サアヤ	龍谷大学	0.565
3位	石田 美保	大阪国際大学	0.500
3位	野表 明歩	同志社大学	0.500
3位	大田あすか	大阪体育大学	0.500
6位	石川 妃悠	同志社大学	0.470

7位	安食 優花	大阪体育大学	0.444
8位	橋本 芽衣	同志社大学	0.437
8位	佐野 志乃	龍谷大学	0.437
10位	前田 佳穂	大阪国際大学	0.400

投手成績

順位	氏 名	大 学	防御率
1位	岡 真里流	太成学院大学	0.62
2位	立迫 由樹	同志社大学	0.70
3位	大工原愛美	大阪体育大学	1.56

ベストプレイ賞

大 学	氏 名	守備位置
太成学院大学	岡 真理流	投 手
龍谷大学	奥 実里	捕 手
同志社大学	石川 妃悠	二塁手
大阪国際大学	梶原ゆりな	捕 手
大阪体育大学	大田あすか	遊撃手
京都産業大学	宮本 菜那	投 手

ホームラン賞：松村 普子 京都産業大学 記録2

盗塁賞：安部 志織 太成学院大学 記録3

3部順位決定リーグ対戦成績表（1位～3位）

チーム	びわこ	羽衣国際	天 理	勝	分	負	順 位
びわこ	○	○7-0	●9-10	1	0	1	2位
羽衣国際	●0-7	○	●1-10	0	0	2	3位
天 理	○10-9	○10-1	○	2	0	0	1位

3部順位決定リーグ対戦成績表（4位～6位）

チーム	大阪教育	経・京	兵 教	勝	分	負	順 位
大阪教育	○	●5-2	●4-11	0	0	2	6位
経・京	○12-5	○	●4-14	1	0	1	5位
兵 教	○11-4	○14-4	○	2	0	0	4位

3部順位決定リーグ対戦成績表（7位～9位）

チーム	京都女子	府・四・摂	佛 教	勝	分	負	順 位
京都女子	○	●5-7	○13-6	1	0	1	7位
府・四・摂	○7-5	○	●11-12	1	0	1	8位
佛 教	●6-13	○12-11	○	1	0	1	9位

※7～9位は当該チームの失点差により順位決定。

3部個人表彰

打撃成績

順位	氏 名	大 学	打 率
1位	前川 夏海	天理大学	0.813
2位	松下 桃奈	びわこ成蹊スポーツ大学	0.733
3位	児玉英奈美	びわこ成蹊スポーツ大学	0.615
4位	山田 智香	大阪経済法科大学	0.563
5位	難波 芽衣	大阪教育大学	0.545
6位	中田 真帆	びわこ成蹊スポーツ大学	0.538

6位	吉岡 麗	京都女子大学	0.538
8位	筒井 南帆	天理大学	0.533
9位	松本 優花	京都女子大学	0.500
10位	板越 愛美	羽衣国際大学	0.476

投手成績

順位	氏 名	大 学	防 御 率
1位	荒川 花涼	びわこ成蹊スポーツ大学	1.05
2位	前川 夏海	天理大学	5.44
3位	吉岡 麗	京都女子大学	7.95

ベストプレー賞		
大 学	氏 名	守備位置
天理大学	前川 夏海	投 手
びわこ成蹊スポーツ大学	荒川 花涼	投 手
羽衣国際大学	板越 愛美	捕 手
兵庫教育大学	片山 実優	投 手
大阪経済法科・京都学園大学	山田 智香	投 手
大阪教育大学	毛利真侑子	投 手

京都女子大学	吉岡 麗	投 手
大阪府立・四天王寺・摂南大学	山本 ひかる	投 手
佛教大学	藤田 美咲	捕 手

ホームラン賞：名取 裕美 摂南大学 記録12

盗塁賞：山田 智香 大阪経済法科大学 記録 8

平成30年度 第50回秋季関西学生ソフトボールリーグ戦（男子）

会期：9月9日～

会場：大阪府泉南市／サザンスタジアム・なみはやグラウンド、大阪市／柴島スポーツグラウンド

1部リーグ戦

チーム	神戸学院	立命館	関西	京都産業	大阪府立	同志社	勝	分	敗	順位
神戸学院	-	○ 8 - 1	● 0 - 3	○ 4 - 0	○ 5 - 1	○ 2 - 0	4	0	1	1位
立命館	● 1 - 8	-	○ 3 - 1	● 1 - 2	○ 7 - 1	○ 10 - 3	3	0	2	2位
関西	○ 3 - 0	● 1 - 3	-	△ 2 - 2	△ 0 - 0	○ 8 - 1	2	2	1	3位
京都産業	● 0 - 4	○ 2 - 1	△ 2 - 2	-	● 2 - 5	○ 15 - 5	2	1	2	4位
大阪府立	● 1 - 5	● 1 - 7	△ 0 - 0	○ 5 - 2	-	● 2 - 4	1	1	3	5位
同志社	● 0 - 2	● 3 - 10	● 1 - 8	● 5 - 15	○ 4 - 2	-	1	0	4	6位

★神戸学院大学は4季連続12回目の優勝！★同志社大学は2部に自動降格

2部リーグ戦

2部A	大阪	大阪教育	京都	大阪市立	大阪経済	勝	分	敗	点	順位
大阪	-	○ 7 - 2	○ 6 - 1	○ 2 - 0	○ 10 - 6	4	0	0	12	1位
大阪教育	● 2 - 7	-	○ 6 - 5	○ 5 - 1	○ 7 - 2	3	0	1	9	2位
京都	● 1 - 6	● 5 - 6	-	● 1 - 2	○ 11 - 4	1	0	3	3	3位
大阪市立	● 0 - 2	● 1 - 5	○ 2 - 1	-	● 0 - 6	2	0	2	3	4位
大阪経済	● 6 - 10	● 2 - 7	● 4 - 11	○ 7 - 3	-	1	0	3	3	5位

☆1～2位は得失点差規定により決定。

2部B	大阪体育	四天王寺	龍谷	大阪経法	近畿	勝	分	敗	点	順位
大阪体育		○12-3	○9-6	●7-8	○18-1	3	0	1	9	1位
四天王寺	●3-12		○4-0	○6-1	○7-1	3	0	1	9	2位
龍谷	●6-9	●0-4		○5-0	○8-0	2	0	2	6	3位
大阪経法	○8-7	●1-6	●0-5		△2-2	1	1	2	4	4位
近畿	●1-18	●1-7	●0-8	△2-2		0	1	3	1	5位

☆3～5位は当該チーム間勝ち点規定により決定。

◎2部ブロック決勝 大阪大学6-2大阪体育大学 ☆大阪大学は1部に自動昇格

◎2部最下位決定戦 大阪経済大学9-2近畿大学 ★近畿大学は3部に自動降格

3部リーグ戦

3部A	佛教	関西学院	和歌山	京都学園	勝	分	敗	点	順位
佛教		○9-4	○7-2	●0-7	2	0	1	6	1位
関西学院	●4-9		○11-0	○15-8	2	0	1	6	2位
和歌山	●2-7	●0-11		○5-2	1	0	2	3	3位
京都学園	○7-0	●8-15	●2-5		1	0	2	3	4位

※1～2位、3～4位は該当チーム間勝ち点規定により決定。

3部B	兵庫県立	甲南	流通科学	勝	分	敗	点	順位
兵庫県立		○7-0	○7-0	2	0	0	6	1位
甲南	●0-7		○7-0	1	0	1	3	2位
流通科学	●0-7	●0-7		0	0	2	0	3位

3部C	神戸	兵庫教育	大阪工業	摂南	勝	分	敗	点	順位
神戸		○10-0	○11-0	○7-0	3	0	0	9	1位
兵庫教育	●0-10		○20-4	○7-0	2	0	1	6	2位
大阪工業	●0-11	●4-20		○7-0	1	0	2	3	3位
摂南	●0-7	●0-7	●0-7		0	0	3	0	4位

◎3部ブロック決勝 佛教大学6-2兵庫県立大学 兵庫県立大学3-10神戸大学

佛教大学0-7神戸大学 ☆神戸大学は2部に自動昇格

◎入れ替え戦

1部・2部 大阪府立大学12-0大阪体育大学 ☆大阪府立大学、大阪体育大学は原部に残留

2部・3部 大阪経済大学10-3佛教大学 ☆大阪経済大学、佛教大学は原部に残留

【総評】 昨年の秋も雨に悩まされたリーグ戦であったことを記憶しているが、今リーグ戦はそれ以上の大変な状態となった。関西国際空港に甚大な被害をもたらした台風と大雨は、リーグ戦主会場である「泉南市サザンスタジアム・なみはやグランド」にも襲いかかった。その関係で会場及び日程変更を余儀なくされ、さらに数回による雨天順延もあつたりと、リーグ戦終了は当初予定から約1ヶ月後となった。

そのような状況の中で行われたリーグ戦、1部はほとんどの4年生が引退し新チーム体制による対戦であった。最終的には神戸学院大学が4勝1敗で4季連続12回目の優勝となったが、最後まで上位がもつれる展開であった。また、上位4チームは神戸学院、立命館、関西、京都産業と春リーグと同じ順位となっている。夏の全日本インカレにおける関西チームの芳しくない結果を見るにつけ、1部もっと言うならば関西リーグ全体に活性化が必要と考えるのは私だけだろうか。特に、この上位4チームの来春の新戦力に期待してみたい。

その中で来季に向けて更なる飛躍を期待したいのが、1部5位に踏みとどまった大阪府立大学、

そして2部優勝を果たして1部に昇格する大阪大学である。1部6チームに国公立大学が2チーム入るといえるのは記憶にあまりない。国公立大学の場合は計算できる新戦力の加入というのはほとんどないだろうが、まずは次の春リーグに向けて、1季ごと上位4チームと対戦する中で、確実に力をつけていってほしい。

また、この報告を作成している中で、来季は奈良教育大学と流通科学大学が登録しないだろうという話を耳にした。2チームの撤退は寂しいが、3部チームも互いに刺激し合いながら、リーグ戦を盛り上げていってほしい。

最後に、ここ数年の関西リーグ全体の低迷を脱却する一つの策として、関西リーグ50周年記念事業と銘打って「関西リーグ男子選抜チーム強化遠征」を実施することを決めた。

3月30・31日に平林金属さんのご好意で合同練習、練習試合をしていただくこととなったのである。希望する全加盟チームから1名程度の選手を選んで、2チーム総勢30名で岡山県に向かう。有意義な経験となるよう期待したい。

(理事長 森田啓之)

平成30年度 第50回秋季関西学生ソフトボールリーグ戦（女子）

会期：9月15・16・17・23日、10月7・8・13・14・20・21・28日

会場：武庫川女子大学・大阪大谷大学・大阪青山大学・奈良学園大学・天理大学
四天王寺大学・大阪府立大学

1部リーグ戦成績

チーム	園田学園	大阪大谷	神戸親和	太成学院	奈良学園	大阪青山	龍谷	立命館
園田学園	-	○2-0	○6-2	○8-3	○1-0	○2-1	○7-0	○3-0
大阪大谷	●0-2	-	○5-3	○10-0	○2-0	○1-0	○2-0	●1-2
神戸親和	●2-6	●3-5	-	●1-4	△3-3	○3-1	○3-1	●1-3
太成学院	●3-8	●0-10	○4-1	-	○3-2	●2-3	○5-4	○3-2
奈良学園	●0-1	●0-2	△3-3	●2-3	-	○2-1	○2-0	○7-4
大阪青山	●1-2	●0-1	●1-3	○3-2	●1-2	-	○2-1	●1-4
龍谷	●0-7	●0-2	●1-3	●4-5	●0-2	●1-2	-	○3-2
立命館	●0-3	○2-1	○3-1	●2-3	●4-7	○4-1	●2-3	-

1部最終成績

優勝	園田学園女子大学	(7勝0分0敗)
2位	大阪大谷大学	(5勝0分2敗)
3位	太成学院大学	(4勝0分3敗)
4位	奈良学園大学	(3勝1分3敗)
5位	立命館大学	(3勝0分4敗)
6位	神戸親和女子大学	(2勝1分4敗)
7位	大阪青山大学	(2勝0分5敗)
8位	龍谷大学	(1勝0分6敗)

6位	宮本 咲希	大阪青山大学	0.444
7位	中村 優花	園田学園女子大学	0.423
8位	田中 愛夏	大阪大谷大学	0.412
9位	田中 美涼	大阪大谷大学	0.375
10位	中村 奈央	立命館大学	0.350

投手成績

順位	氏名	大学	防御率
1位	三原 千空	園田学園女子大学	0.00
2位	吉崎奈々海	大阪大谷大学	1.18
3位	有元 茜	神戸親和女子大学	1.37

1部個人表彰

打撃成績

順位	氏名	大学	打率
1位	串崎めぐみ	太成学院大学	0.556
2位	鈴木 麻未	立命館大学	0.538
3位	石川 恭子	園田学園女子大学	0.476
4位	鎌田 七海	奈良学園大学	0.471
5位	林 杏奈	龍谷大学	0.455

ベストプレイ賞

大学	氏名	守備位置
園田学園女子大学	下山 絵理	三塁手
大阪大谷大学	森山 春奈	遊撃手
太成学院大学	岡 真理流	投手
奈良学園大学	山中 美来	投手

立命館大学 日吉野乃子 捕手
 神戸親和女子大学 中西 沙弥 遊撃手
 大阪青山大学 川添 恵 投手
 龍谷大学 林 杏奈 左翼手

盗塁賞：串崎めぐみ 太成学院大学 記録7

ホームラン賞：該当者なし

2部リーグ戦対戦成績

チーム	武庫川	関西	大阪国際	同志社	天理	羽衣国際	勝	分	敗	順位
武庫川	-	○4-0	○2-0	●2-3	●1-3	○5-0	3	0	2	2位
関西	●0-4	-	○2-1	●0-10	○7-0	○5-0	3	0	2	3位
大阪国際	●0-2	●1-2	-	△4-4	●3-9	○5-0	1	1	3	5位
同志社	○3-2	○10-0	△4-4	-	○8-0	○6-0	4	1	0	1位
天理	○3-1	●0-7	○9-3	●0-8	-	○6-4	3	0	2	4位
羽衣国際	●0-5	●0-5	●0-5	●0-6	●4-6	-	0	0	5	6位

※2～4位は、当該チームでの失点差により順位決定。

2部個人表彰

打撃成績

順位	氏名	大学	打率
1位	前田 玲央	武庫川女子大学	0.500
1位	鎌塚 玲美	関西大学	0.500
3位	上川 奏	天理大学	0.429
4位	橋本 芽衣	同志社大学	0.400
5位	田平 優佳	関西大学	0.385
5位	石橋 美奈	関西大学	0.385
7位	小森菜穂美	大阪国際大学	0.357
7位	福元 美紗	武庫川女子大学	0.357
9位	岩本 成未	同志社大学	0.333
9位	吉井穂乃佳	羽衣国際大学	0.333
9位	奥村 愛梨	大阪国際大学	0.333
9位	山元麻莉絵	関西大学	0.333
9位	辻 楓	関西大学	0.333

投手成績

順位	氏名	大学	防御率
1位	脇山 朱音	武庫川女子大学	0.37
2位	石橋 未奈	関西大学	1.00
3位	石川 千尋	大阪国際大学	1.08

ベストプレイ賞

大学	氏名	守備位置
同志社大学	石川 妃悠	二塁手
武庫川女子大学	後藤 愛佳	一塁手
関西大学	山元麻莉絵	中堅手
天理大学	米原 千尋	遊撃手
大阪国際大学	前田 佳穂	三塁手
羽衣国際大学	吉井穂乃佳	右翼手

盗塁賞：橋本 芽衣 同志社大学 記録4

ホームラン賞：該当者なし

3部Aリーグ対戦成績表

チーム	京都産業	大阪体育	兵庫教育	びわこ	経済・京学	大阪教育	勝	分	敗	順位
京都産業	-	●0-7	○9-1	●0-8	○6-3	○7-0	3	0	2	3位
大阪体育	○7-0	-	○14-0	○2-1	○17-0	○17-2	5	0	0	1位
兵庫教育	●1-9	●0-14	-	●0-12	○7-6	○16-2	2	0	3	4位
びわこ	○8-0	●1-2	○12-0	-	○16-1	○16-0	4	0	1	2位
経済・京学	●3-6	●0-17	●6-7	●1-16	-	△3-3	0	1	4	5位
大阪教育	●0-7	●2-17	●2-16	●0-16	△3-3	-	0	1	4	6位

※5・6位は、総失点差により順位決定。

3部Bリーグ対戦成績表

チーム	大阪府立	四天・摂南	佛 教	京都女子	大阪産業	勝	分	敗	順位
大阪府立	-	●2-9	○7-0	●5-6	○10-8	2	0	2	9位
四天・摂南	○9-2	-	○12-1	○3-1	○8-0	4	0	0	7位
佛 教	●0-7	●1-12	-	●0-7	●0-7	0	0	4	11位
京都女子	○6-5	●1-3	○7-0	-	○7-0	2	0	2	8位
大阪産業	●8-10	●0-8	○7-0	●0-7	-	1	0	3	10位

3部個人表彰

打撃成績

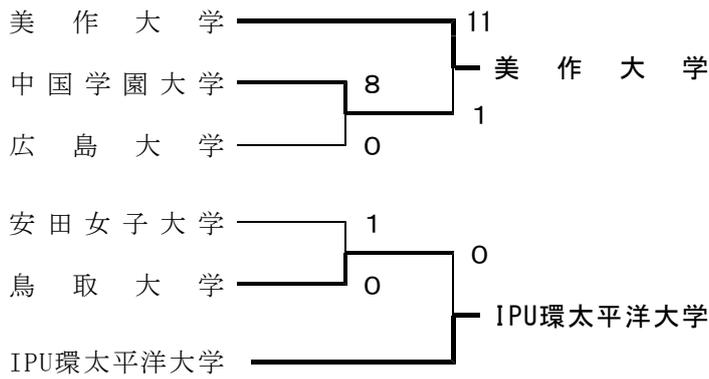
順位	氏名	大学	打率
1位	大江佳奈子	大阪府立大学	0.636
1位	松下 桃奈	びわこ成蹊スポーツ大学	0.636
3位	中田 真帆	びわこ成蹊スポーツ大学	0.600
4位	米川 千尋	びわこ成蹊スポーツ大学	0.500
4位	石井はるか	大阪体育大学	0.500
6位	山下 春香	大阪産業大学	0.461
7位	楠野 愛紗	大阪体育大学	0.454
8位	坂口芙里菜	大阪教育大学	0.428
9位	高山侑菜子	大阪体育大学	0.400
9位	吉岡 麗	京都女子大学	0.400
9位	児玉菜奈美	びわこ成蹊スポーツ大学	0.400
9位	山田 智香	大阪経済法科大学	0.400

投手成績

順位	氏名	大学	防御率
1位	荒川 花涼	びわこ成蹊スポーツ大学	0.50
2位	下山 真由	京都産業大学	3.82
3位	松本 優花	京都女子大学	5.25

ベストプレー賞

大学	氏名	守備位置
大阪体育大学	池本 果歩	二塁手
びわこ成蹊スポーツ大学	荒川 花涼	投手
京都産業大学	下村 真由	投手
兵庫教育大学	富田 杏	二塁手
大阪経済法科・京都学園大学		
	山田 智香	投手
大阪教育大学	難波 芽衣	中堅手
四天王寺・摂南大学	本田真理子	投手



全日本大学選手権大会出場権獲得大学：
IPU環太平洋大学(12年連続12回目)・
美作大学(5年連続5回目)・

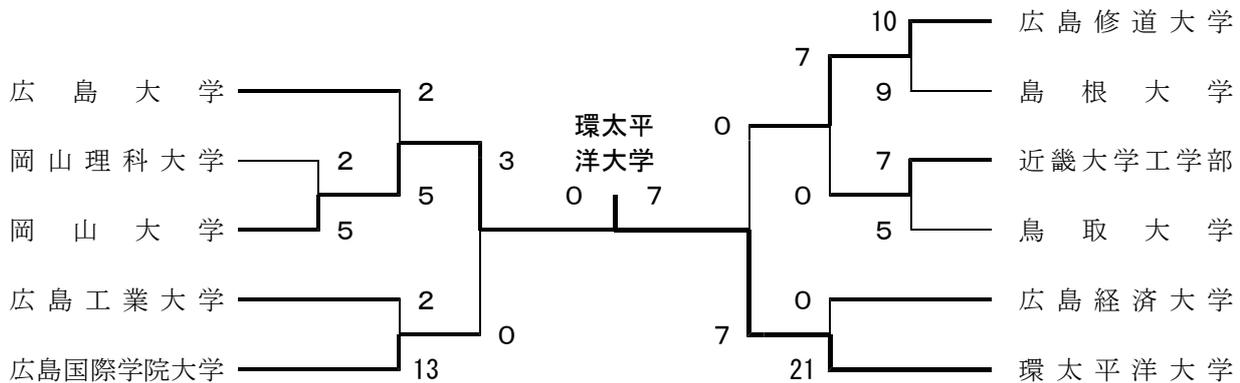
西日本大学選手権大会出場権獲得大学：
上記2校に加えて中国学園大学・鳥取大学

第18回 中国地区大学ソフトボール選手権大会

会期：11月3日・4日

会場：岡山県赤磐市／B&G海洋センター

【男子】



【男子個人賞】最優秀選手賞：吉永 文太（環太平洋大学） 優秀選手賞：仲田 悠人（岡山大学）

【女子】

チーム	環太平洋	美作	広島	広島修道	鳥取	勝	分	敗	勝点	順位
環太平洋	-	● 4-10	○ 6-0	○ 4-0	○ 30-0	3	0	1	6	2位
美作	○ 10-4	-	○ 8-1	○ 7-0	○ 8-1	4	0	0	6	1位
広島	● 0-6	● 1-8	-	● 4-10	○ 5-2	1	0	3	3	4位
広島修道	● 0-4	● 0-7	○ 10-4	-	● 2-3	1	0	3	3	3位
鳥取	● 3-30	● 1-8	● 2-5	○ 3-2	-	1	0	3	3	5位

※順位は、勝ち点、直接対決、得失点差で決定。

【女子個人賞】最優秀選手：本田 紗菜（美作大学） 優秀選手：武田 彩香（IPU・環太平洋大学）

【四国地区】平成30年度四国地区大学(男子)ソフトボール春季大会

会期：4月21日(土)・22日(日)

会場：徳島県徳島市／吉野川北岸ソフトボール場

男子	松 山	香 川	徳 島	高知工科	勝	分	敗	得失点差	順 位
松 山	○	●15-17	●1-14	△1-1	0	1	2	-15	4位
香 川	○17-15	○	△5-5	●2-5	1	1	1	-1	3位
徳 島	○14-1	△5-5	○	●0-1	1	1	1	12	2位
高知工科	△1-1	○5-2	○1-0	○	2	1	0	4	1位

会期：4月15日(土)・16日(日)

会場：徳島県徳島市／吉野川北岸ソフトボール場

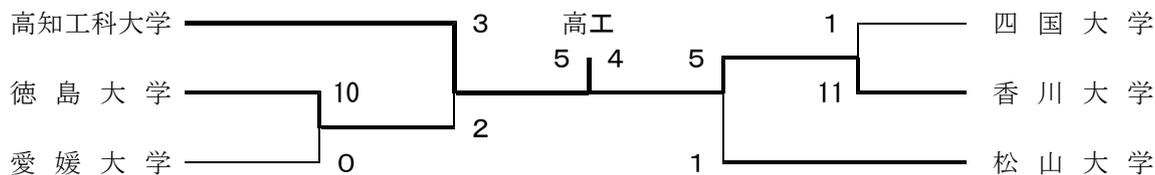
男子	高知工科	徳 島	松 山	香 川	愛 媛	勝	分	敗	順 位
高知工科	○	○3-0	○7-0	●0-1	○9-0	3	0	1	2位
徳 島	●0-3	○	●3-10	●2-9	●4-11	0	0	4	5位
松 山	●0-7	○10-3	○	●4-8	○3-0	2	0	2	3位
香 川	○1-0	○9-2	○8-4	○	○6-4	0	0	5	1位
愛 媛	●0-9	○11-4	●0-3	●4-6	○	1	0	3	4位

第53回 全日本大学(男・女)ソフトボール選手権大会四国予選会
 一兼、第50回西日本大学ソフトボール選手権大会四国予選会一

会期：5月19日(土)・20日(日)

会場：香川県坂出市／総社グラウンド

【男子】



3位決定戦：徳島大学 10-3 松山大学

全日本大学選手権出場権獲得校：高知工科大学（4年連続6回目）・香川大学（2年ぶり15回目）・
 西日本大学選手権出場権獲得校：高知工科大学・香川大学・徳島大学

【女子】

チーム	環太	香川	四国	勝	敗	順位
環太平洋大学短期大学部	—	○ 15-0	○ 15-0	2	0	1位
香川大学	● 0-15	—	● 5-10	0	2	3位
四国大学	● 0-15	○ 10-5	—	1	1	3位

全日本大学選手権出場権獲得校：

環太平洋大学短期大学部(21年連続21回目)

西日本大学選手権出場権獲得校：

環太平洋大学短期大学部、四国大学

平成30年度 四国地区大学(男・女)ソフトボール秋季大会

会期：10月6日(土)・7日(日)

会場：香川県坂出市／総社グラウンド

【男子】

チーム	愛媛	香川	徳島	四国	高知工科	勝	分	敗	順位
愛媛	—	● 2-17	● 0-7	● 4-11	● 2-9	0	0	4	5位
香川	○ 17-2	—	● 0-3	○ 11-8	● 0-7	2	0	2	3位
徳島	○ 7-0	○ 3-0	—	○ 15-6	● 2-3	3	0	1	2位
四国	○ 11-4	● 8-11	● 6-15	—	● 3-13	1	0	3	4位
高知工科	○ 9-2	○ 7-0	○ 3-2	○ 13-3	—	4	0	0	1位

【女子】

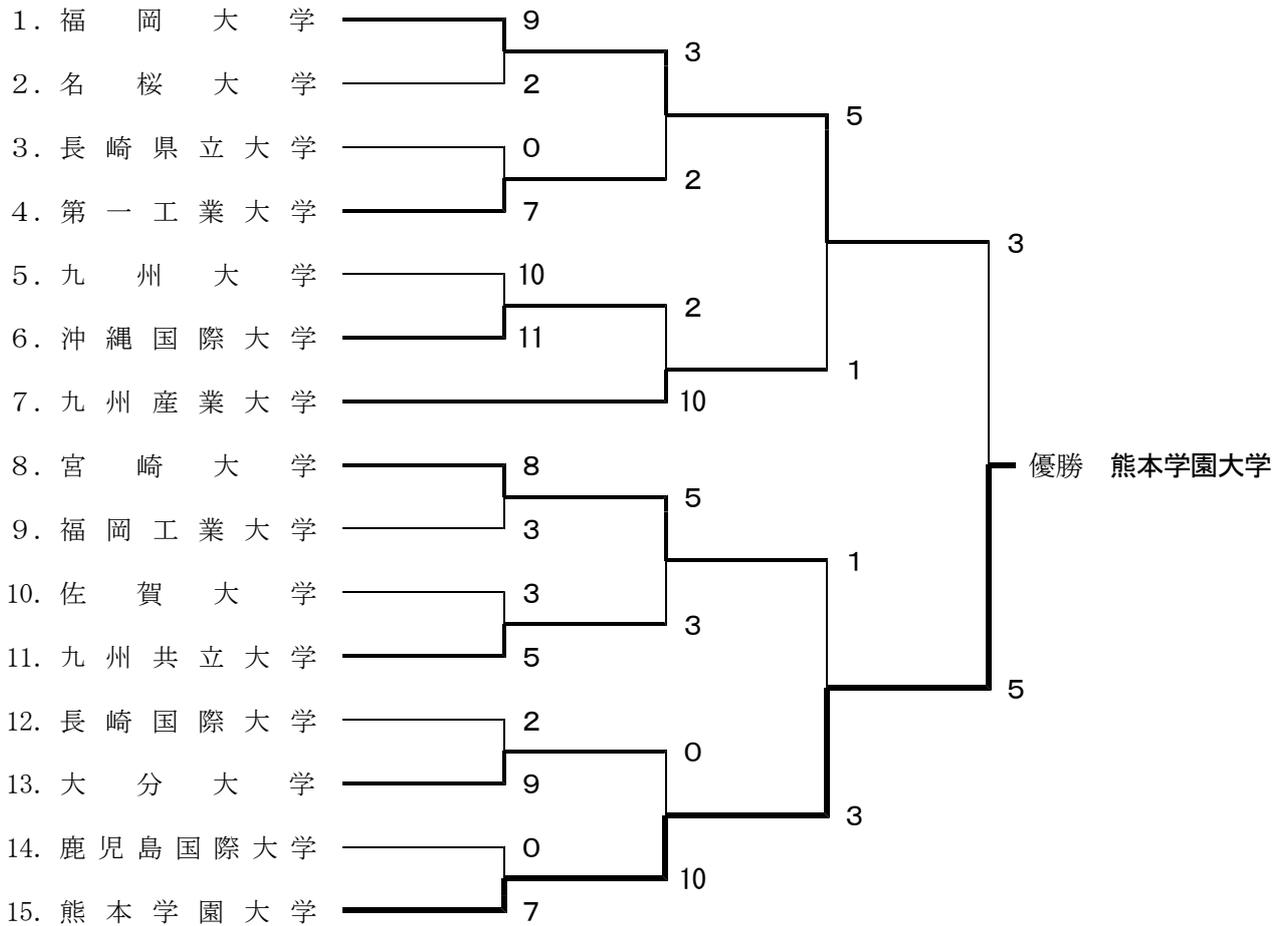
チーム	香川	四国	I P U	勝	分	敗	順位
環太平洋短大	—	○ 12-0	○ 11-1	2	0	0	1位
香川	● 0-12	—	● 0-16	0	0	2	3位
四国	● 1-11	○ 16-0	—	1	0	1	2位

【九州地区】第37回九州地区大学（男子・女子）ソフトボール春季大会
 （兼、第53回全日本大学（男子・女子）ソフトボール選手権大会予選会）

会期：5月18日（金）～20日（日）

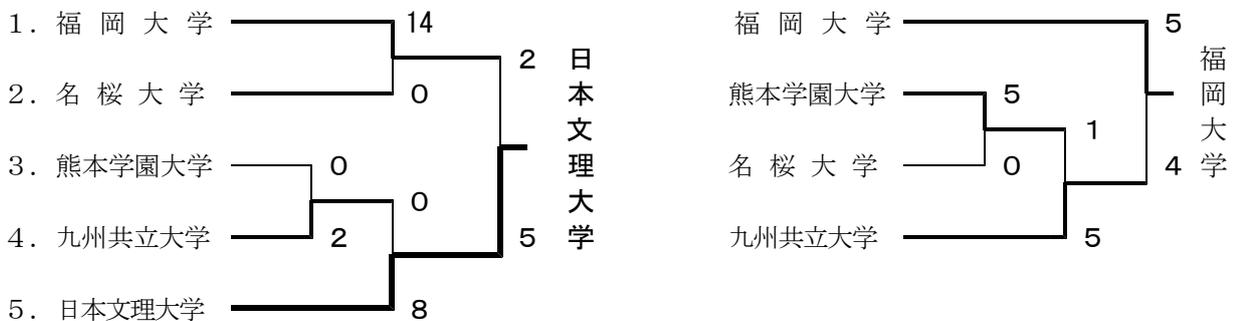
会場：鹿児島県南九州市知覧町／平和公園多目的球場 他

【男子】



※第53回全日本大学選手権大会出場校：熊本学園大学・福岡大学
 九州産業大学・宮崎大学

【女子】



※第53回全日本大学選手権大会出場校：日本文理大学
 福岡大学は北信越地区2位との決定戦へ

第18回 九州地区大学男子ソフトボール秋季大会

会期：11月10日(土)～11日(日)

会場：鹿児島県南九州市知覧町／平和公園多目的球場 他

【男子】

Aグループ

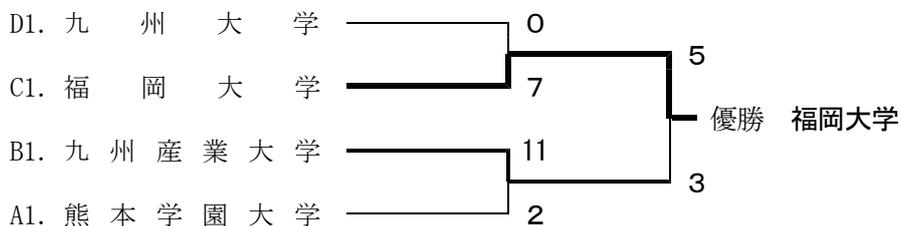


Cグループ

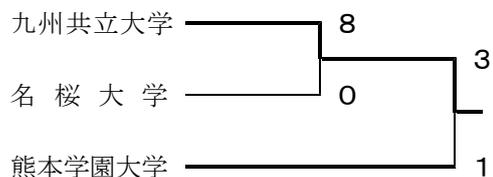
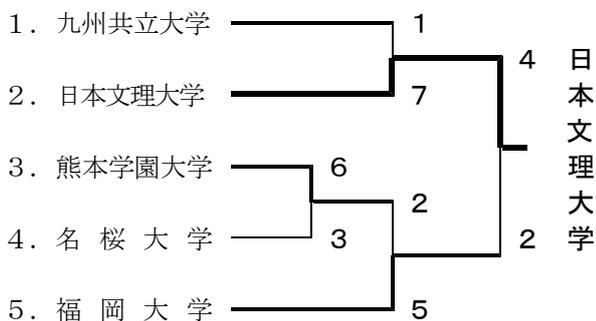


Bグループ	沖縄国際	長崎国際	九州産業	順
沖縄国際		● 4-8	● 0-14	3
長崎国際	○ 8-4		● 1-8	2
九州産業	○ 14-0	○ 8-1		1

Dグループ	大分	九州	宮崎	順
大分		● 0-2	○ 8-0	2
九州	○ 2-0		○ 5-2	1
宮崎	● 0-8	● 2-5		3



【女子】



機関誌ウインドミルの原稿並びに研究企画などの募集

来年度以降も、内容をいっそう充実・発展させていくために、どしどし原稿をお願いします。論説、提言から研究報告、あるいは情報の提供に至るまで、多様なものを期待しています。とともに、こんな研究内容や企画をしてほしい！というようなものがあれば、併せて連絡をくださいますようお願いいたします。特に学生の皆さんから。なお、毎年11月末日が原稿の〆切となりますが、随時受付しておりますので、下記までお問い合わせください。

森 田 啓 之

〒673-1494 兵庫県加東郡社町下久米942-1 兵庫教育大学

TEL&FAX：(0795)44-2227

E-mail:hmorita@hyogo-u.ac.jp

【調査研究部会】

投 稿 規 程

平成11年7月30日交付

1. 投稿資格

原稿を投稿できる者は、全日本大学ソフトボール連盟に登録された者（理事、監督、コーチ、選手等）に限る。調査・研究委員会が特に必要と認めた者については、この限りではない。

2. 投稿内容

内容はソフトボールに関したものとし、巻頭言、提言、総説、論文（含、抄録）、実践研究、事例報告、卒・修論、その他などとする。原稿は、原則として一編につき本誌4ページ以内（巻頭言、提言の場合は1ページ以内）とするが、調査・研究委員会が必要と認めた場合はこの限りで

はない。なお、未刊行のものが望ましいが、既刊のものであってもよい。

3. 投稿原稿の審査

原則として投稿されたものはすべて受理・採択する。

なお、書式等に問題がある場合は、調査・研究委員会名で修正を求める場合がある。

4. 原稿の提出

原稿は所定の執筆要項に準拠して作成し、総説、論文などの別を指定して、調査・研究委員会へ書留郵便で送付する。投稿の締め切りは特に設けないが、毎年11月30日で区切るものとする。

執 筆

原稿の執筆にあたっては、以下の事項を厳守されたい。

投稿原稿をそのままオフセット印刷するので、原稿を作成する場合は、A4版縦置き横書き、本文は全角22字×40行の2段組（上下余白20mm・左

要 項

右余白20mm・段間10mm）、文字サイズは10ポイント・和文フォントは明朝体を基本とする。ワープロソフトは、「Word」もしくは「一太郎」とし（「Excel」は認められない。）、CD-Rなどのメディアとともに提出すること。

平成30・31年度
全日本大学ソフトボール連盟役員名簿

職名	氏名	所属	氏名	所属
会長	中野元	熊本学園大学	—	
副会長	丸山悟	日本福祉大学	高橋伸次	高崎経済大学
	住吉廣行	松本大学	—	
顧問	角田真一郎	早稲田大学名誉教授	水野信義	WSM教育研究所
	斎藤滋雄	学習院大学名誉教授	大内敬哉	中京大学名誉教授
	中野紀明	国土舘大学名誉教授	末井健作	兵庫県立大学名誉教授
	武藤幸政	城西大学名誉教授	小嶋高良	八戸工業大学名誉教授
理事長	久保田豊司	大阪国際大学	—	
副理事長	岩間英明	松本大学	清水正	山梨学院大学
常任理事	森田啓之	兵庫教育大学（事務局長）hmorita@hyogo-u.ac.jp		
	舟山健一	東北福祉大学	柳田信也	東京理科大学
	高橋流星	日本体育大学	二瓶雄樹	中京大学
	西村信紀	環太平洋大学	伊勢幸広	高知工科大学
	濱貴一	熊本学園大学	—	
理事	大塚健樹	盛岡大学	高橋知美	富士大学
	長澤淑恵	城西大学	高橋光平	城西国際大学
	増淵まり子	淑徳大学	近藤弘康	長岡大学
	筒井崇護	日本体育大学	佐藤理恵	東京女子体育大学
	松井慎一	国土舘大学	川崎千明	岐阜経済大学
	大矢隆二	常葉大学	東美幸	東海学園大学

理事	和田正志	中京学院大学	板谷昭彦	園田学園女子大学
	鈴木正明	四天王寺大学	児玉公正	大阪大谷大学
	辻井美恵子	びわこ成蹊スポーツ大学	土谷文乃	美作大学学
	竹下俊一	第一工業大学	吉末和也	関西大学
	水谷博	至学館大学名誉教授	富田国興	(広島修道大学)
評議員	森英寿	富士大学	金井塚和希	高崎経済大学
	田浦定一	清和大学	多田邦宏	金沢学院大学
	林弓美	日本体育大学	萱野貴広	静岡大学
	宮澤千尋	南山大学	古宇田佳愛	日本福祉大学
	但尾哲哉	神戸親和女子大学	大島新司	大阪工業大学
	服部イツ子	大阪青山大学	小林朝子	羽衣国際大学
	河内満	広島修道大学	宮尾直美	環太平洋短期大学
	山中卓	鹿児島国際大学	井上博司	熊本学園大学
	長澤桂子	日本文理大学	—	
監事	細田きみ子	東京女子体育大学	平野義明	関西大学
事務局	〒570-855 大阪府守口市藤田町6-21-57 大阪国際大学 kubota@oiu.ac.jp			
学生委員長	末吉紗希	日本体育大学	※学生委員は30年度のみ	
学生副委員長	小林勇斗	東京理科大学	浦山葉月	日本体育大学
学生委員	日下真希	山梨学院大学	田代航太	日本体育大学
	新堀潮	早稲田大学	鈴木真帆	東京女子体育大学
	太田和希	中京大学	久保潤平	関西大学
	泉元一喜	関西大学	荻真子	園田学園女子大学
	東愛莉	園田学園女子大学	園部真理茶	園田学園女子大学

平成30年度 男子加盟大学一覧		
全日本大学ソフトボール連盟		
地 区	数	加 盟 大 学 名
北海道・東北	9	仙台大学 東北大学 日本大学工学部 八戸工業大学 弘前大学 福島大学 北海道大学 宮城教育大学 盛岡大学
関 東	18	茨城大学 関東学園大学 国際武道大学 埼玉大学 芝浦工業大学 城西大学 高崎経済大学 千葉大学 筑波大学 中央学院大学 都留文科大学 東海大学 東京国際大学 東京理科大学 日本大学生物資源科学部 日本大学生産工学部 文教大学 山梨学院大学
北 信 越	7	金沢大学 信州大学 諏訪東京理科大学 富山大学 長岡大学 福井大学 福井県立大学
東 京	19	桜美林大学 学習院大学 慶應義塾大学 国士舘大学 専修大学 成蹊大学 中央大学 帝京大学 東京大学 東京学芸大学 東京農業大学 東洋大学 日本大学 日本体育大学 文教大学湘南 明治大学 明星大学 立教大学 早稲田大学
東 海	15	愛知大学 愛知学院大学 愛知教育大学 岐阜聖徳学園大学 静岡大学 中京大学 中京学院大学 中部大学 東海学園大学 常葉大学 名古屋大学 名古屋商科大学 南山大学 日本福祉大学 名城大学
近 畿	29	大阪大学 大阪経済大学 大阪経済法科大学 大阪工業大学 大阪産業大学 大阪市立大学 大阪教育大学 大阪体育大学 大阪府立大学 関西大学 関西学院大学 京都大学 京都学園大学 京都産業大学 近畿大学 神戸大学 神戸学院大学 甲南大学 四天王寺大学 摂南大学 同志社大学 奈良教育大学 兵庫教育大学 兵庫県立大学 佛教大学 立命館大学 龍谷大学 流通科学大学 和歌山大学
中 国	11	岡山大学 岡山理科大学 環太平洋大学 近畿大学工学部 島根大学 鳥取大学 広島大学 広島経済大学 広島工業大学 広島修道大学 広島国際大学
四 国	6	愛媛大学 香川大学 高知工科大学 四国大学 徳島大学 松山大学
九 州	15	大分大学 沖縄国際大学 鹿児島国際大学 九州大学 九州共立大学 九州産 業大学 熊本学園大学 佐賀大学 第一工業大学 長崎県立大学 長崎国際大学 福岡大学 福岡工業大学 宮崎大学 名桜大学

平成30年度 女子加盟大学一覧

全日本大学ソフトボール連盟

地 区	数	加 盟 大 学 名
北海道・東北	7	仙台大学 東北福祉大学 弘前大学 富士大学 北翔大学 宮城教育大学 宮城学院女子大学
関 東	20	茨城大学 関東学園大学 国際武道大学 埼玉大学 相模女子大学 淑徳大学 順天堂大学 城西大学 城西国際大学 清和大学 千葉大学 中央学院大学 筑波大学 東海大学 東京国際大学 日本大学生物資源科学部 新島学園短期大学 白鷗大学 文教大学 山梨学院大学
北 信 越	6	金沢大学 金沢学院大学 信州大学 富山大学 新潟医療福祉大学 松本大学
東 京	17	桜美林大学 学習院大学 慶應義塾大学 国士舘大学 実践女子大学 専修大学 成蹊大学 中央大学 東京学芸大学 東京女子体育大学 東京富士大学 東洋大学 日本大学 日本女子体育大学 日本体育大学 明治大学 早稲田大学
東 海	13	愛知教育大学 岐阜経済大学 岐阜聖徳学園大学 至学館大学 静岡大学 星城大学 中京大学 中京学院大学 中部学院大学 東海学園大学 常葉大学 名古屋大学 日本福祉大学
近 畿	27	大阪青山大学 大阪大谷大学 大阪教育大学 大阪経済法科大学 大阪国際大学 大阪産業大学 大阪体育大学 大阪府立大学 関西大学 京都学園大学 京都女子大学 京都産業大学 神戸親和女子大学 四天王寺大学 摂南大学 園田学園女子大学 太成学院大学 天理大学 同志社大学 奈良学園大学 兵庫教育大学 羽衣国際大学 びわこ成蹊スポーツ大学 佛教大学 武庫川女子大学 立命館大学 龍谷大学
中 国	7	環太平洋大学 中国学園大学 鳥取大学 広島大学 広島修道大学 美作大学 安田女子大学
四 国	3	環太平洋大学短期大学 香川大学 四国大学
九 州	5	九州共立大学 熊本学園大学 日本文理大学 福岡大学 名桜大学
男 子	129大学	2,581名
女 子	105大学	2,313名
合 計	234大学	4,894名

平成30年12月25日現在

全日本大学ソフトボール連盟機関誌 **ウインドミル** 第22号

2019年3月15日発行

発行者 全日本大学ソフトボール連盟会長 中野 元

編集責任者 広報記録部長 水谷 博

E-mail : mztn@xd6.so-net.ne.jp

発行所 全日本大学ソフトボール連盟

〒570-8555 大阪府守口市藤田町6-21-57 大阪国際大学守口キャンパス

URL : www001.upp.so-net.ne.jp/ajc-softball/

E-mail : kubota@oiu.ac.jp

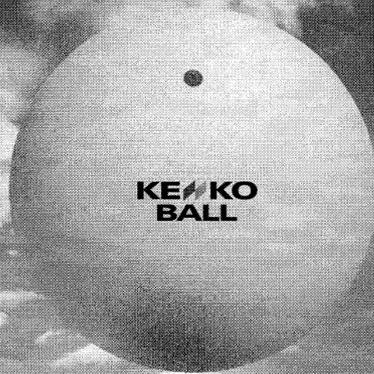
印刷 西濃印刷(株)

〒500-8074 岐阜市七軒町15番地

感動！ サプライヤー ケンコーボール



(公財)全日本軟式野球連盟公認球
ケンコーボール



(公財)日本ソフトテニス連盟公認球
ケンコーソフトテニスボール



(公財)日本ソフトボール協会検定球
ケンコーソフトボール

一九三四年創業以来七〇年以上にわたり 一心にボールを作り続けてまいりました
これからもスポーツライフに相応しい自信作をお届けしていきます

「ボールのロゴマークカラーはイメージ
実際の商品とは異なります」

KENKO BALL

ケンコーボール

ナガセケンコー株式会社 www.nagase-kenko.com

[東京本社] TEL(03)3614-3501(代) [大阪営業所] TEL(06)6531-0783(代) [九州営業所] TEL(092)471-5381(代) [名古屋営業所] TEL(052)734-8886

想いを込める一球がある。



NAIGAI SOFTBALL

(財)日本ソフトボール協会検定球 検定1号・2号・3号・皮製3号・14インチ



NAIGAI BASEBALL

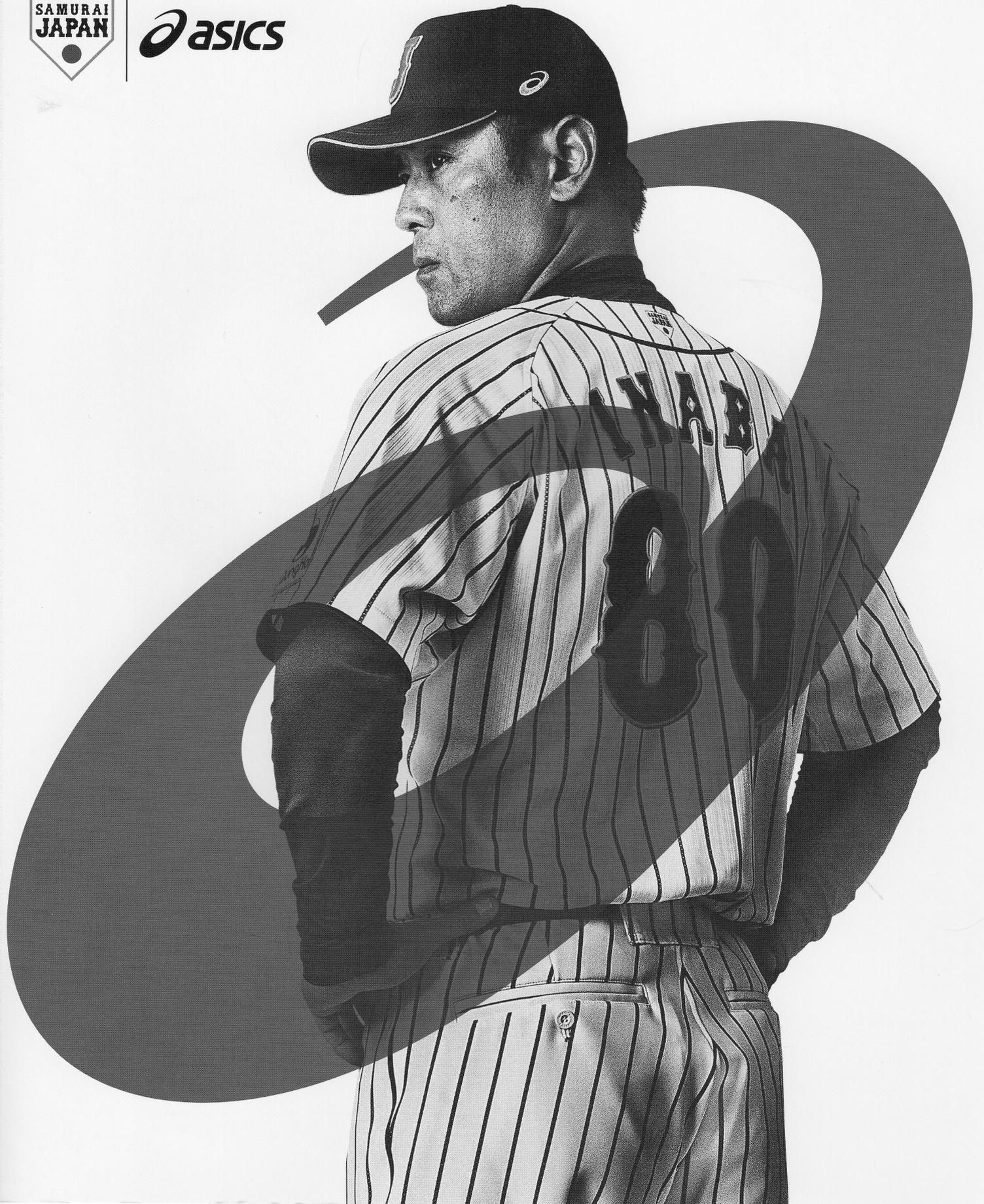
(財)全日本軟式野球連盟公認球 A号・B号・C号・D号・H号

内外ゴム株式会社

進め、アシックスは
サムライ。応援する。



asics





ウインドミル NO. 22 (2018)

ISSN 1343-439 X